

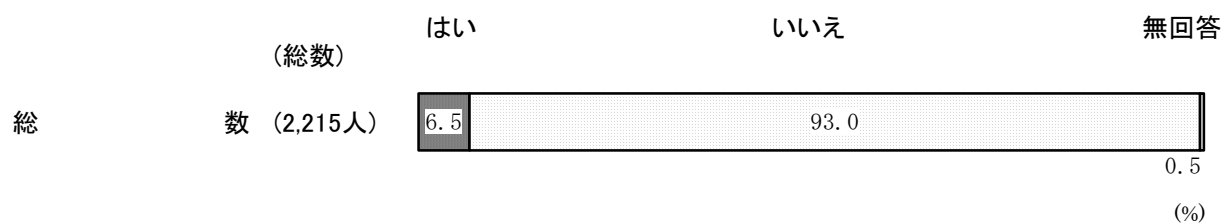
## Ⅱ 調査結果の概要

(郵送調査用)

# 1 あなたご自身のことについて

## (1) 自分自身のがんの経験の有無

問1-4 あなたは、がんを経験されたことはありますか。(〇は1つ)



がんの経験があるかをきいたところ、「はい」が6.5%となっている。

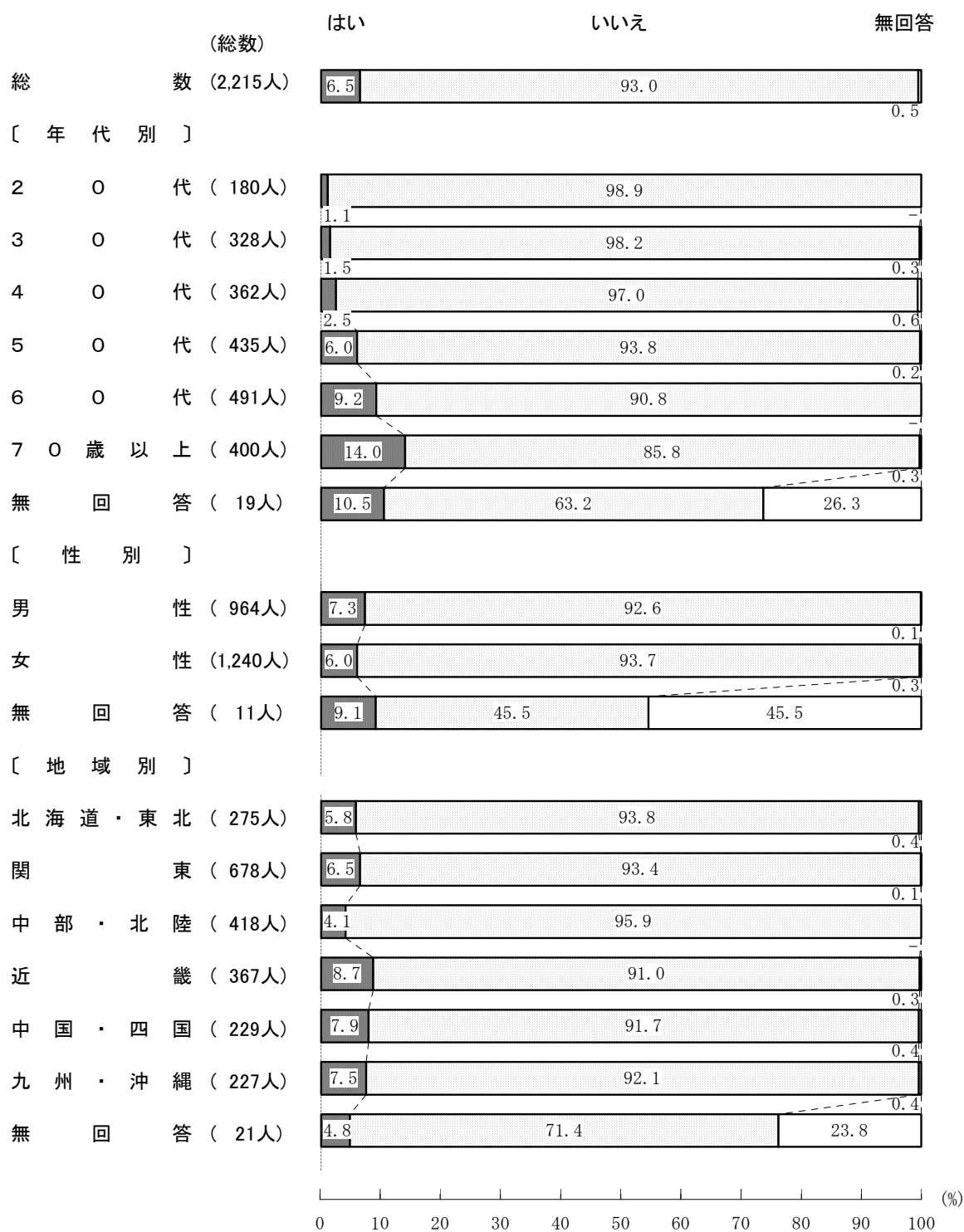
年代別にみると、年代が高くなるほど、「はい」の割合が高くなる傾向が見られ、60代(9.2%)、70歳以上(14.0%)で高くなっている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「はい」が中部・北陸(4.1%)でやや低くなっている。

<図1-4>

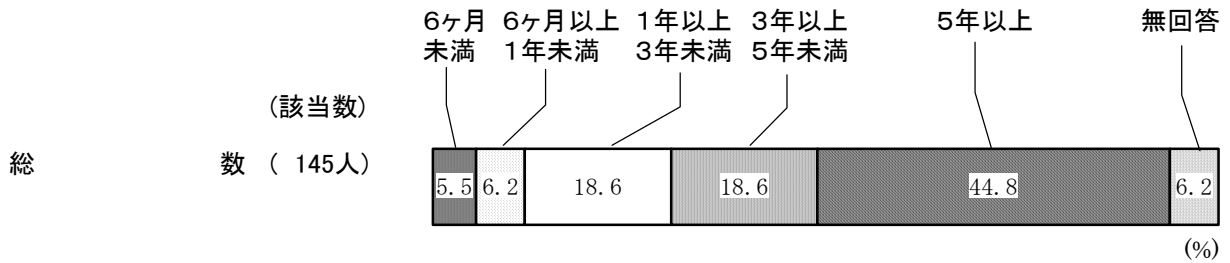
図1-4 自分自身のがんの経験の有無



(1) - 1 一番最初にがんと診断された時期

問1-4 補問1 (問1-4で1「はい」をお選びの方に)

一番最初に、がんと診断されたのは今からどの位前になりますか。(○は1つ)



がんの経験があると答えた者(145人)に、一番最初にがんと診断されたのは今からどの位前になるかをきいたところ、「6ヶ月未満」(5.5%)と「6ヶ月以上1年未満」(6.2%)を合わせた“1年未満”が(11.7%)1割強となっている。「1年以上3年未満」が18.6%、「3年以上5年未満」が18.6%、「5年以上」が44.8%となっている。

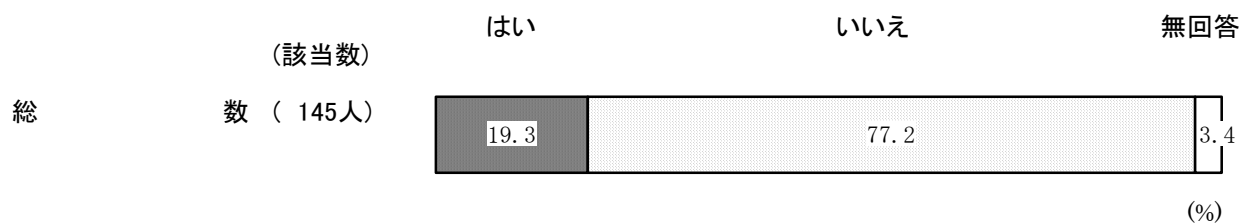
※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

(1) - 2 がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問1-4 補問2 (問1-4で1「はい」をお選びの方に)

あなたは、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。

(○は1つ)

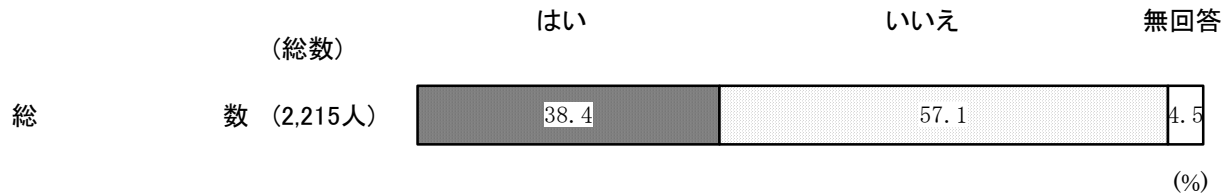


がんの経験があると答えた者(145人)に、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が19.3%、「いいえ」が77.2%となっている。

※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

## (2) 現在の通院状況

問1-5 あなたは、現在、がん以外の何らかの病気で病院や診療所に通院していますか。  
(○は1つ)



現在、がん以外の何らかの病気で通院しているかをきいたところ、「はい」が38.4%、「いいえ」が57.1%となっている。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「はい」の割合が高くなる傾向が見られ、60代(56.0%)、70歳以上(64.5%)で過半数を占めている。

性別では差はみられない。

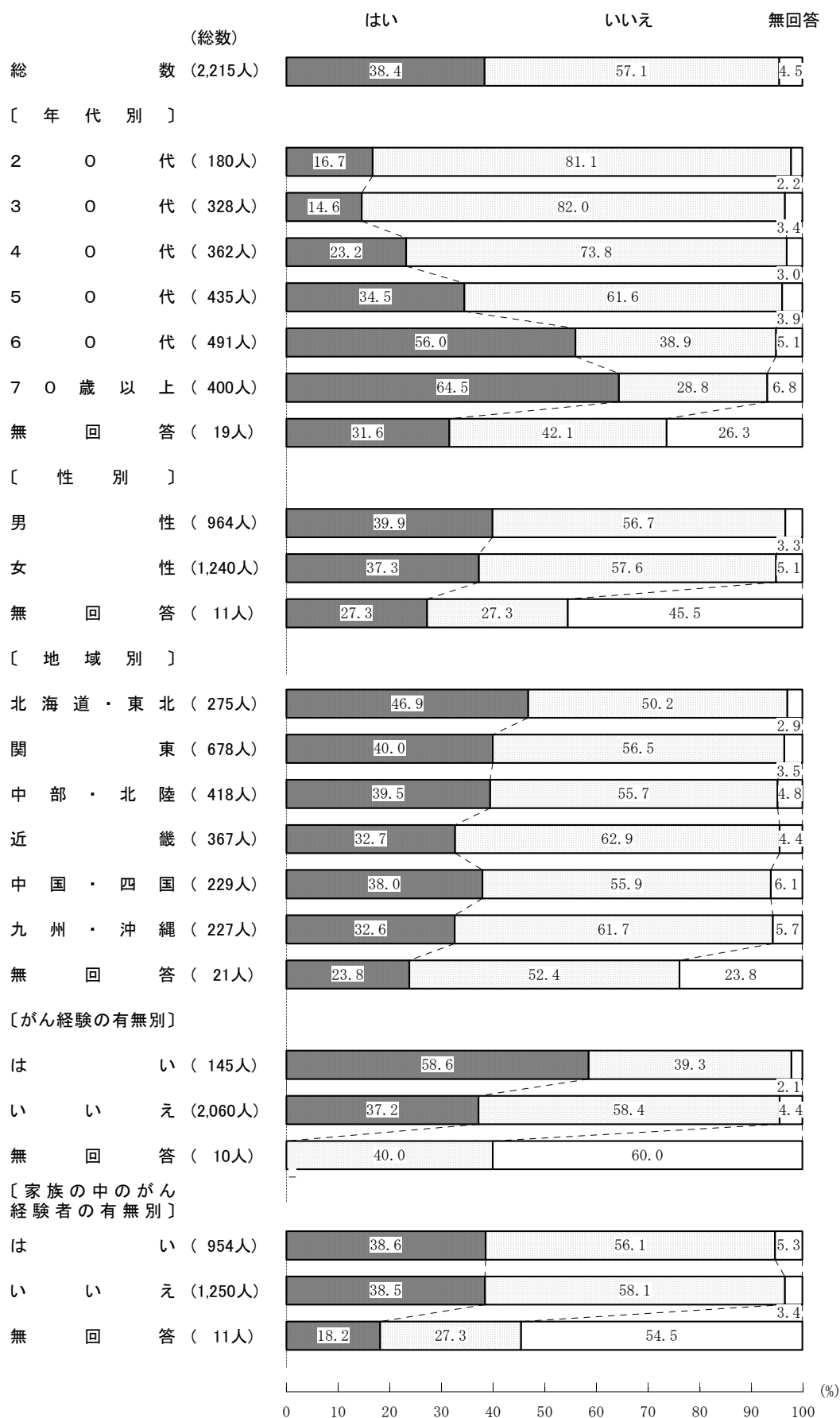
地域別にみると、「はい」が北海道・東北(46.9%)で最も高く、近畿(32.7%)と九州・沖縄(32.6%)で最も低くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」(58.6%)が過半数となっている。

家族の中のがん経験者では差はみられない。

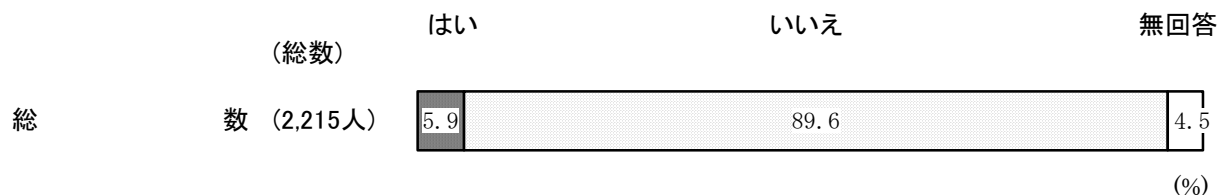
<図1-5>

図 1-5 現在の通院状況



(3) 医療職・非医療職別

問1-6 あなたは、現在、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師などの医療職に就いておられますか。(〇は1つ)



現在、医療職（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）に就いているかをきいたところ、「はい」が5.9%である。

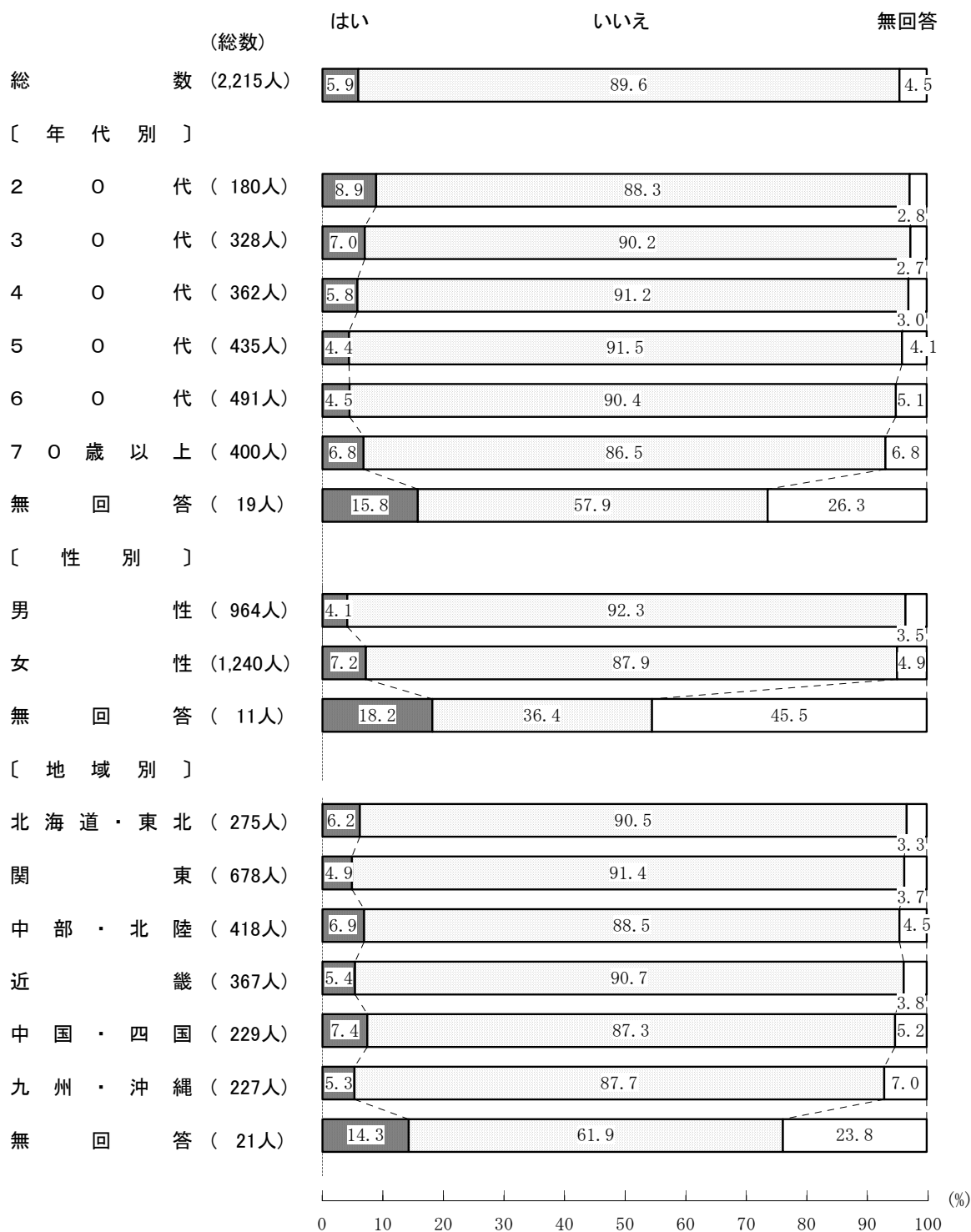
「はい」の割合は、年代別では大きな差はみられないが、性別にみると、女性（7.2%）が男性（4.1%）を3.1ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

< 図1-6 >



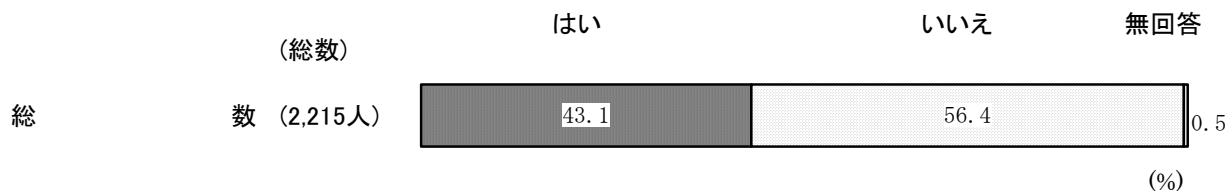
図 1 - 6 医療職・非医療職別



## 2 あなたのご家族について

### (1) 家族の中のがん経験者の有無

問2-1 あなたのご家族の中で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。(〇は1つ)



家族の中のがんの経験者がいるかをきいたところ、「はい」が43.1%、「いいえ」が56.4%となっている。

年代別にみると、「はい」が50代(48.3%)でやや高くなっている。

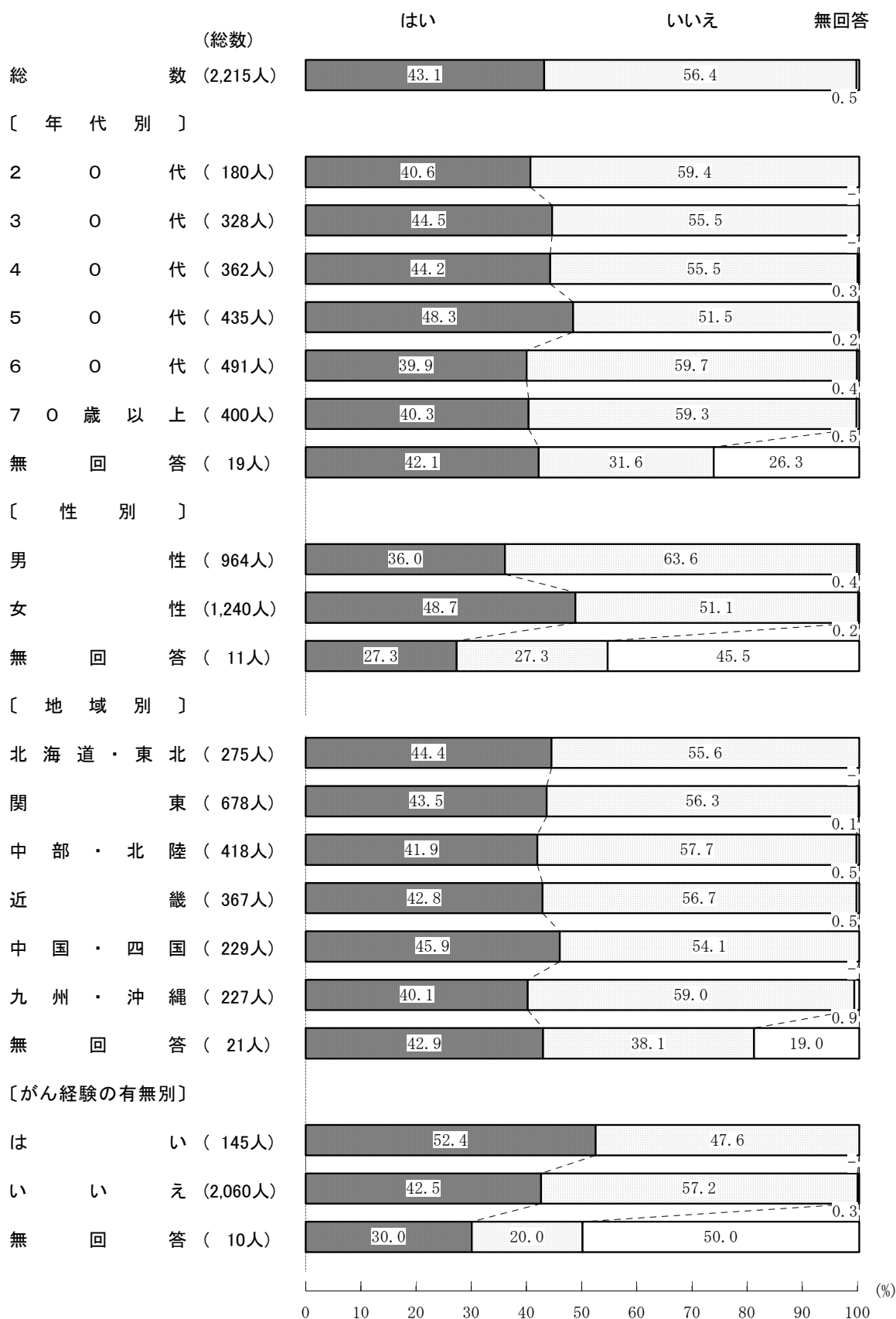
性別にみると、「はい」は女性(48.7%)が男性(36.0%)より12.7ポイント高くなっている。

地域別では差はみられない。

がん経験者に限定してみると、「はい」が52.4%とほぼ半数を占めている。

<図2-1>

図 2 - 1 家族の中のがん経験者の有無

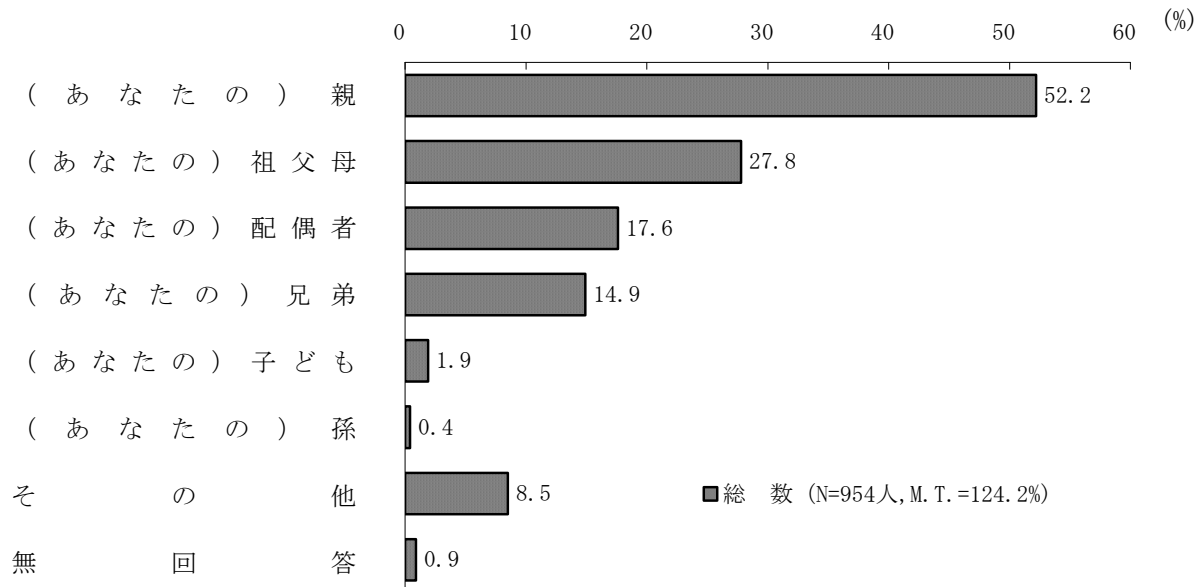


(1) - 1 家族の中のがん経験者との関係

問2-1 補問1 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。

(〇はいくつでも)



家族の中のがんの経験者がいると答えた者(954人)に、その人との関係をきいたところ、「(あなたの)親」が52.2%と最も高く、以下、「(あなたの)祖父母」(27.8%)、「(あなたの)配偶者」(17.6%)、「(あなたの)兄弟」(14.9%)、「(あなたの)子ども」(1.9%)、「(あなたの)孫」(0.4%)の順となっている。

年代別にみると、「親」が40代(70.6%)、50代(66.7%)で、「祖父母」が20代(75.3%)、30代(59.6%)で、「配偶者」が70歳以上(51.6%)で、「兄弟」が60代(29.6%)、70歳以上(27.3%)で、それぞれ高くなっている。

性別、地域別ともに差はみられない。

<表2-1-1>

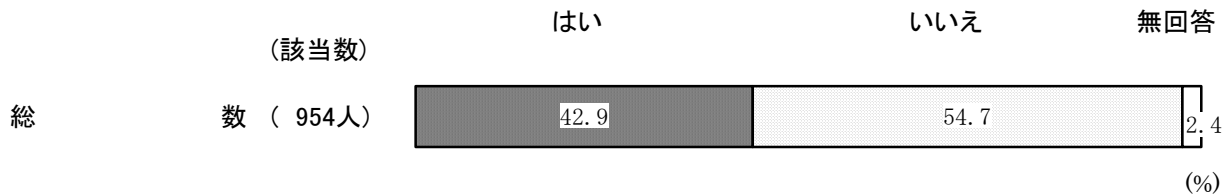
表 2-1-1 家族の中のがん経験者との関係

	該当数	(あな たの) 親	(あな たの) 祖父母	(あな たの) 配偶者	(あな たの) 兄弟	(あな たの) 子ども	(あな たの) 孫	その他	無回答	回答計
総 数	954	52.2	27.8	17.6	14.9	1.9	0.4	8.5	0.9	124.2
問 1-1〔年代別〕										
20代	73	30.1	75.3	-	1.4	-	-	5.5	-	112.3
30代	146	44.5	59.6	3.4	2.7	0.7	-	6.8	0.7	118.5
40代	160	70.6	33.8	3.1	5.0	-	0.6	10.0	-	123.1
50代	210	66.7	21.4	10.5	12.9	-	-	11.4	1.9	124.8
60代	196	53.1	7.7	25.5	29.6	2.0	-	9.2	1.0	128.1
70歳以上	161	32.3	4.3	51.6	27.3	8.1	1.9	5.0	1.2	131.7
無回答	8	25.0	25.0	37.5	-	-	-	12.5	-	100.0
問 1-2〔性別〕										
男性	347	54.2	24.8	14.4	13.5	2.0	0.6	6.6	0.9	117.0
女性	604	51.3	29.5	19.2	15.7	1.8	0.3	9.6	1.0	128.5
無回答	3	-	33.3	66.7	-	-	-	-	-	100.0
問 1-3〔地域別〕										
北海道・東北	122	50.0	30.3	13.9	16.4	1.6	-	13.1	2.5	127.9
関東	295	52.5	26.8	16.9	16.9	1.0	0.3	6.4	1.7	122.7
中部・北陸	175	53.1	30.9	17.1	13.7	1.7	-	9.7	-	126.3
近畿	157	50.3	27.4	21.7	10.8	1.9	-	9.6	-	121.7
中国・四国	105	51.4	32.4	20.0	10.5	1.9	1.0	6.7	-	123.8
九州・沖縄	91	57.1	18.7	15.4	17.6	5.5	2.2	7.7	1.1	125.3
外国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
無回答	9	44.4	11.1	22.2	44.4	-	-	-	-	122.2

(1) - 2 家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問2-1 補問2 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

ご家族の方で、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。  
(○は1つ)



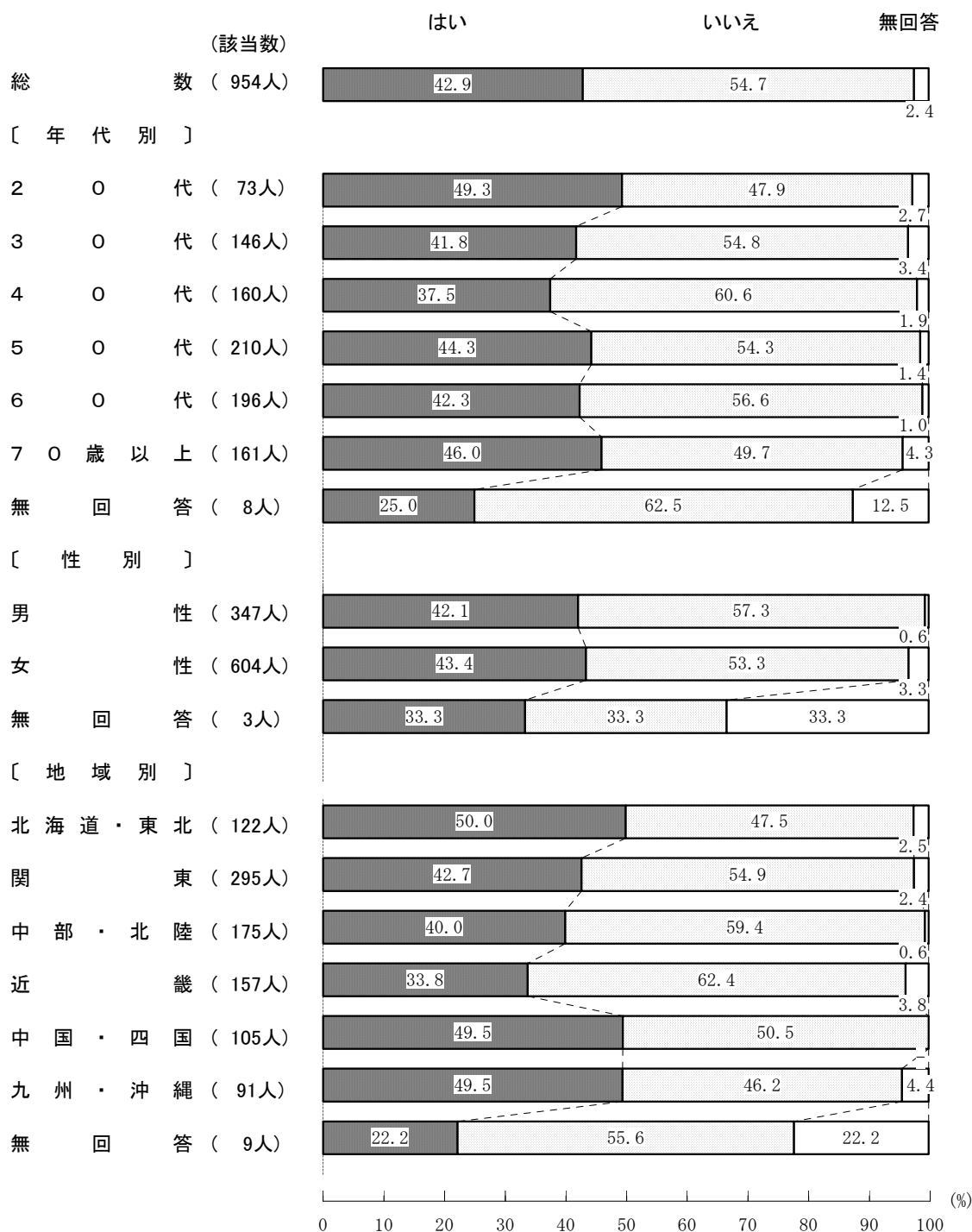
家族の中のがんの経験者がいると答えた者(954人)に、その家族の人が、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が42.9%、「いいえ」が54.7%となっている。

自分自身ががんの経験があると答えた者(145人)では、「はい(自分は受けたことがある)」の割合が19.3%であるので、それに比べると、家族の中のがん経験者は「はい(家族は受けたことがある)」の割合が倍以上高くなっている。

年代別、性別ともに差はみられない。

地域別にみると、「はい」が近畿(33.8%)でやや低くなっている。 <図2-1-2>

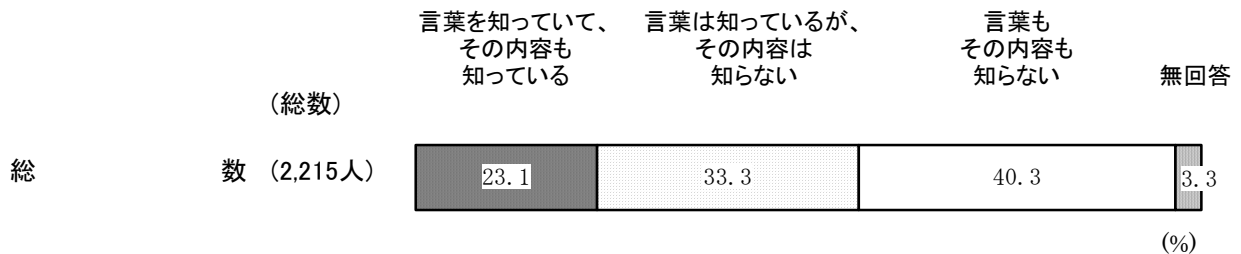
図 2-1-2 家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無



### 3 緩和ケアについて

#### (1) 「緩和ケア」という言葉の認知

問3-1 「緩和ケア」という言葉をご存じですか。(○は1つ)



緩和ケアという言葉を知っているかをきいたところ、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が23.1%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が33.3%、「言葉もその内容も知らない」が40.3%となっている。

年代別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」では差はみられない。一方、「言葉もその内容も知らない」が20代(52.2%)、30代(47.3%)で高くなっている。

性別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が女性(27.2%)で高く、「言葉もその内容も知らない」が男性(50.1%)で高くなっている。

地域別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」では差はみられない。一方、「言葉もその内容も知らない」が中国・四国(31.0%)で、やや低くなっている。

がん経験者に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が26.2%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が40.7%、「言葉もその内容も知らない」が29.0%で、「言葉を知っている」人の割合が高くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が29.7%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が36.9%、「言葉もその内容も知らない」が31.1%で、「言葉を知っている」人の割合が高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が28.8%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が35.1%、「言葉もその内容も知らない」が32.6%で、「言葉を知っている」人の割合が高くなっている。

「オレンジバリュープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が56.0%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が22.7%、「言葉もその内容も知らない」が10.7%で、「言葉を知っている」人の割合が全体平均よりかなり高くなっている。

<図3-1(1)、図3-1(2)>



図 3-1 (1) 「緩和ケア」という言葉の認知

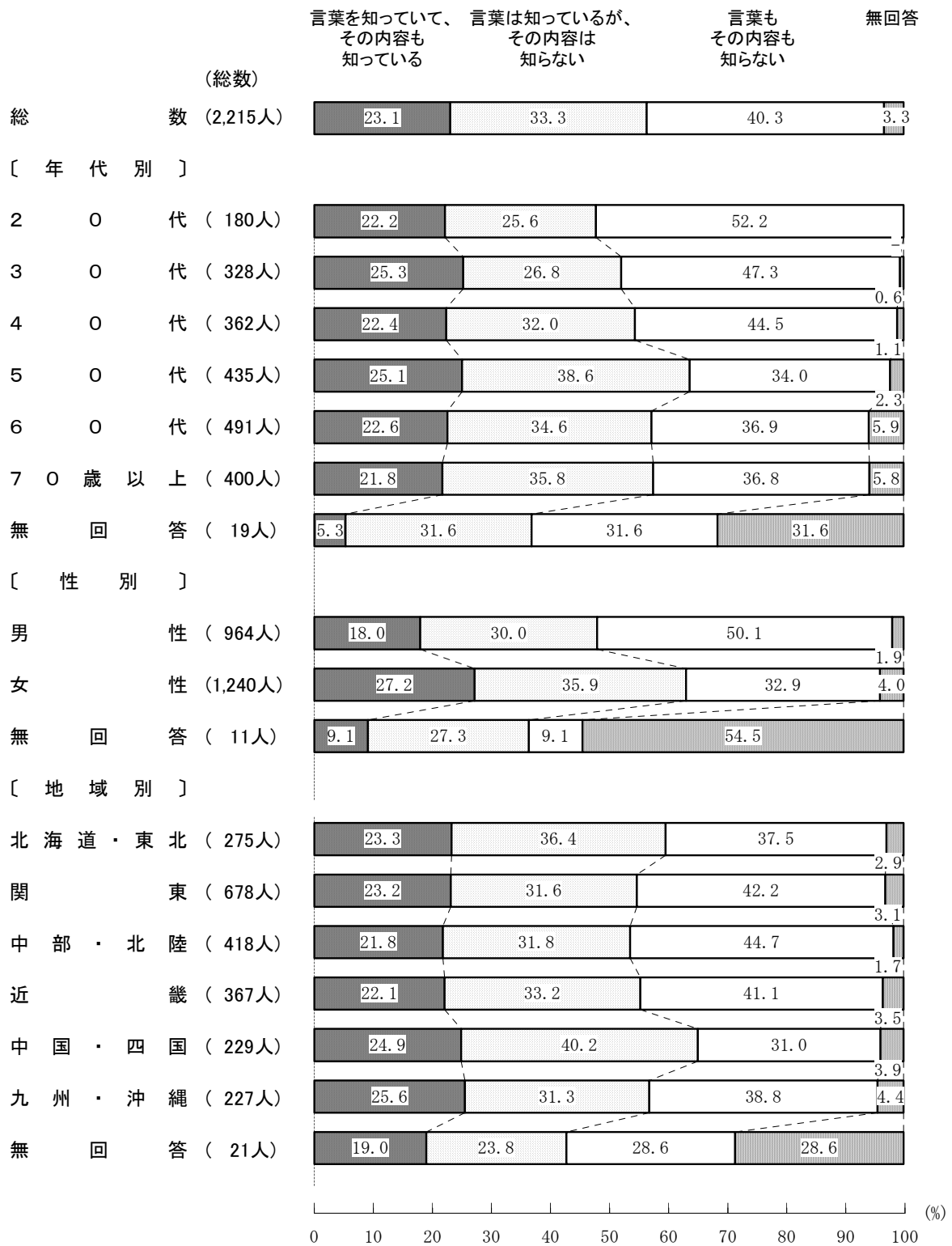
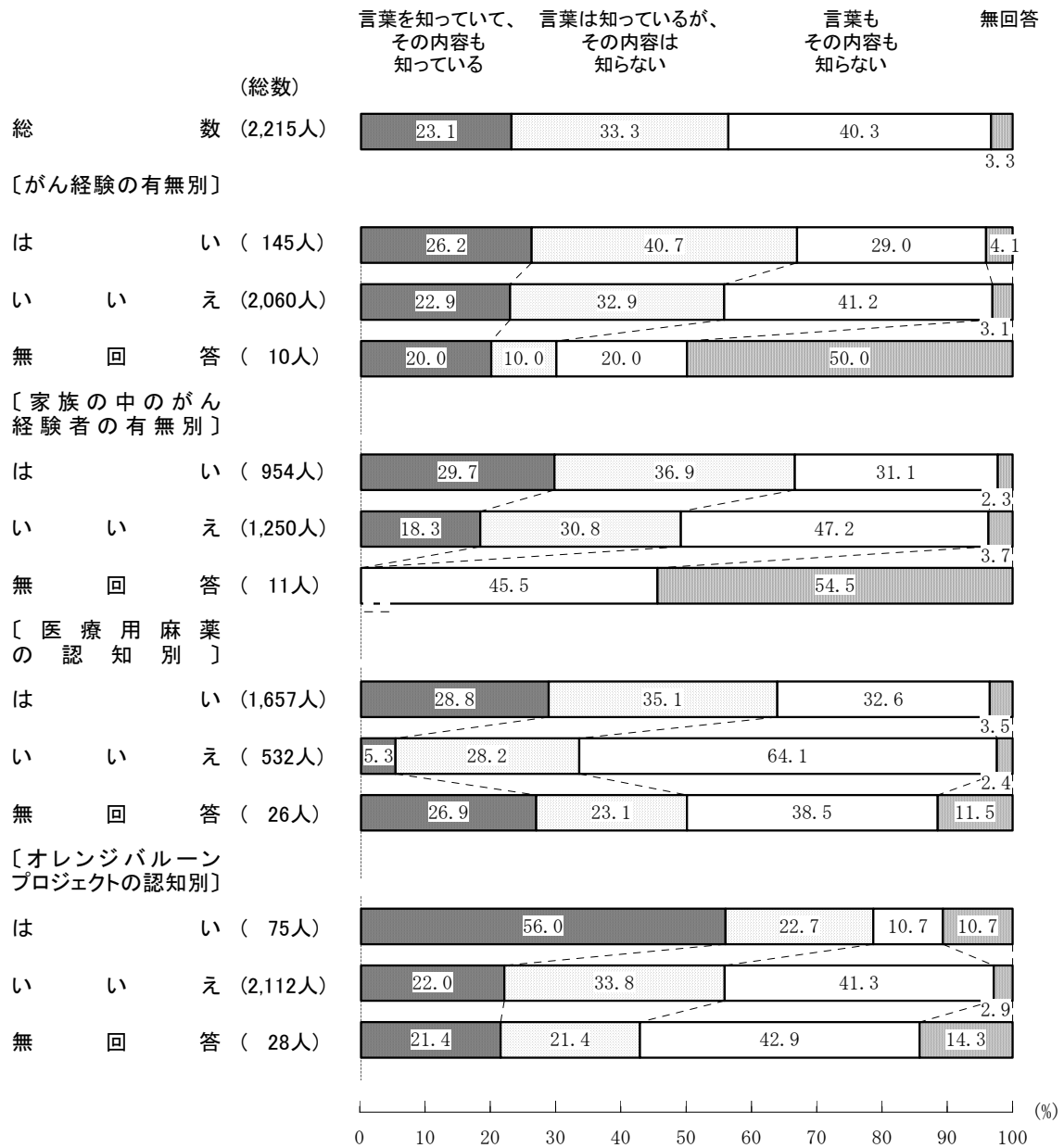
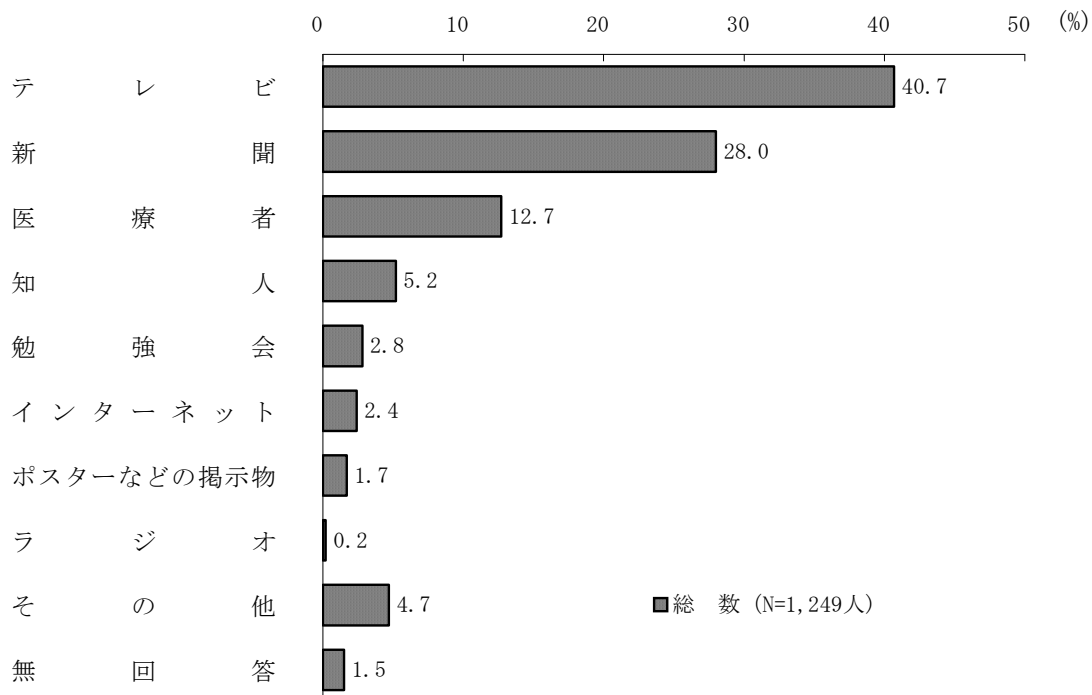


図 3-1 (2) 「緩和ケア」という言葉の認知



(1) - 1 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

問3-1 補問1 (問3-1で1「言葉を知っていて、その内容も知っている」、2「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に)  
 「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになりましたか。(〇は1つ)



緩和ケアという言葉を知っていると答えた者(1249人)に、最初に何で知ったかをきいたところ、「テレビ」が40.7%と最も高く、次いで「新聞」が28.0%であげられている。以下は、「医療者(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)」(12.7%)、「知人」(5.2%)、「勉強会(シンポジウム、セミナーなど)」(2.8%)などの順となっている。

年代別にみると、すべての年代で「テレビ」が最も高い割合を占めている。40代以上では、次いで「新聞」が高いが、20代、30代では「新聞」と「医療者」の割合が拮抗している。また、20代では「インターネット」(8.1%)が比較的高い。

性別では差はみられない。

地域別にみると、すべての地域で「テレビ」が最も高い割合を占めている。中国・四国では、次いで「医療者」(22.8%)が高いが、それ以外の地域では「新聞」が2番目にあげられている。

本人のがん経験者及び家族の中のがん経験者に限定してみると、「テレビ」、「新聞」、「医療者」、「知人」という順位に変動はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人は医療者(23.4%)の割合が高く、“その内容は知らない”人は「テレビ」(49.4%)や「新聞」(30.1%)の割合が高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「医療者(28.8%)」が最も高い割合を占めている。

<図3-1-1(1)、図3-1-1(2)>

図3-1-1(1) 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

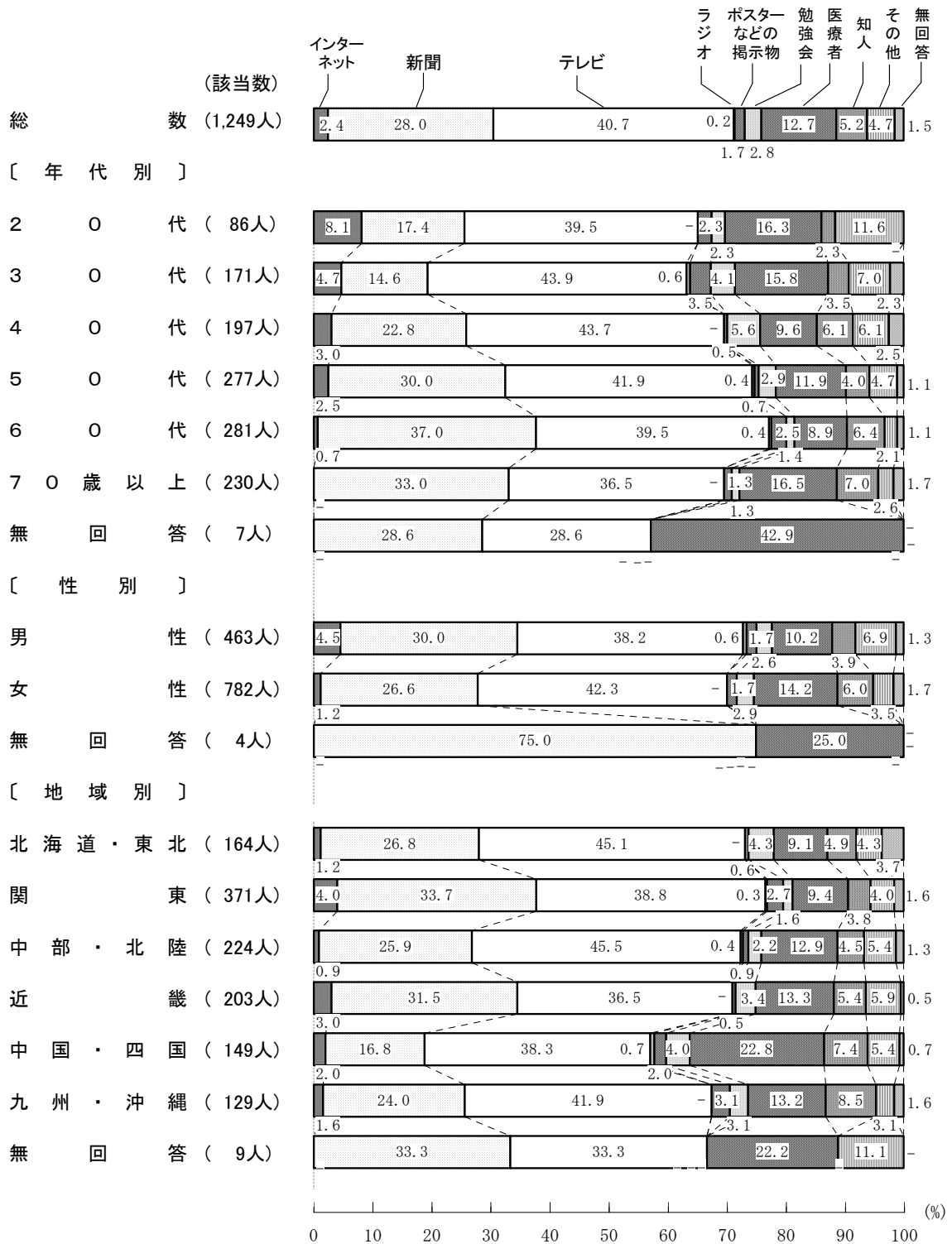
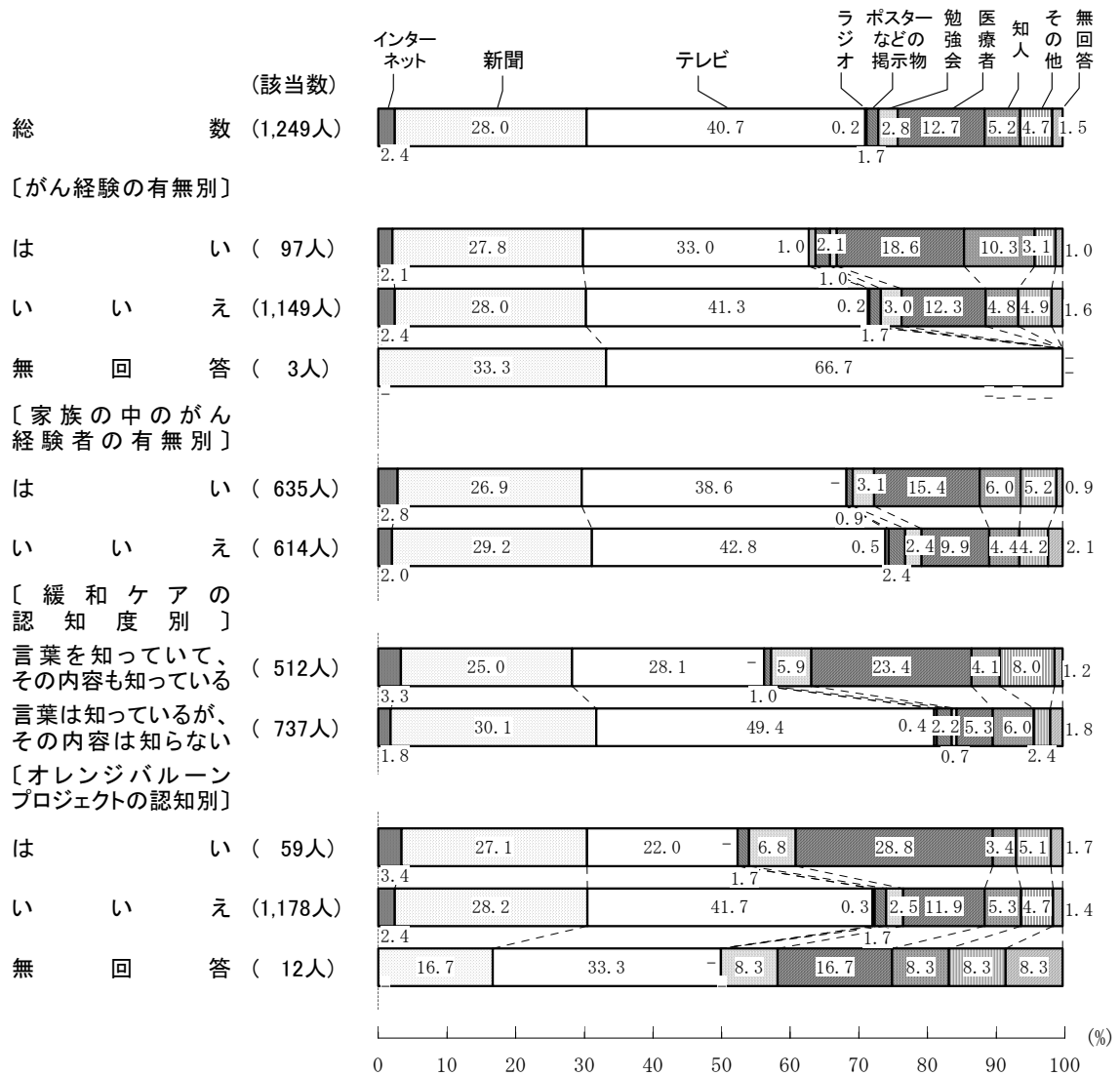
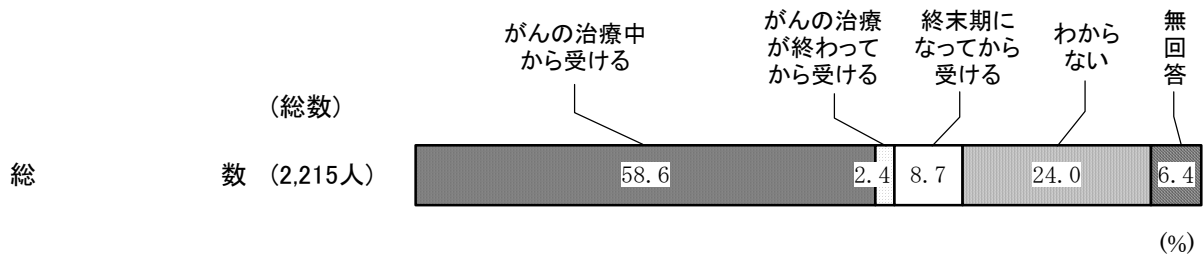


図3-1-1(2) 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路



(2) 「緩和ケア」を受ける時期の認識

問3-2 「緩和ケア」は症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。  
 「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか。（○は1つ）



緩和ケアを受ける時期についてどのように考えるかをきいたところ、「がんの治療中から受ける」（58.6%）が最も高く、ほぼ6割を占めている。「がんの治療が終わってから受ける」が2.4%、「終末期になってから受ける」が8.7%である。また、「わからない」が24.0%で、「無回答」（6.4%）と合わせると約3割となっている。

年代別にみると、「がんの治療中から受ける」が30代（70.7%）と40代（73.8%）で7割台、20代（66.7%）と50代（62.5%）で6割台を占めて高くなっている。

性別にみると、「がんの治療中から受ける」は女性（62.6%）が男性（53.4%）を9.2ポイント上回っている。

地域別にみると、いずれの地域でも「がんの治療中から受ける」が過半数を占めて高くなっている。がん経験者に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が全体平均より約10ポイント低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が64.5%を占めて高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「がんの治療中から受ける」と「終末期になってから受ける」の割合がともに高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が62.9%を占めて高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」の認知別ではほとんど差はみられない。

<図3-2（1）、図3-2（2）>

図3-2(1) 「緩和ケア」を受ける時期の認識

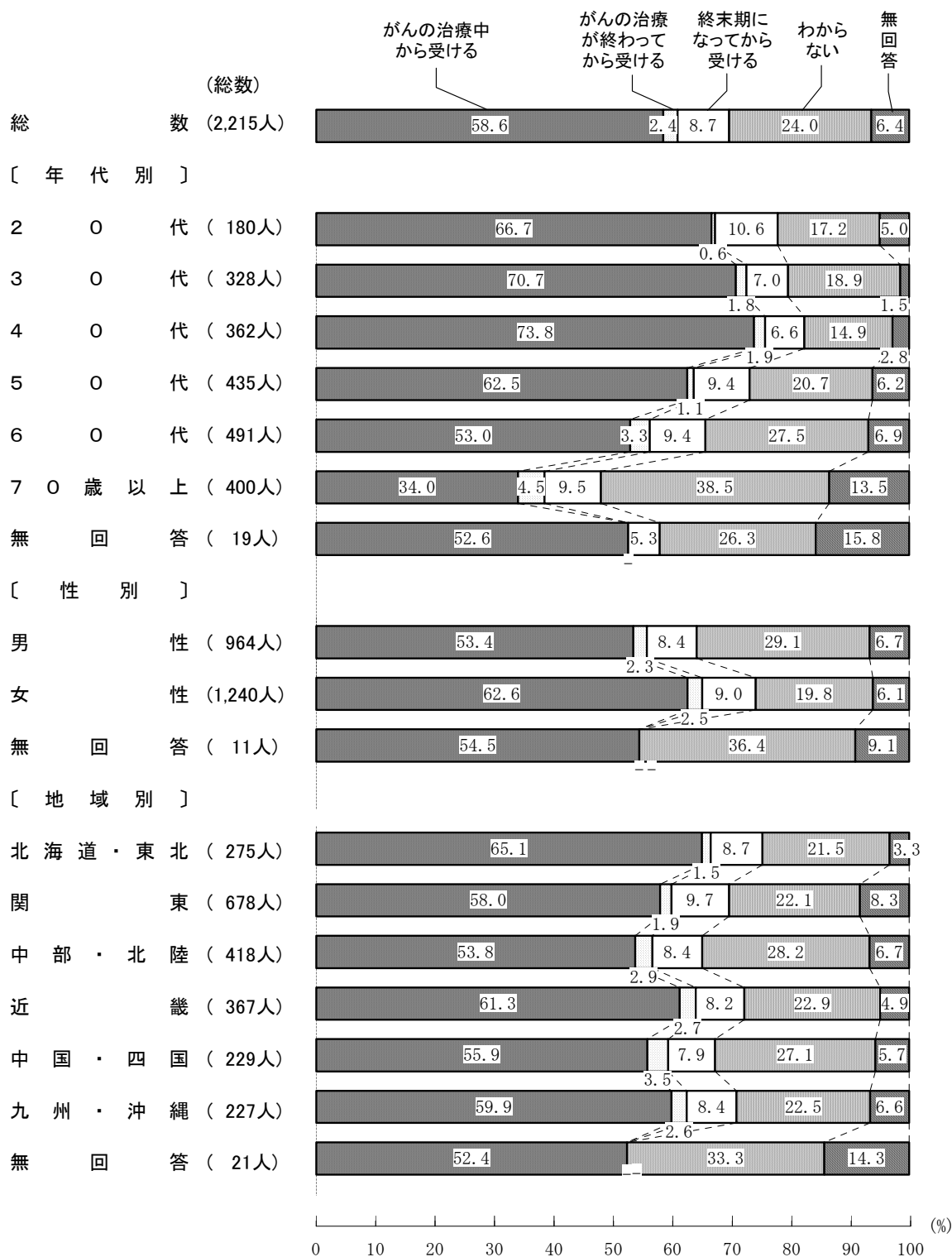
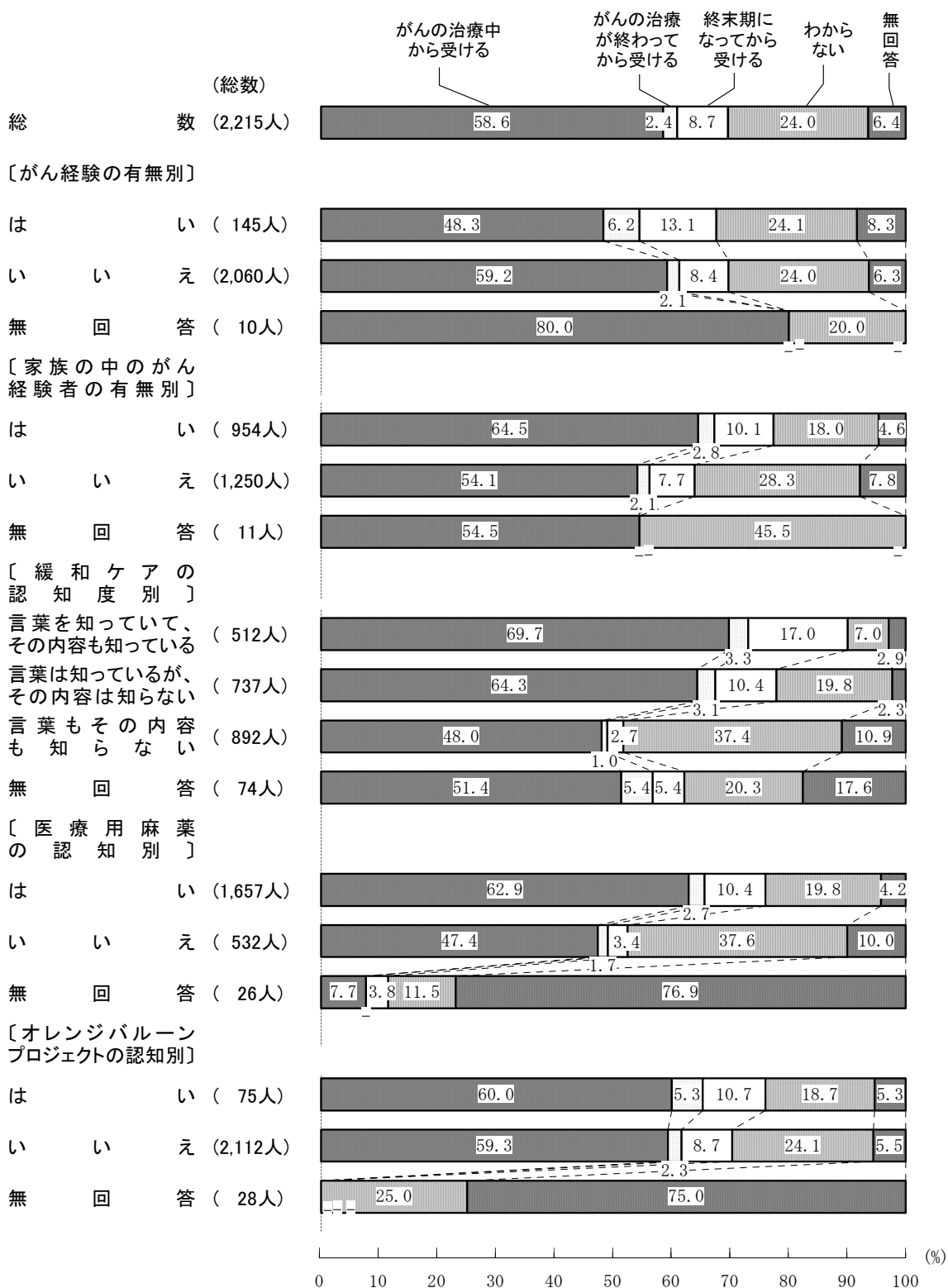


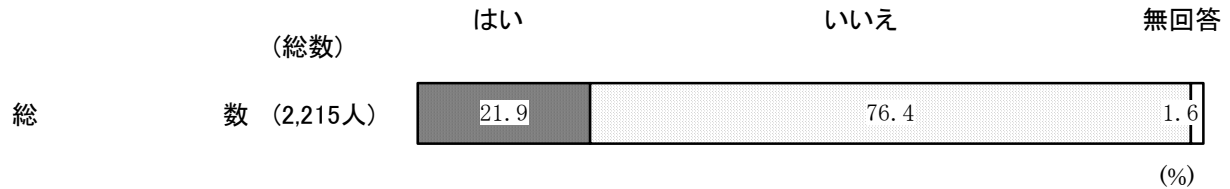
図3-2(2) 「緩和ケア」を受ける時期の認識





(3) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

問3-3 お住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所をご存じですか。(〇は1つ)



居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っているかをきいたところ、「はい」が 21.9%とほぼ2割台を占めている。

年代別にみると、「はい」が70歳以上(26.3%)で最も高い。

性別にみると、「はい」は女性(24.1%)が男性(18.9%)を5.2ポイント上回っている。

地域別にみると、「はい」が中国・四国(26.6%)や九州・沖縄(26.4%)で他の地域よりやや高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」が27.6%である。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」が28.3%でほぼ3割を占めている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「はい」の割合が高くなっており、“その内容も知っている”人では52.9%と5割を占めている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」が25.7%と全体平均よりやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が69.3%と高くなっている。

<図3-3(1)、図3-3(2)>

図 3-3 (1) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

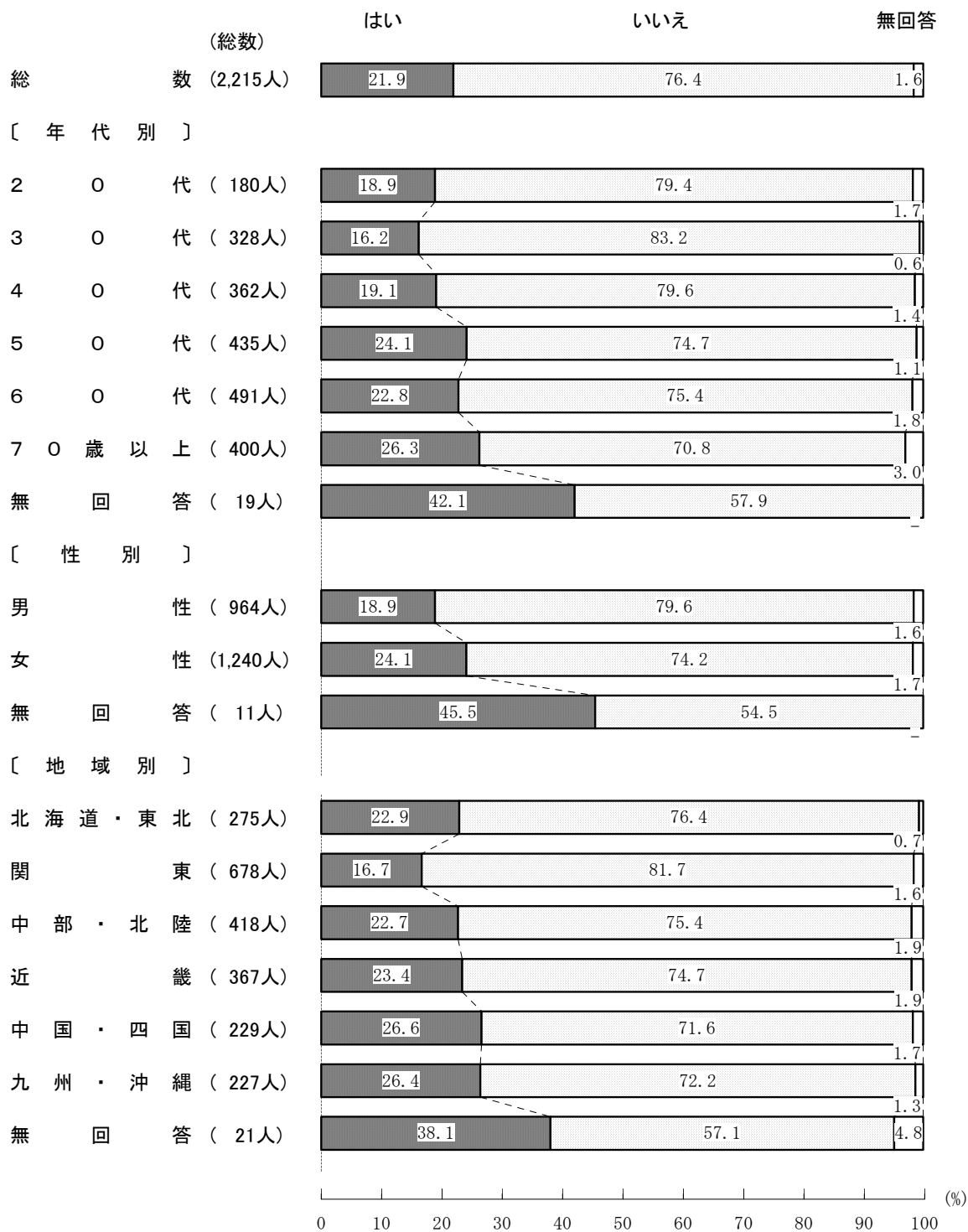
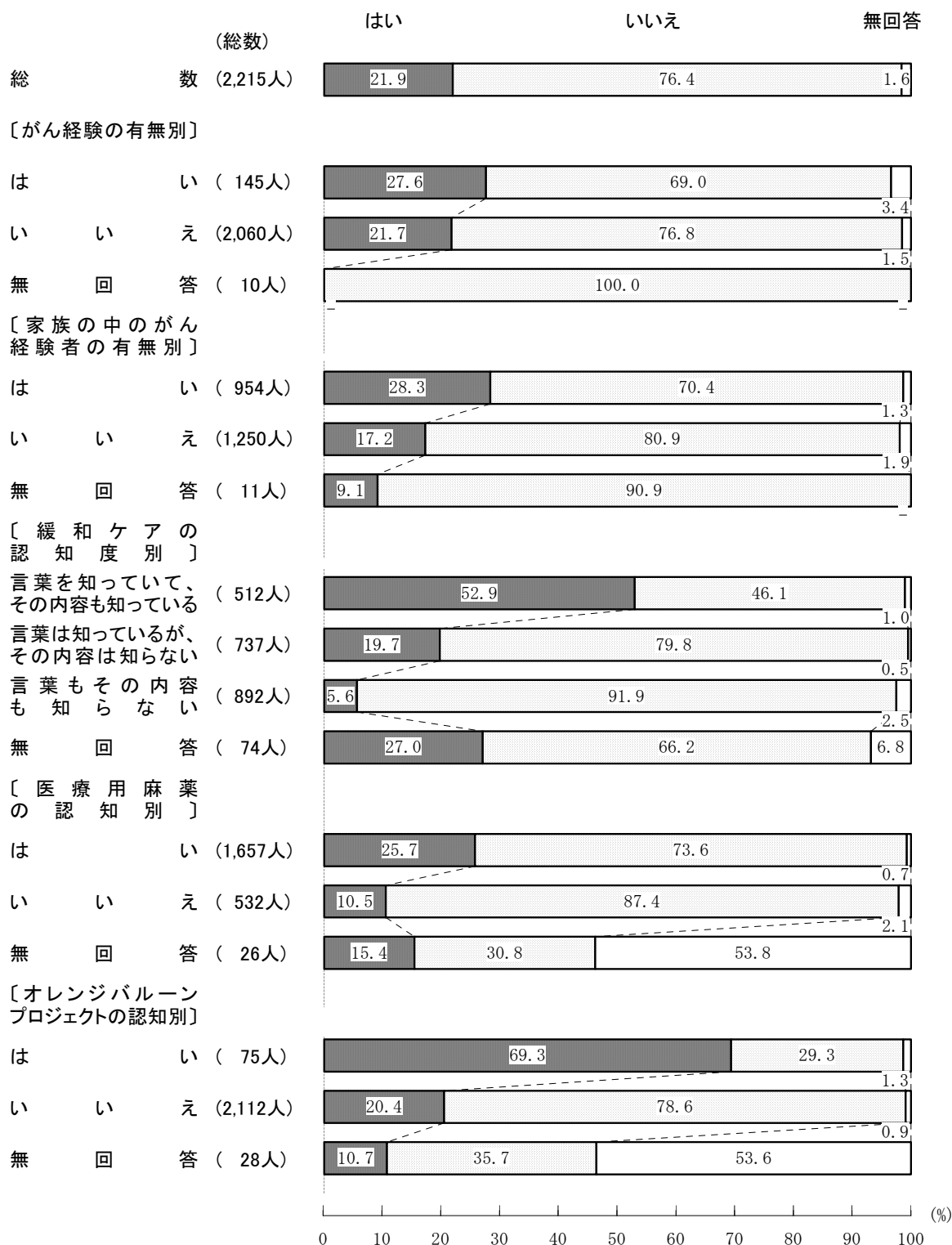


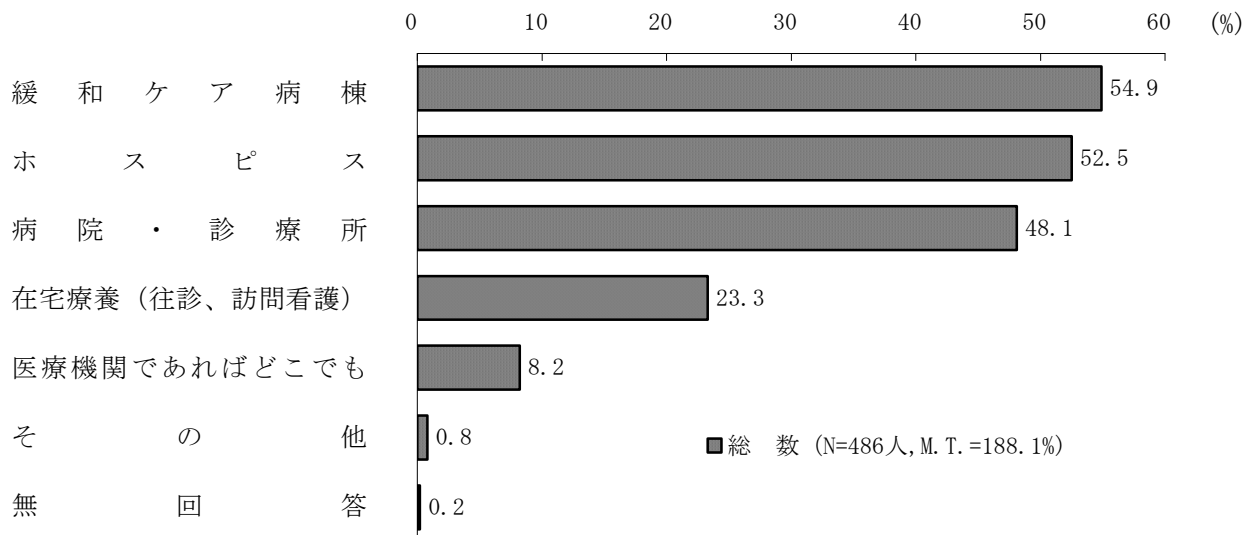
図 3-3 (2) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知



(3) - 1 「緩和ケア」が受けられると思う場所

問3-3 補問1 (問3-3で1「はい」をお選びの方に)

「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。(〇はいくつでも)



居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っていると答えた者（486人）に、「緩和ケア」が受けられると思う場所をきいたところ、「緩和ケア病棟」が54.9%で最も高く、次いで「ホスピス」（52.5%）、「病院・診療所」（48.1%）の順となっており、上位3項目はすべて5割前後となっている。以下、「在宅療養（往診、訪問看護）」（23.3%）、「医療機関であればどこでも」（8.2%）の順となっている。

年代別にみると、「ホスピス」が40代（71.0%）、50代（64.8%）で高くなっている。

性別にみると、男性が「病院・診療所」（53.8%）、「緩和ケア病棟」（51.6%）、「ホスピス」（40.1%）の順であるのに対し、女性では「ホスピス」（60.9%）、「緩和ケア病棟」（57.2%）、「病院・診療所」（44.5%）と上位3項目の順位が逆転している。

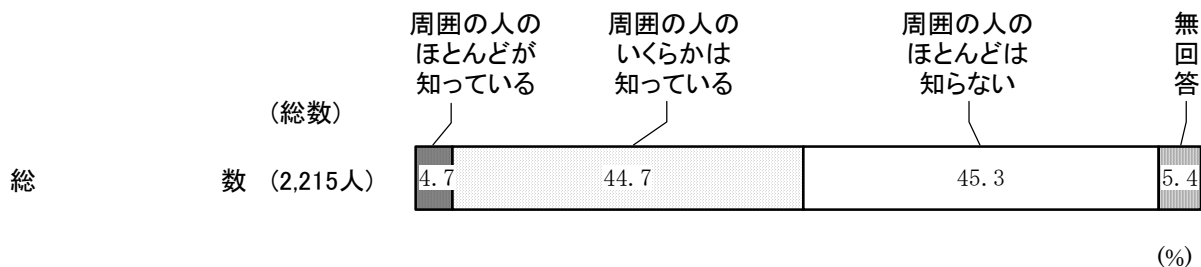
<表3-3-1>

表 3-3-1 「緩和ケア」が受けられると思う場所

	該当数	緩和ケア 病棟	ホスピス	病院・ 診療所	在宅療養 (往診、 訪問 看護)	医療機関 であれば どこでも	その他	無回答	回答計
総 数	486	54.9	52.5	48.1	23.3	8.2	0.8	0.2	188.1
問 1-1 [年代別]									
20代	34	64.7	61.8	58.8	35.3	11.8	2.9	-	235.3
30代	53	64.2	56.6	50.9	28.3	1.9	1.9	-	203.8
40代	69	63.8	71.0	49.3	29.0	7.2	1.4	-	221.7
50代	105	61.0	64.8	44.8	25.7	5.7	1.0	-	202.9
60代	112	50.0	50.9	40.2	20.5	10.7	-	-	172.3
70歳以上	105	41.9	28.6	52.4	14.3	11.4	-	1.0	149.5
無回答	8	37.5	-	75.0	12.5	-	-	-	125.0
問 1-2 [性別]									
男性	182	51.6	40.1	53.8	13.7	13.2	0.5	-	173.1
女性	299	57.2	60.9	44.5	29.1	5.4	1.0	0.3	198.3
無回答	5	40.0	-	60.0	20.0	-	-	-	120.0

(4) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

問3-4 あなたの周囲の人は「緩和ケア」という言葉をご存じですか。(〇は1つ)



自分の周囲の人は「緩和ケア」という言葉を知っているかをきいたところ、「周囲の人のほとんどが知っている」が4.7%、「周囲の人のいくらかは知っている」が44.7%、「周囲の人のほとんどは知らない」が45.3%となっている。

年代別にみると、「周囲の人のほとんどが知っている」は70歳以上(9.0%)が他の年代よりも高く、「周囲の人のいくらかは知っている」が50代(52.0%)で、「周囲の人のほとんどは知らない」が20代(53.3%)、30代(59.1%)、40代(50.0%)で、それぞれ他の年代より高くなっている。

性別にみると、「周囲の人のほとんどが知っている」では男女差はみられないが、「周囲の人のいくらかは知っている」が女性(49.1%)で、「周囲の人のほとんどは知らない」が男性(52.2%)で、それぞれ高くなっている。

地域別にみると、「周囲の人のいくらかは知っている」が中国・四国(51.1%)で高くなっている。

本人のがん経験者及び家族の中のがん経験者に限定してみると、「周囲の人のいくらかは知っている」が半数近くを占めやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「周囲の人のほとんどが知っている」、「周囲の人のいくらかは知っている」の割合が高くなっている。“その内容も知っている”人では、「周囲の人のほとんどが知っている」が12.3%、「周囲の人のいくらかは知っている」が68.9%を占めている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「周囲の人のいくらかは知っている」(51.2%)が全体平均より7.5ポイント高くなっている。

「オレンジバリュープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「周囲の人のほとんどが知っている」が17.3%、「周囲の人のいくらかは知っている」が57.3%を占め、高くなっている。

<図3-4(1)、図3-4(2)>

図3-4 (1) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

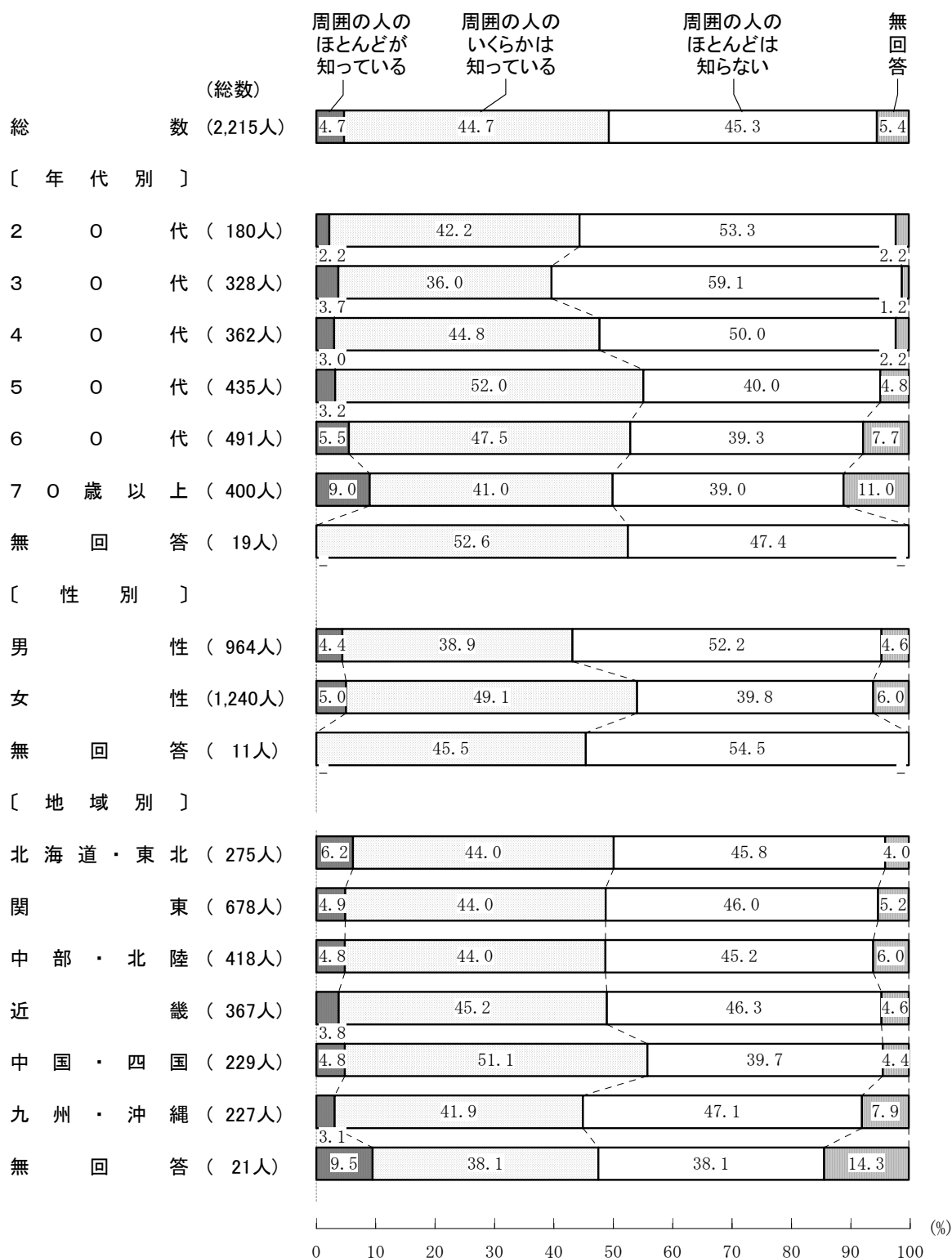
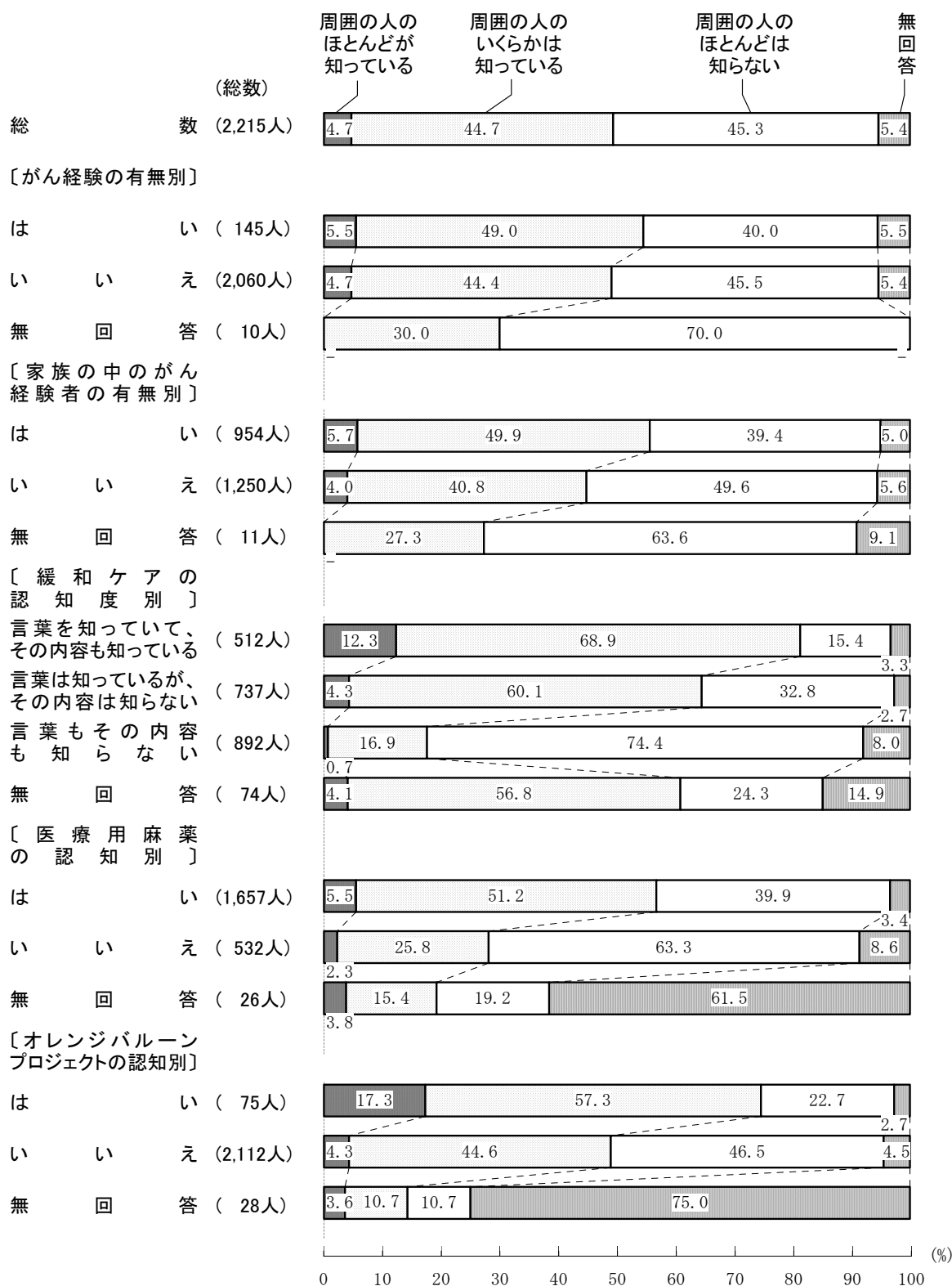


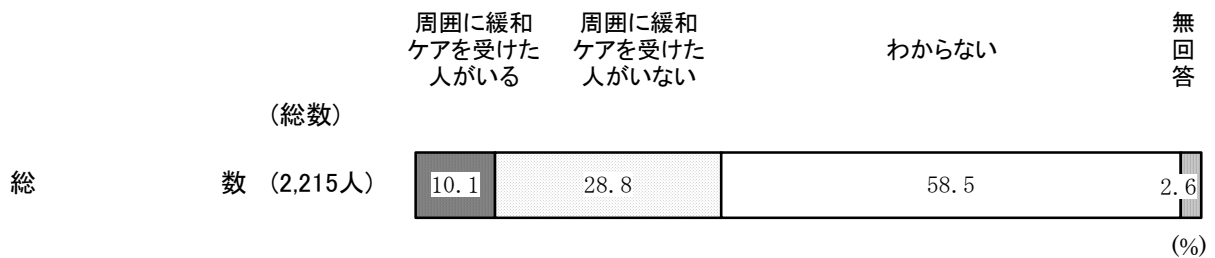
図3-4 (2) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知





(5) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

問3-5 あなたの周囲に「緩和ケア」を実際に受けられた方はおられますか。(○は1つ)



自分の周囲で「緩和ケア」を実際に受けた人がいるかをきいたところ、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が10.1%、「周囲に緩和ケアを受けた人がいない」が28.8%である。また、「わからない」(58.5%)と無回答(2.6%)を合わせると6割強を占めている。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合が高くなっており、70歳以上(13.5%)で最も高くなっている。

性別にみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合は、女性(11.9%)が男性(7.7%)を4.2ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

がん経験の有無別では差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が15.3%で、やや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合が高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が全体平均より2ポイント高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が26.7%と4人に1人を占めている。

<図3-5 (1)、図3-5 (2)>

図3-5 (1) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

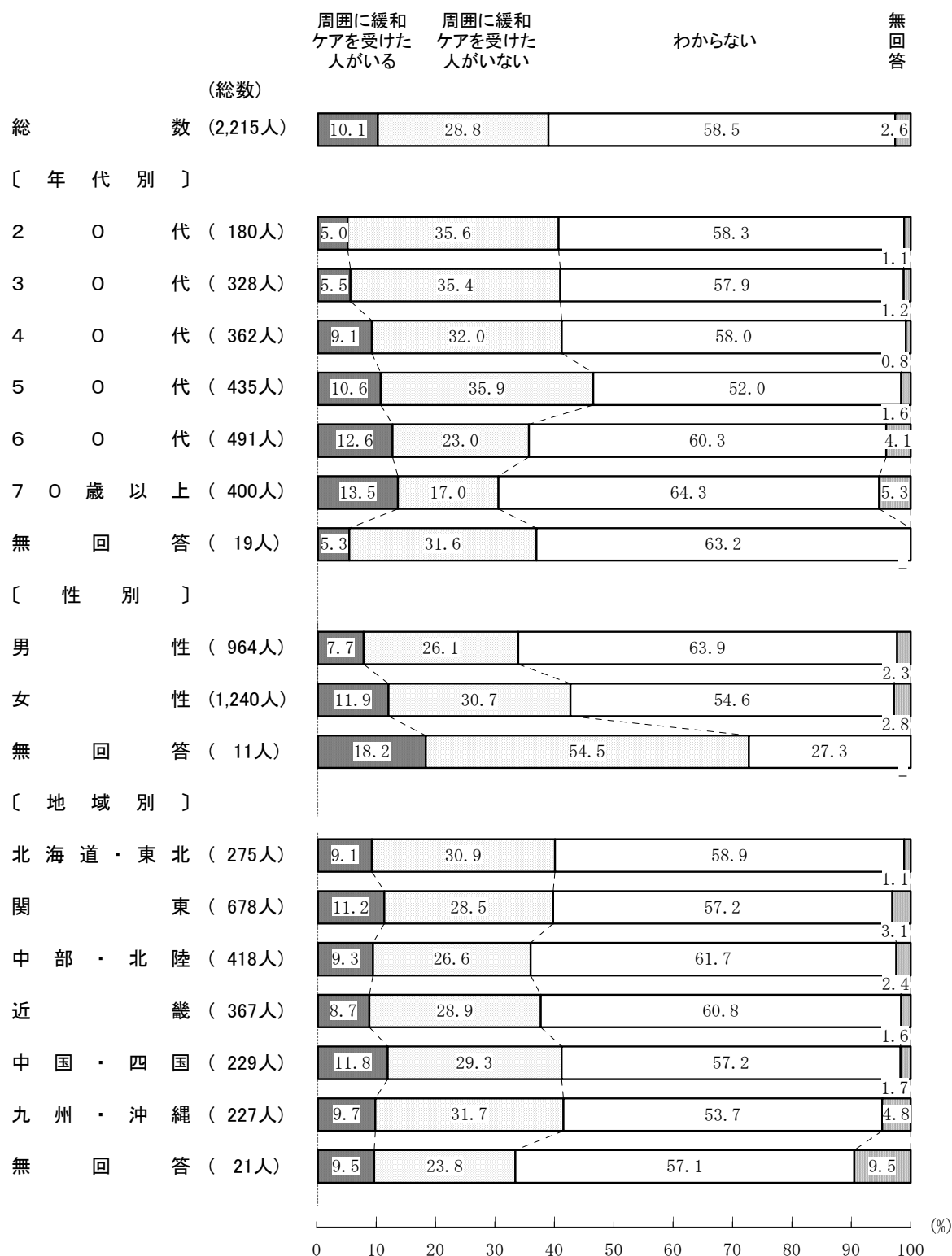
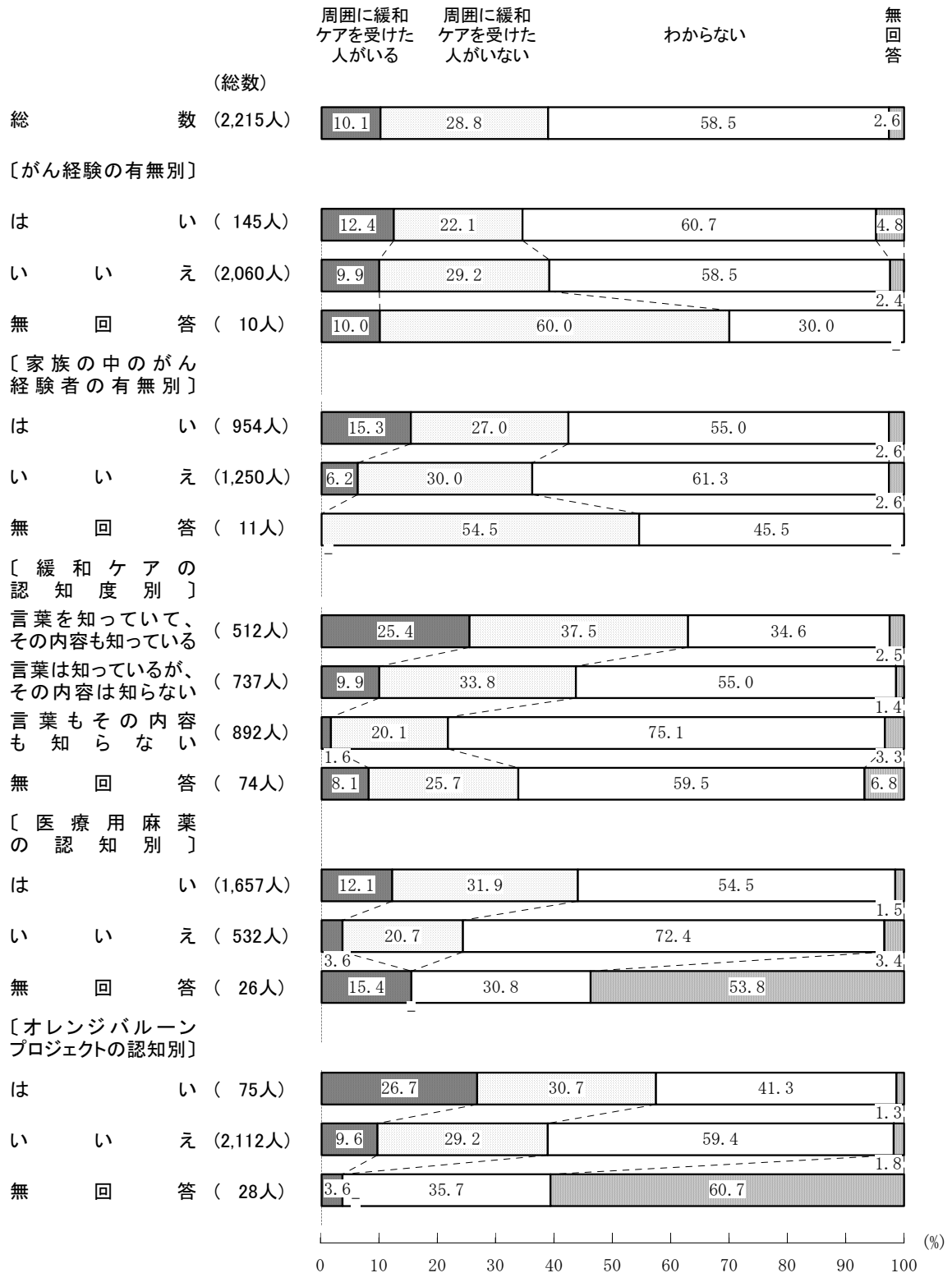


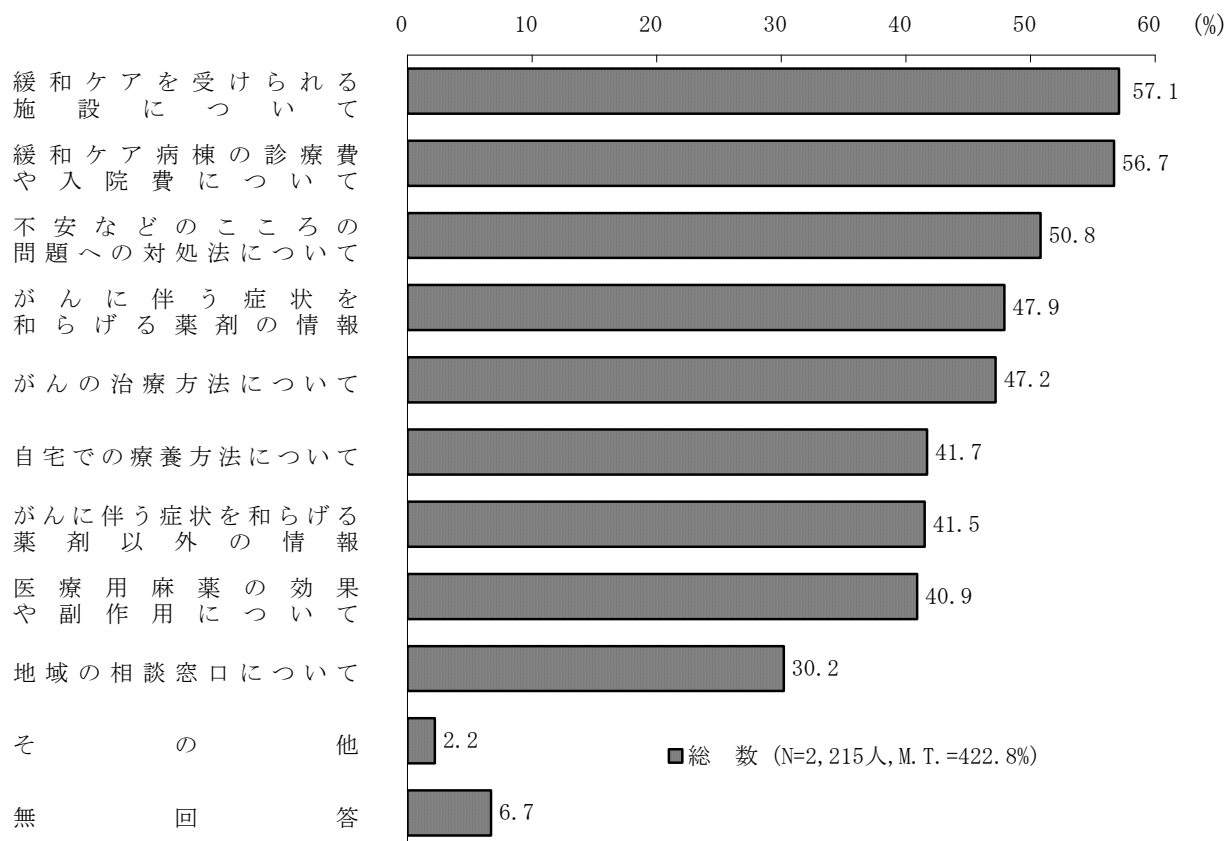
図3-5 (2) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無



#### 4 「緩和ケア」情報について

##### (1) 「緩和ケア」について知りたい情報

問4-1 あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何か。(〇はいくつでも)



「緩和ケア」について知りたい情報をきいたところ、「緩和ケアを受けられる施設について」が 57.1% と最も高く、以下、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」(56.7%)、「不安などのこころの問題への対処法について」(50.8%)、「がんに伴う症状(痛み、吐き気、体のだるさなど)を和らげる薬剤の情報」(47.9%)、「がんの治療方法について」(47.2%)などの順となっている。あげた者の割合が40%以上になる選択肢が8項目もあり、「緩和ケア」について知りたい情報は相当あると言える。

年代別にみると、「不安などのこころの問題への対処法について」、「がんの治療方法について」が20代、30代、40代で、「緩和ケアを受けられる施設について」、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報」が30代、40代、50代で、それぞれ高くなっている。また、「自宅での療養方法について」、「医療用麻薬の効果や副作用について」が30代で、「地域の相談窓口について」が50代で、それぞれ他の年代より高くなっている。

性別にみると、知りたい情報への関心度は女性で高くなる傾向が見られ、「緩和ケアを受けられる施設について」、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」、「不安などのこころの問題への対処法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報」、「医療用麻薬の効果や副作用について」はすべて、男性より女性で高くなっている。

地域別では、すべての項目で大きな特徴はみられない。

がん経験者に限定してみると、「不安などのこころの問題への対処法について」と「がんの治療方法について」が、全体平均より約8ポイント低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、全ての項目の割合はすべて、全体平均よりも高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「がんの治療方法について」を除く8項目すべてで、“その内容も知っている”人の割合が、“言葉もその内容も知らない”人の割合を上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「がんの治療方法について」を除く8項目の全ての割合が全体平均より高くなっている。

「オレンジブループロジェクト」を知っている人に限定してみると、「緩和ケアを受けられる施設について」が全体平均より18.4ポイント低くなっている。

<表4-1 (1)>

表4-1(1) 「緩和ケア」について知りたい情報

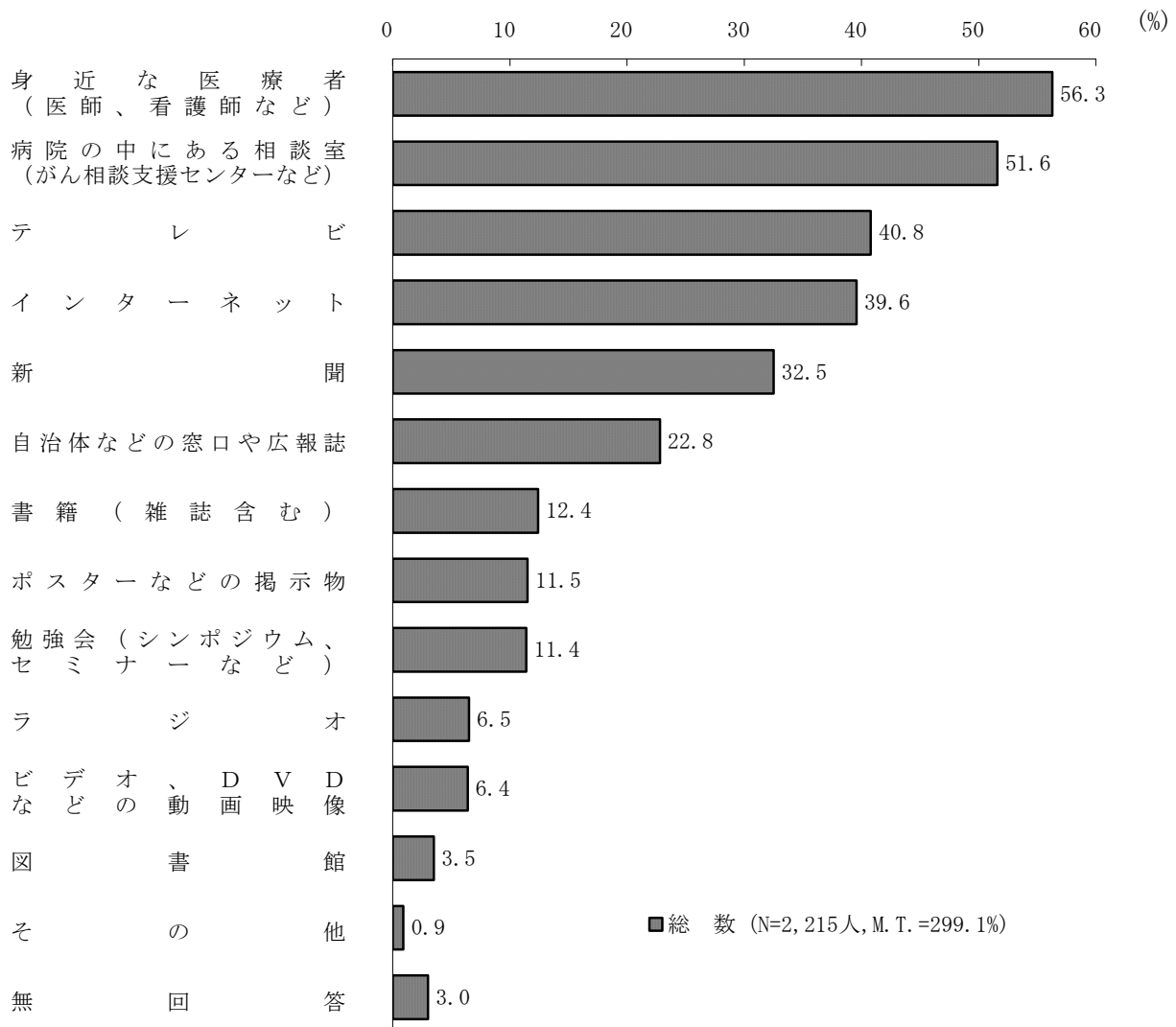
	総数	緩和ケアを受けられる施設について	緩和ケア病棟の診療費や入院費	不安などのこころの問題への対処法	がんの症状を和らげる薬剤の情報	がんの治療方法について	自宅での療養方法について	がんの症状を和らげる薬剤以外の情報
総数	2215	57.1	56.7	50.8	47.9	47.2	41.7	41.5
問1-1〔年代別〕								
20代	180	54.4	57.2	58.9	47.2	53.3	44.4	42.2
30代	328	63.1	62.8	59.5	58.2	59.5	48.5	49.7
40代	362	61.9	63.0	58.6	55.0	52.5	41.7	47.8
50代	435	65.1	61.4	52.0	54.7	49.7	43.4	50.3
60代	491	58.0	56.6	51.7	41.1	39.9	40.9	37.3
70歳以上	400	39.5	40.5	31.0	35.0	36.3	33.5	25.0
無回答	19	47.4	57.9	42.1	36.8	36.8	47.4	26.3
問1-2〔性別〕								
男性	964	52.1	53.3	43.9	45.3	49.4	39.6	34.6
女性	1240	61.1	59.4	56.5	50.2	45.6	43.3	47.0
無回答	11	36.4	45.5	18.2	27.3	27.3	36.4	18.2
問1-3〔地域別〕								
北海道・東北	275	56.7	58.2	53.8	45.8	52.4	43.6	39.3
関東	678	57.5	58.0	50.6	50.4	47.5	41.3	43.8
中部・北陸	418	59.8	54.5	49.8	43.8	45.2	43.1	37.8
近畿	367	60.5	59.4	53.1	50.4	48.8	40.6	43.9
中国・四国	229	52.0	51.5	48.9	48.5	47.2	43.2	43.2
九州・沖縄	227	54.2	58.1	50.2	48.5	43.2	39.6	41.0
外国	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	21	19.0	28.6	23.8	23.8	23.8	23.8	14.3
問1-4〔がん経験の有無別〕								
はい	145	52.4	54.5	42.1	44.8	39.3	42.8	38.6
いいえ	2060	57.4	56.8	51.5	48.2	47.8	41.6	41.7
無回答	10	60.0	50.0	40.0	40.0	40.0	40.0	30.0
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕								
はい	954	60.8	60.3	55.0	53.8	50.1	44.3	47.2
いいえ	1250	54.2	54.0	47.7	43.7	45.0	39.7	37.4
無回答	11	63.6	45.5	36.4	27.3	45.5	36.4	18.2
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕								
言葉知っている、内容も知っている	512	59.0	61.1	60.4	57.2	42.6	48.8	47.1
言葉は知っている、内容は知らない	737	63.2	60.2	52.5	51.0	49.9	43.1	46.3
言葉もその内容も知らない	892	52.0	51.5	44.3	41.7	49.0	37.1	34.8
無回答	74	43.2	52.7	45.9	28.4	29.7	32.4	36.5
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕								
はい	1657	60.5	59.4	53.7	50.9	47.0	43.6	43.7
いいえ	532	48.5	50.2	44.0	40.8	49.6	36.8	36.3
無回答	26	15.4	15.4	3.8	3.8	11.5	15.4	7.7
問6-1〔オレンジバレーンプロジェクトの認知別〕								
はい	75	38.7	50.7	52.0	41.3	45.3	50.7	37.3
いいえ	2112	58.4	57.5	51.4	48.8	47.8	41.7	42.1
無回答	28	7.1	7.1	3.6	3.6	3.6	14.3	3.6

表4-1 (1) つづき 「緩和ケア」について知りたい情報

	総数	医療用麻薬の 効果や副作用 について	地域の相 談窓口に ついて	その他	無回答	回答計
総数	2215	40.9	30.2	2.2	6.7	422.8
問1-1〔年代別〕						
20代	180	46.1	25.0	3.3	5.6	437.8
30代	328	54.6	29.0	3.7	2.7	491.2
40代	362	44.2	32.0	3.0	3.6	463.3
50代	435	44.4	34.5	1.1	3.0	459.5
60代	491	35.8	31.2	1.8	7.9	402.4
70歳以上	400	26.8	26.8	1.5	15.8	311.5
無回答	19	36.8	15.8	-	5.3	352.6
問1-2〔性別〕						
男性	964	37.4	29.4	1.9	7.1	394.0
女性	1240	43.7	31.0	2.5	6.4	446.7
無回答	11	18.2	9.1	-	9.1	245.5
問1-3〔地域別〕						
北海道・東北	275	39.6	26.5	2.5	4.7	423.3
関東	678	45.3	29.8	2.5	7.1	433.8
中部・北陸	418	40.7	31.6	1.7	6.2	414.1
近畿	367	39.5	32.4	1.6	5.7	436.0
中国・四国	229	38.4	33.2	3.1	7.4	416.6
九州・沖縄	227	36.6	29.1	2.2	7.5	410.1
外国	-	-	-	-	-	0.0
無回答	21	14.3	4.8	-	28.6	204.8
問1-4〔がん経験の有無別〕						
はい	145	37.9	31.7	2.8	7.6	394.5
いいえ	2060	41.2	30.1	2.2	6.6	425.1
無回答	10	10.0	20.0	-	10.0	340.0
問2-1 〔家族の中のがん経験者の有無別〕						
はい	954	46.0	32.3	2.8	4.3	456.9
いいえ	1250	37.1	28.6	1.8	8.4	397.4
無回答	11	18.2	27.3	-	18.2	336.4
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕						
言葉知っている、内容も知っている	512	48.8	33.0	3.5	2.7	464.3
言葉は知っている、内容は知らない	737	40.0	32.6	1.4	2.8	443.1
言葉もその内容も知らない	892	38.3	27.7	2.1	11.3	389.8
無回答	74	24.3	17.6	2.7	16.2	329.7
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕						
はい	1657	43.4	31.7	2.5	4.0	440.4
いいえ	532	34.6	26.9	1.3	11.7	380.6
無回答	26	7.7	3.8	-	76.9	161.5
問6-1〔オレンジパルーン プロジェクトの認知別〕						
はい	75	37.3	32.0	4.0	6.7	396.0
いいえ	2112	41.5	30.5	2.2	5.6	427.5
無回答	28	3.6	3.6	-	85.7	135.7

(2)「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

問4-2 「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。  
(〇はいくつでも)



「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものをきいたところ、「身近な医療者 (医師、看護師など)」が 56.3%と最も高く、以下、「病院の中にある相談室 (がん相談支援センターなど)」(51.6%)、「テレビ」(40.8%)、「インターネット」(39.6%)、「新聞」(32.5%)、「自治体などの窓口や広報誌」(22.8%)などの順となっている。



年代別にみると、年代が低いほど、「インターネット」、「テレビ」、「ポスターなどの掲示物」の割合が高くなる傾向がみられる。「身近な医療者（医師、看護師など）」、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」が60代（62.5%、57.2%）で、「テレビ」が20代（53.3%）、30代（50.9%）で、「インターネット」が20代（74.4%）、30代（65.5%）、40代（53.0%）で、「新聞」が50代（38.4%）で、「ポスターなどの掲示物」が20代（23.9%）、30代（19.5%）で、それぞれ他の年代より高くなっている。

性別にみると、「身近な医療者（医師、看護師など）」（61.0%）、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（54.4%）、「自治体などの窓口や広報誌」（24.8%）、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（13.4%）の4項目では女性の割合が高くなっている。

地域別にみると、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」が中部・北陸（56.5%）で、「インターネット」が関東（46.5%）で、それぞれ高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「身近な医療者（医師、看護師など）」（68.3%）が高くなっているが、「テレビ」（29.0%）、「インターネット」（26.9%）の割合が全体平均より低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「身近な医療者（医師、看護師など）」（60.0%）、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（54.1%）、「インターネット」（42.7%）、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（13.7%）が高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「テレビ」、「ポスターなどの掲示物」、「ラジオ」、「ビデオ、DVDなどの動画映像」を除くそれ以外の項目は“その内容も知っている”人の割合が、“言葉もその内容も知らない”人の割合を上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「身近な医療者（医師、看護師など）」（58.1%）、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（53.6%）、「インターネット」（43.4%）、「新聞」（33.8%）、「自治体などの窓口や広報誌」（23.9%）、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（13.0%）がすべて高くなっている。

「オレンジバレープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」（26.7%）が高くなっている。

<表4-2(1)>

表4-2(1) 「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

	総数	身近な医療者	病院の中にある相談室	テレビ	インターネット	新聞	自治体などの窓口や広報誌	書籍(雑誌含む)	ポスターなどの掲示物
総数	2215	56.3	51.6	40.8	39.6	32.5	22.8	12.4	11.5
問1-1〔年代別〕									
20代	180	48.9	39.4	53.3	74.4	32.2	17.2	18.3	23.9
30代	328	52.7	49.4	50.9	65.5	33.5	24.4	17.7	19.5
40代	362	51.7	50.8	44.8	53.0	30.7	19.6	15.5	13.0
50代	435	55.6	55.4	41.1	41.6	38.4	26.0	11.0	11.3
60代	491	62.5	57.2	36.7	23.6	34.6	26.7	11.6	7.1
70歳以上	400	60.0	48.3	28.8	8.3	24.5	19.3	5.3	4.0
無回答	19	57.9	52.6	21.1	31.6	26.3	15.8	10.5	5.3
問1-2〔性別〕									
男性	964	50.4	48.1	42.5	41.6	33.2	20.4	10.8	10.8
女性	1240	61.0	54.4	39.7	38.1	32.0	24.8	13.6	12.2
無回答	11	54.5	36.4	9.1	36.4	18.2	18.2	18.2	-
問1-3〔地域別〕									
北海道・東北	275	57.1	50.5	43.3	34.9	33.5	22.5	14.5	9.5
関東	678	57.4	52.5	39.2	46.5	32.0	23.3	13.3	13.3
中部・北陸	418	54.1	56.5	43.5	34.4	35.6	22.7	12.0	10.5
近畿	367	56.1	51.0	40.6	43.6	31.1	24.3	13.4	10.4
中国・四国	229	60.3	46.7	43.7	35.4	32.8	24.5	10.5	11.8
九州・沖縄	227	53.3	48.9	37.0	34.4	29.5	19.8	8.8	13.2
外国	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	21	52.4	28.6	14.3	14.3	23.8	4.8	9.5	-
問1-4〔がん経験の有無別〕									
はい	145	68.3	58.6	29.0	26.9	29.0	17.9	9.7	7.6
いいえ	2060	55.6	51.1	41.7	40.5	32.8	23.2	12.5	11.8
無回答	10	30.0	40.0	30.0	40.0	20.0	30.0	30.0	10.0
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕									
はい	954	60.0	54.1	38.9	42.7	32.4	24.7	13.9	11.4
いいえ	1250	53.5	49.7	42.3	37.3	32.6	21.3	11.1	11.5
無回答	11	63.6	45.5	27.3	36.4	27.3	36.4	27.3	18.2
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕									
言葉知っている、内容も知っている	512	60.9	60.9	34.6	48.8	33.4	22.9	15.8	9.6
言葉は知っている、内容は知らない	737	60.0	57.3	42.2	37.0	33.6	22.9	11.8	9.1
言葉もその内容も知らない	892	50.6	41.5	44.2	38.0	31.6	22.3	11.0	14.8
無回答	74	58.1	51.4	28.4	20.3	24.3	28.4	12.2	9.5
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕									
はい	1657	58.1	53.6	40.7	43.4	33.8	23.9	12.7	10.7
いいえ	532	52.4	47.2	42.7	29.7	29.7	20.7	12.0	14.5
無回答	26	23.1	11.5	3.8	-	3.8	-	3.8	-
問6-1〔オレンジバールンプロジェクトの認知別〕									
はい	75	53.3	60.0	34.7	34.7	37.3	18.7	10.7	10.7
いいえ	2112	57.0	51.9	41.5	40.3	32.7	23.3	12.6	11.7
無回答	28	14.3	3.6	-	-	-	-	-	-

表4-2(1) つづき 「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

	総数	勉強会	ラジオ	ビデオ、DVDなどの動画映像	図書館	その他	無回答	回答計
総数	2215	11.4	6.5	6.4	3.5	0.9	3.0	299.1
問1-1〔年代別〕								
20代	180	11.7	7.8	5.0	7.2	2.2	1.7	343.3
30代	328	8.2	8.5	6.4	5.2	1.5	0.6	344.2
40代	362	12.7	4.7	8.6	2.5	0.8	1.9	310.2
50代	435	13.8	7.1	7.4	1.6	0.7	1.6	312.6
60代	491	14.5	6.9	7.1	4.7	-	3.9	297.1
70歳以上	400	7.0	5.3	3.3	1.8	1.0	6.8	223.3
無回答	19	-	-	-	5.3	-	5.3	231.6
問1-2〔性別〕								
男性	964	9.0	7.5	7.8	2.9	0.9	2.9	288.9
女性	1240	13.4	5.9	5.3	3.9	0.8	3.1	308.0
無回答	11	-	-	-	9.1	-	-	200.0
問1-3〔地域別〕								
北海道・東北	275	13.5	4.0	6.2	3.6	0.4	2.5	296.0
関東	678	8.7	6.0	6.6	3.7	0.9	3.1	306.5
中部・北陸	418	11.2	9.1	6.5	3.1	0.5	2.9	302.6
近畿	367	12.5	6.3	7.1	4.6	1.6	2.5	304.9
中国・四国	229	13.5	4.8	6.1	2.6	1.7	2.2	296.5
九州・沖縄	227	14.1	9.3	5.3	2.2	-	3.5	279.3
外国	-	-	-	-	-	-	-	0.0
無回答	21	4.8	-	-	4.8	-	19.0	176.2
問1-4〔がん経験の有無別〕								
はい	145	8.3	5.5	5.5	4.1	0.7	4.1	275.2
いいえ	2060	11.7	6.7	6.5	3.4	0.9	2.9	301.1
無回答	10	10.0	-	-	-	-	10.0	250.0
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕								
はい	954	13.7	7.1	6.6	3.2	1.0	2.2	312.1
いいえ	1250	9.7	6.0	6.2	3.6	0.7	3.5	289.0
無回答	11	9.1	18.2	9.1	9.1	-	9.1	336.4
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕								
言葉知っている、内容も知っている	512	19.1	4.7	6.4	5.1	1.6	1.4	325.2
言葉は知っている、内容は知らない	737	11.4	6.5	5.8	3.5	0.3	0.7	302.2
言葉もその内容も知らない	892	6.6	7.6	6.5	2.7	1.0	5.4	283.7
無回答	74	16.2	6.8	9.5	1.4	-	8.1	274.3
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕								
はい	1657	13.0	6.0	6.6	3.6	0.8	1.4	308.5
いいえ	532	6.8	8.6	5.8	3.0	0.9	4.3	278.4
無回答	26	3.8	-	-	3.8	-	73.1	126.9
問6-1〔オレンジバレーンプロジェクトの認知別〕								
はい	75	26.7	9.3	5.3	9.3	2.7	-	313.3
いいえ	2112	11.0	6.5	6.5	3.3	0.8	2.0	301.2
無回答	28	-	-	-	3.6	-	82.1	103.6

## 5 医療用麻薬について

### (1) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

問5-1 がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることをご存じですか。(〇は1つ)

	(総数)	はい	いいえ	無回答
総数	(2,215人)	74.8	24.0	1.2
(%)				

がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることを知っているかをきいたところ、「はい」が74.8%とほぼ4人に3人である。

年代別にみると、「はい」が50代(83.7%)にもっとも多く、60代(78.2%)、40代(74.9%)、30代(72.6%)と続いている。

性別にみると、「はい」が女性(76.5%)でやや高くなっている。

地域別では差はみられない。

がん経験の有無別では差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」が、(家族の中のがんの経験者が)いない人より約9ポイント高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「はい」の割合が高くなる傾向が見られ、“その内容も知っている”人では、93.2%に達している。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が88.0%と高くなっている。

<図5-1(1)、図5-1(2)>

図5-1(1) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

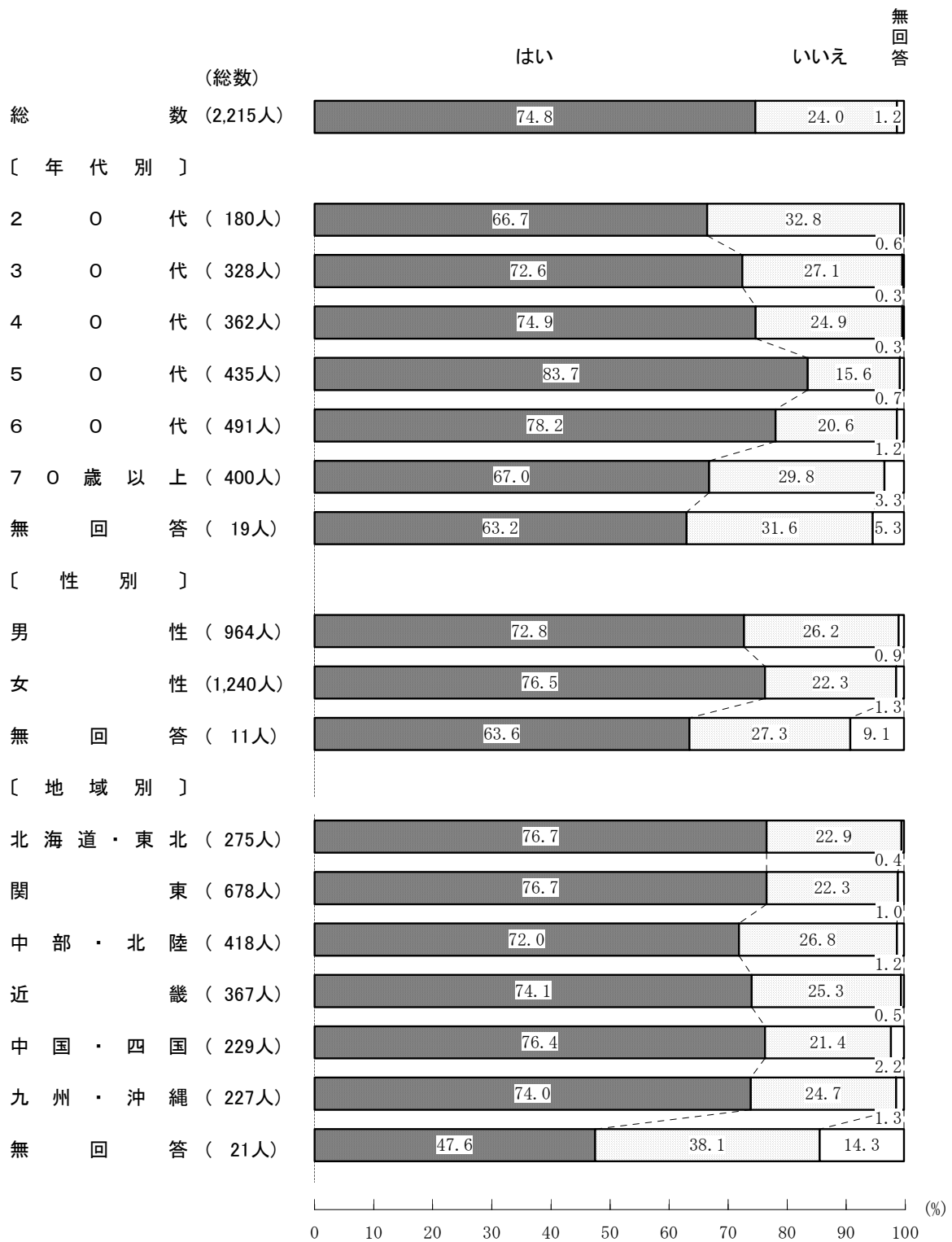
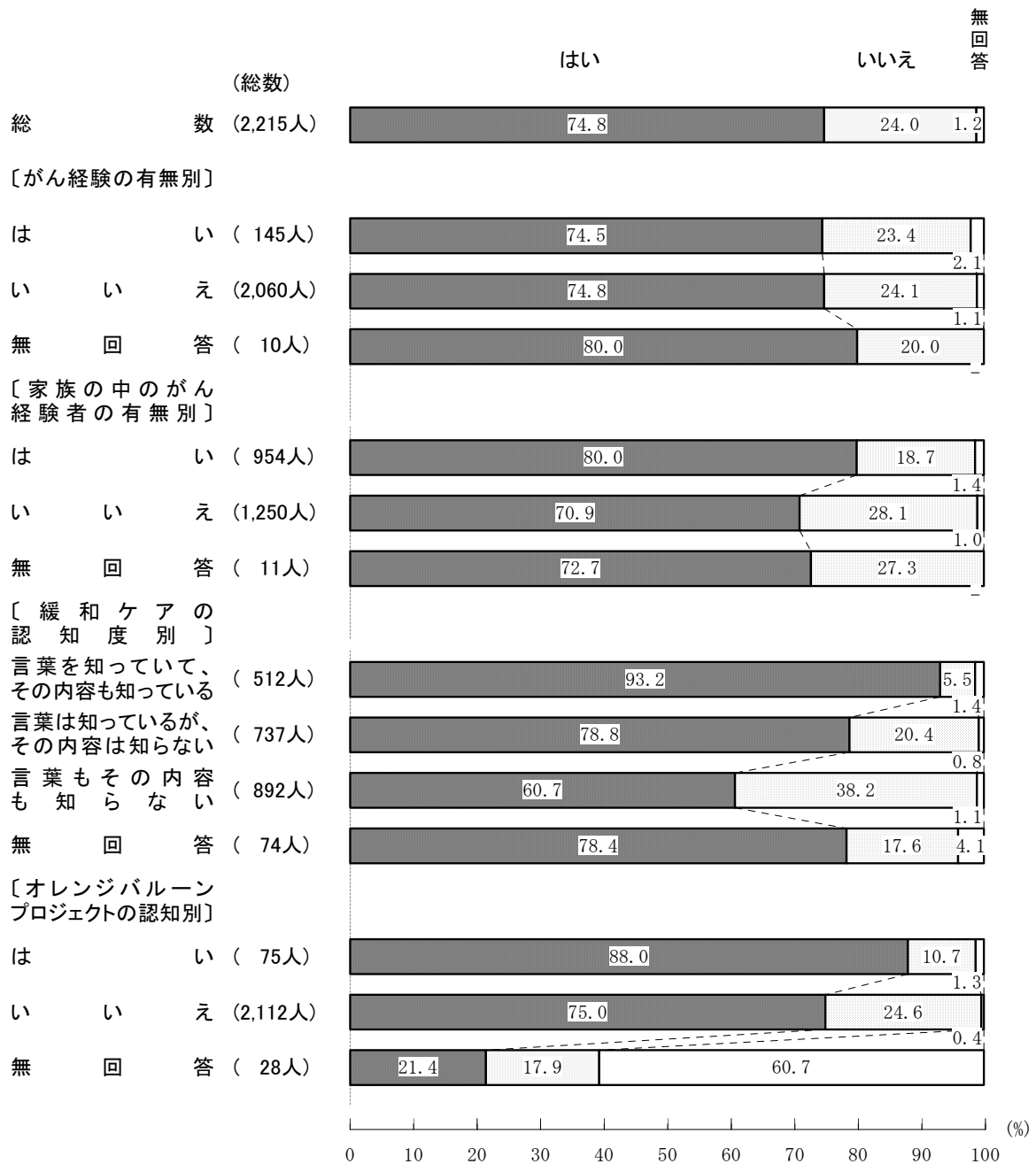
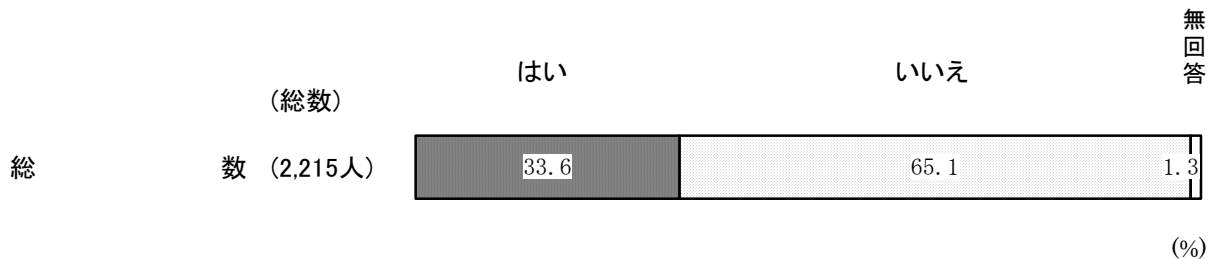


図5-1(2) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知



(2) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

問5-2 あなたは、がんの痛みの90%は医療用麻薬によって取ることができると言われていたことをご存じですか。(〇は1つ)



がんの痛みの90%は医療用麻薬によって取ることができると言われていたことを知っているかをきいたところ、「はい」が33.6%で、3人に1人の割合となっている

年代別にみると、「はい」が60代(43.2%)、70歳以上(41.3%)で高くなっている。

性別にみると、「はい」が女性(35.9%)が男性(30.6%)を5.3ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

がん経験者に限定してみると、「はい」が39.3%を占めている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」が39.2%を占めている。

緩和ケアの認知度別にみると、「はい」が“その内容も知っている”人の60.0%に達している。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」が44.2%と高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が72.0%を占めており高くなっている。

<図5-2(1)、図5-2(2)>

図5-2(1) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

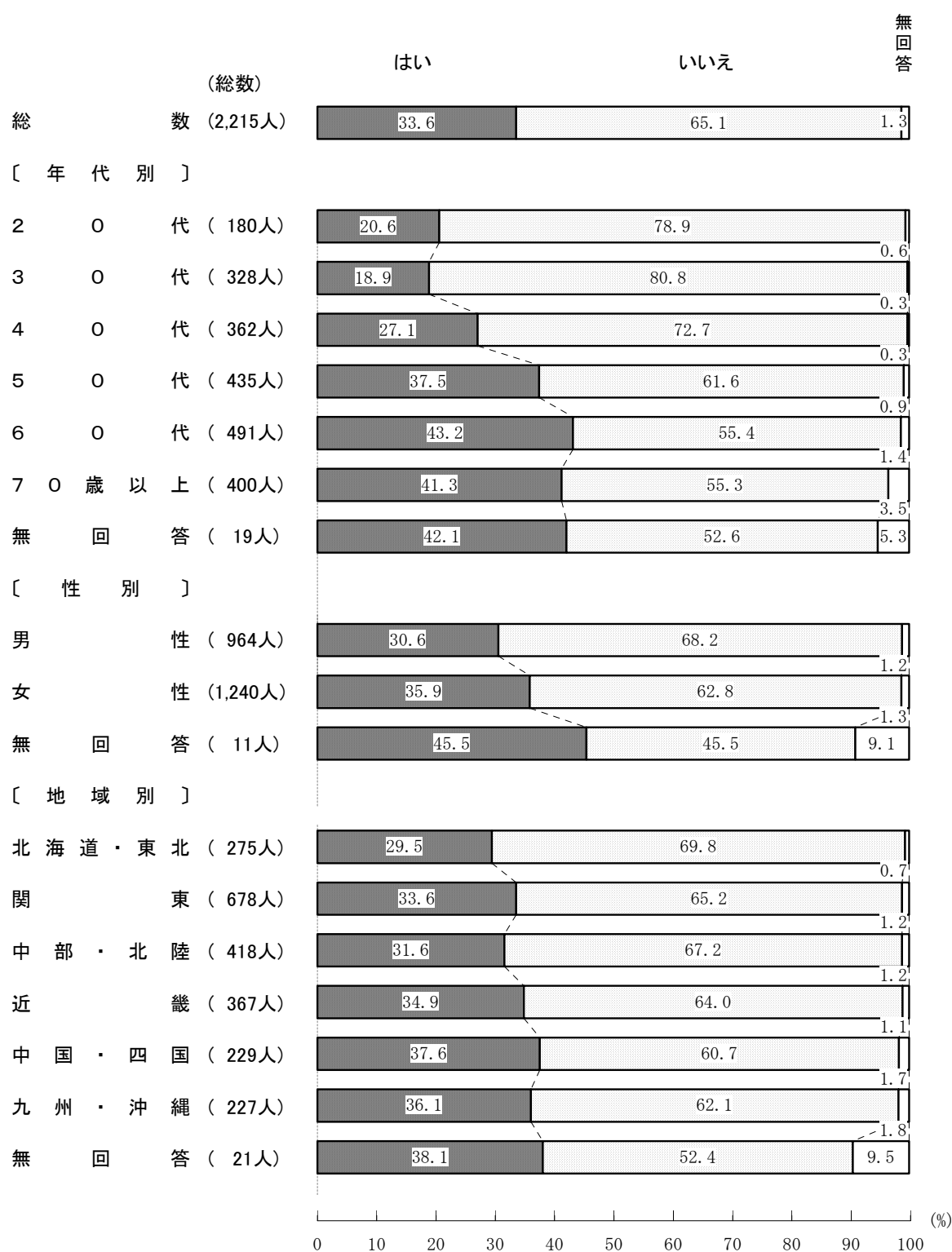
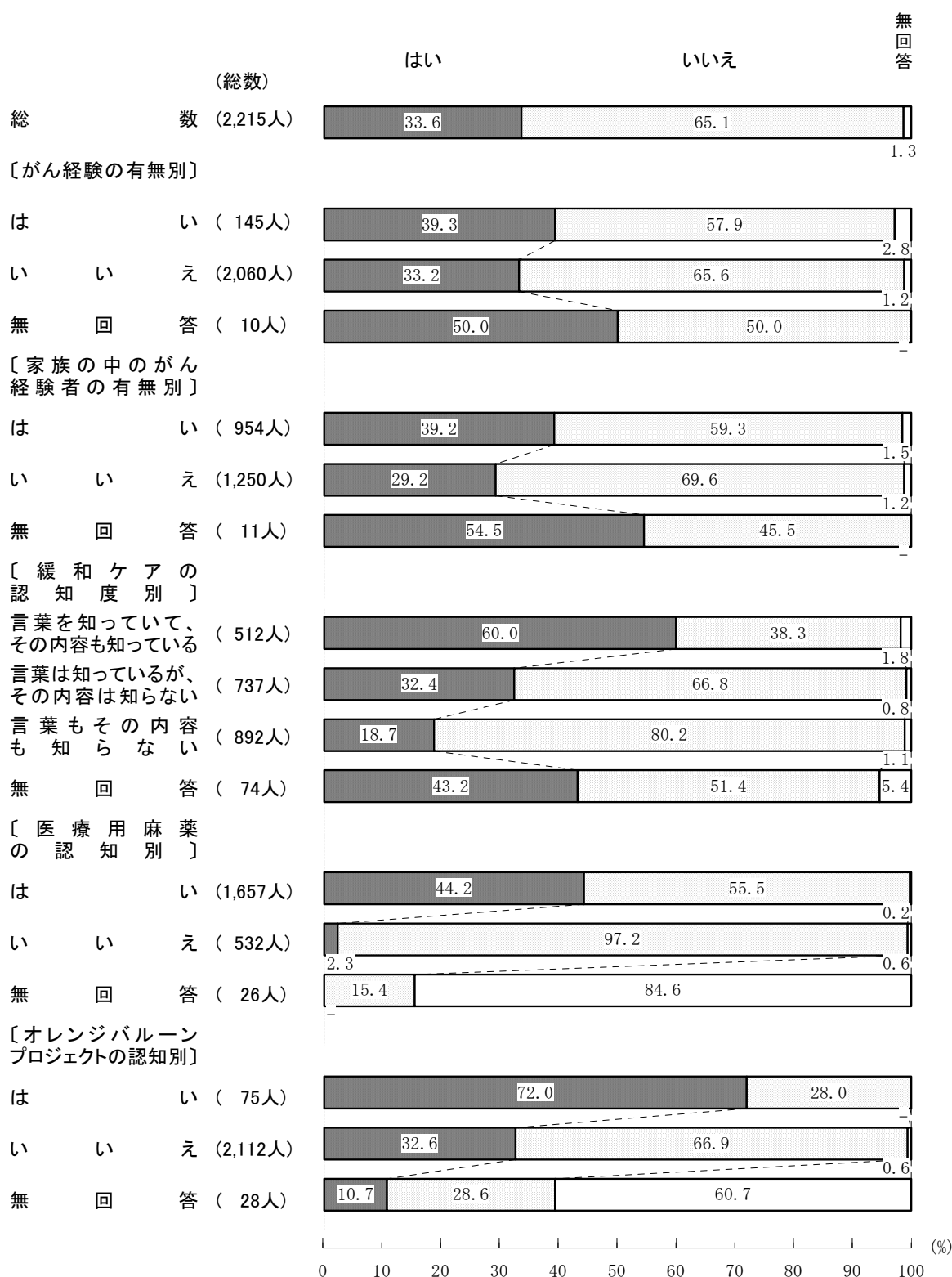


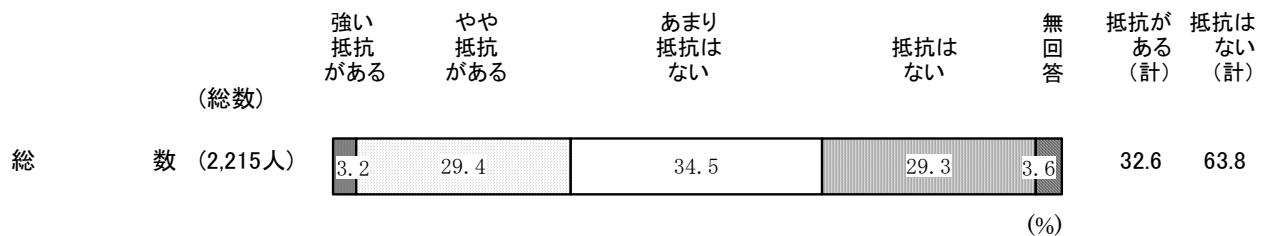


図5-2(2) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知



(3) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

問5-3 あなたは、がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗がありますか。  
(○は1つ)



がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗があるかをきいたところ、『抵抗がある(計)』が32.6% (「強い抵抗がある」3.2%+「やや抵抗がある」29.4%)、『抵抗はない(計)』が63.8% (「あまり抵抗はない」34.5%+「抵抗はない」29.3%) となっている。

年代別にみると、年代が低くなるほど『抵抗がある(計)』の割合が高くなる傾向がみられ、20代で45.6%と最も高くなっている。

性別にみると、『抵抗がある(計)』は女性(34.9%)が男性(29.6%)を5.3ポイント上回っている。地域別では差はみられない。

がん経験者の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、『抵抗がある(計)』が“その内容も知っている”人で26.4%と低くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、『抵抗がある(計)』が31.9%で、知らない人より4.8ポイント低くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、『抵抗がある(計)』が42.7%で、知らない人より約10ポイント高くなっている。

<図5-3(1)、図5-3(2)>

図5-3 (1) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

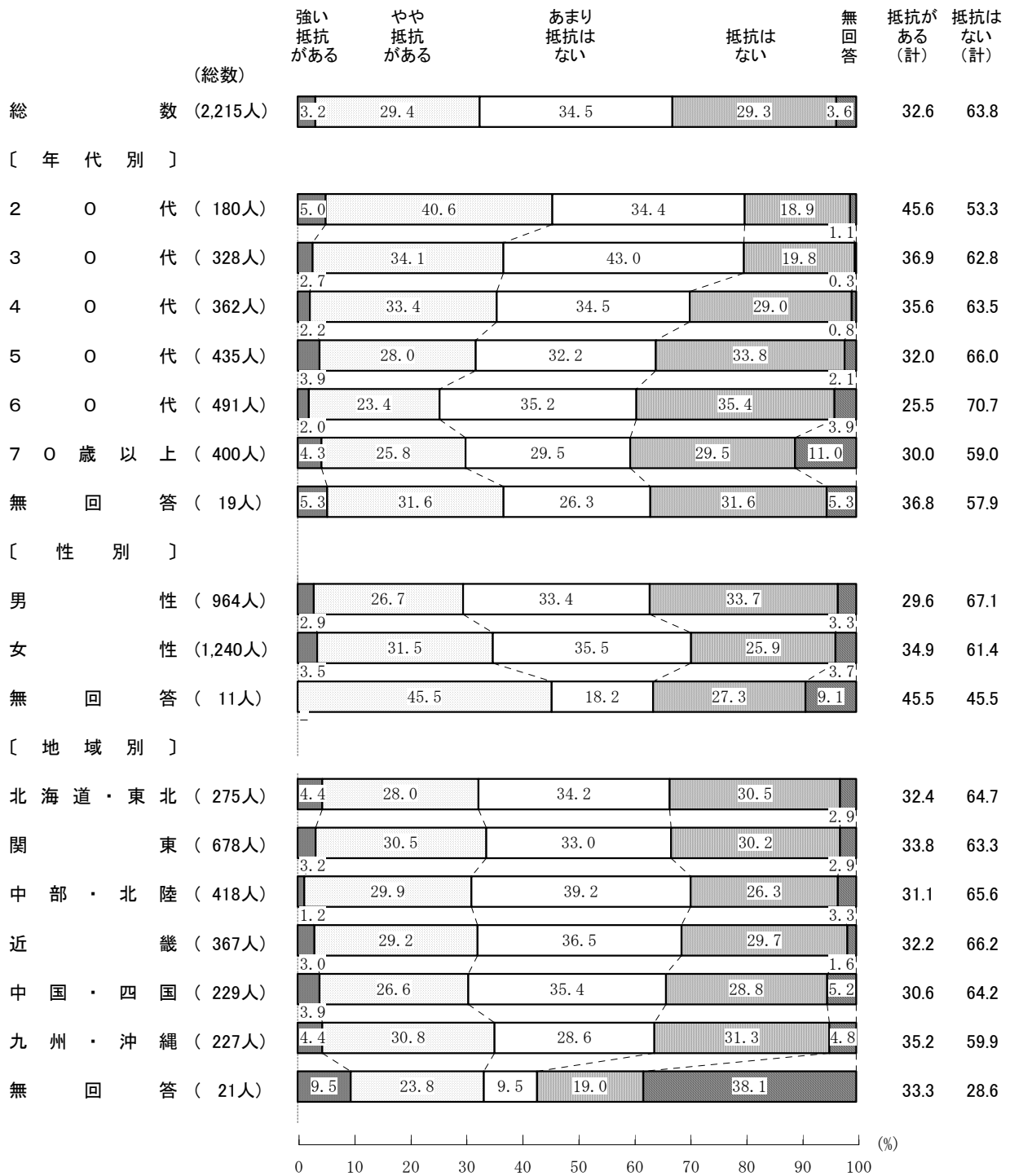
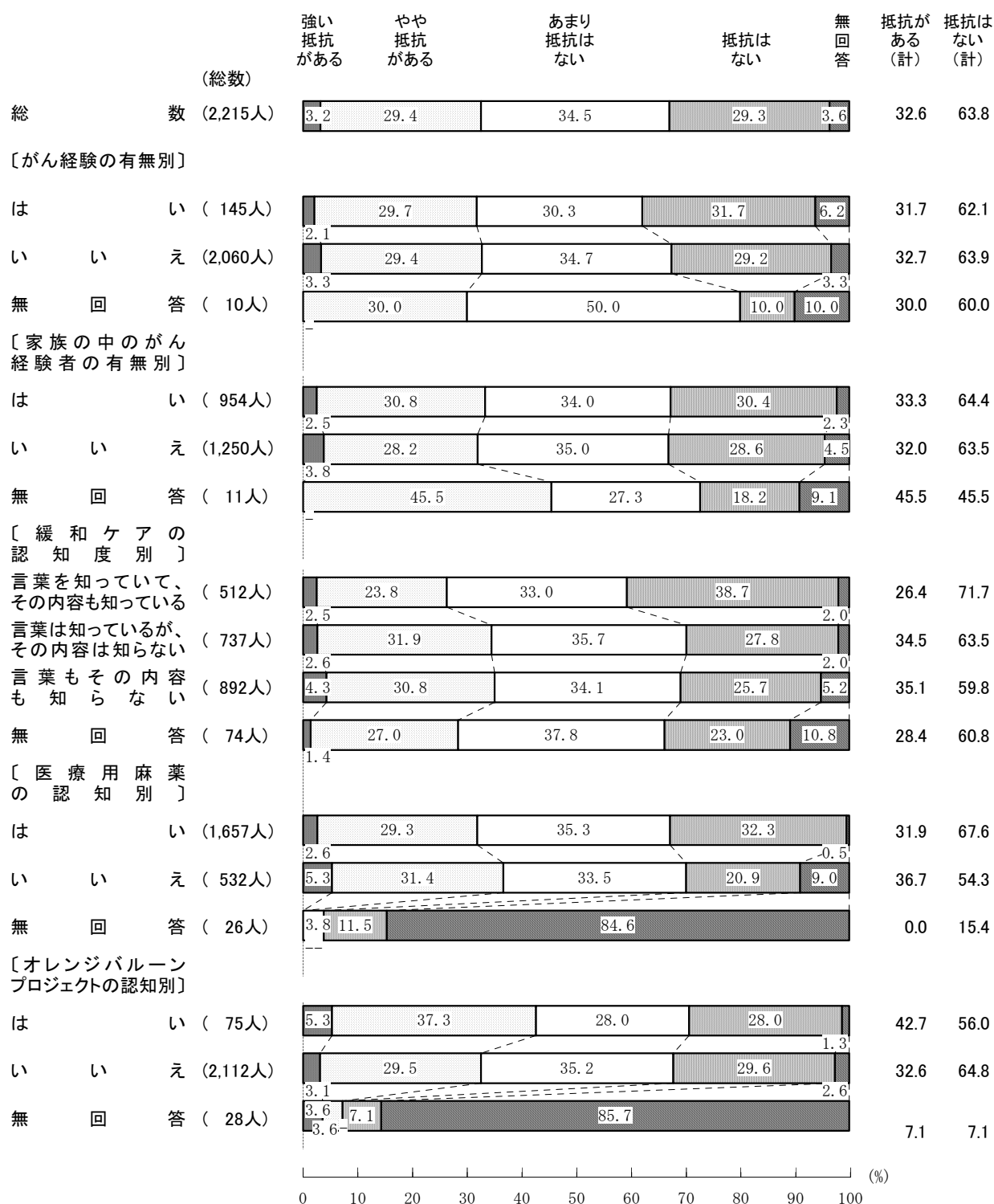


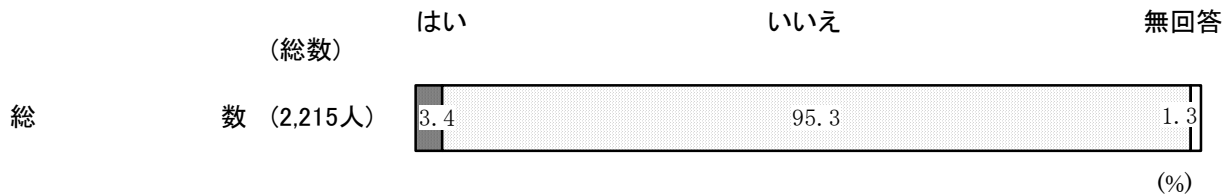
図5-3 (2) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感



## 6 「オレンジバルーンプロジェクト（Orange Balloon Project）」

### （1）「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

問6-1 国のがん対策で「緩和ケア」について広く国民に知ってもらうために「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることをご存じですか。（○は1つ）



「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っているかをきいたところ、「はい」が3.4%とほぼ30人に1人の割合となっている。

年代別にみると、「はい」が60代（5.7%）、70歳以上（5.8%）でやや高くなっている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「はい」が近畿（5.7%）でやや高くなっている。

がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人では「はい」が8.2%とやや高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」（4.0%）がやや高い。

<図6-1（1）、図6-1（2）>

図6-1(1) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

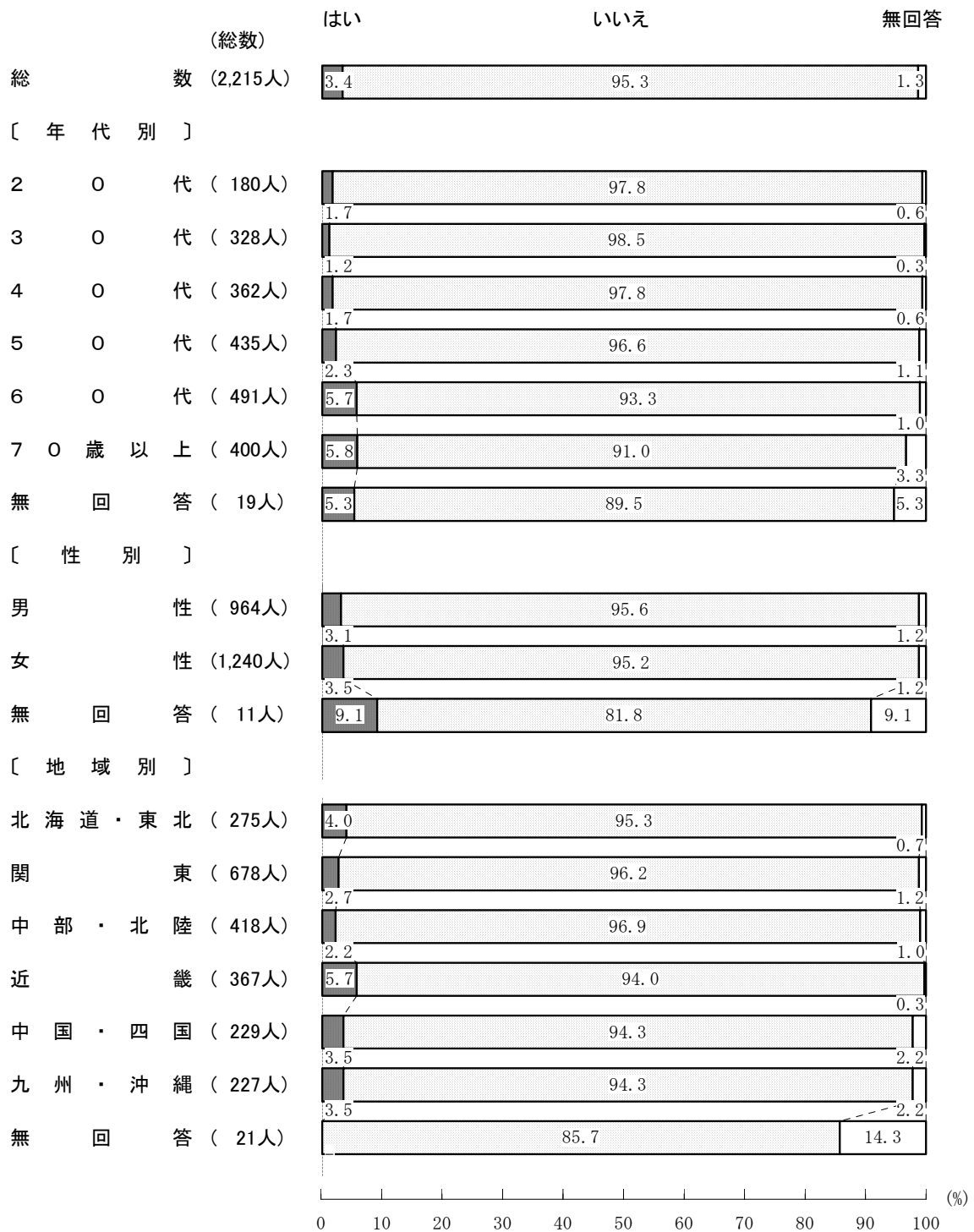
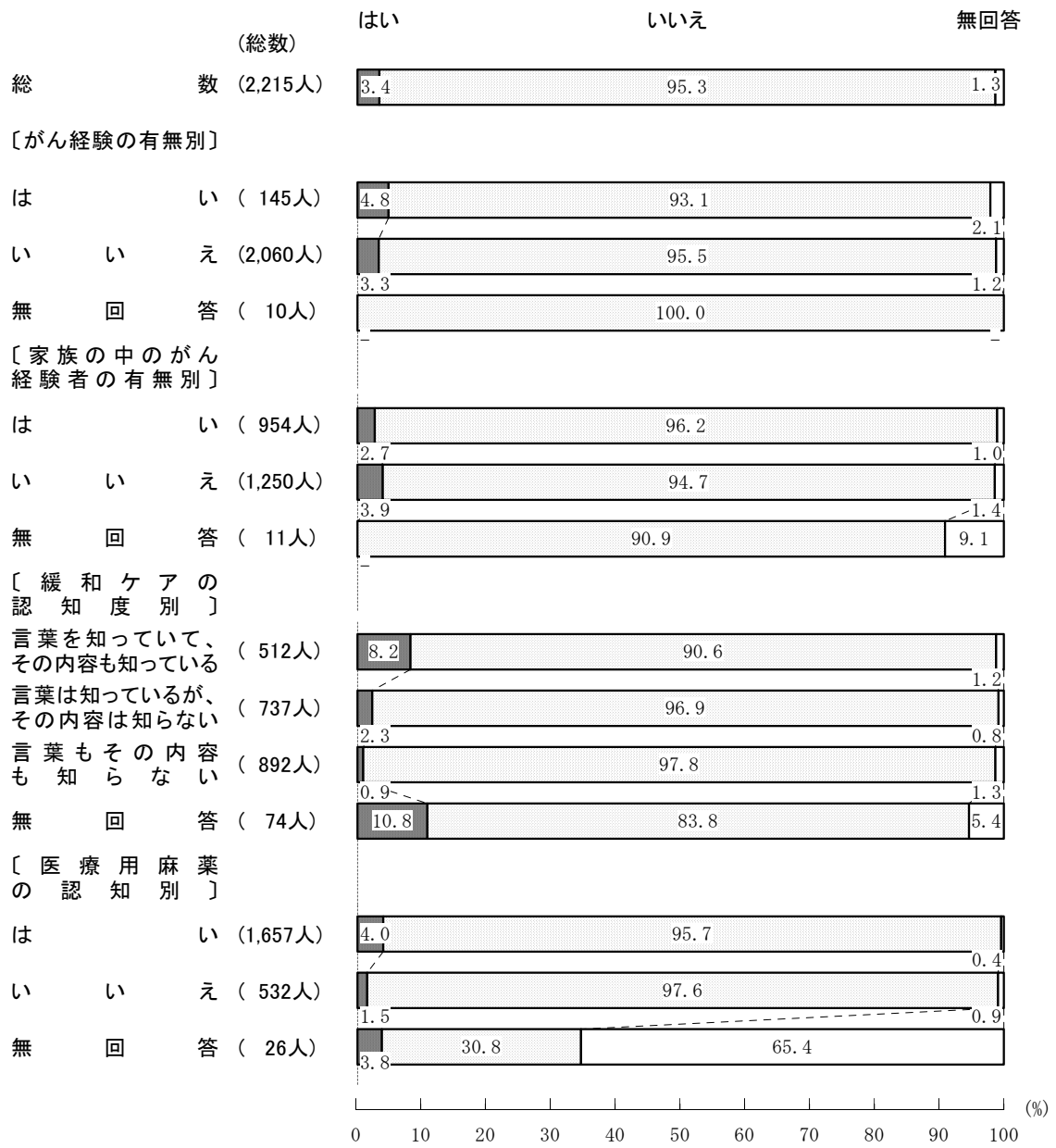


図6-1(2) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

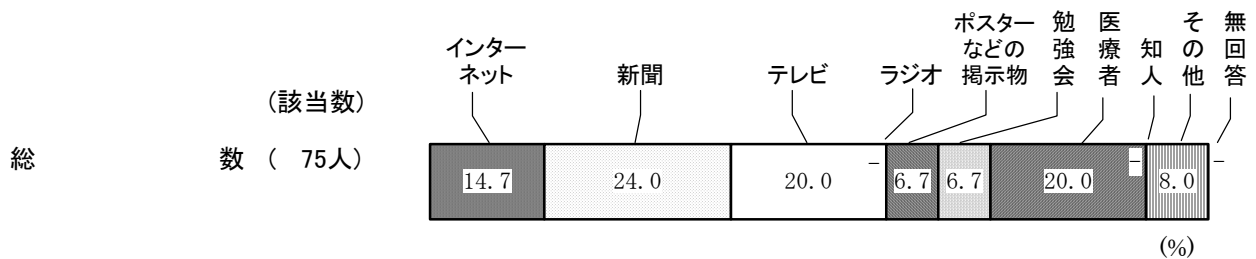


(1) - 1 「オレンジバレーンプロジェクト」の最初の認知経路

問6-1 補問1 (問6-1で1「はい」をお選びの方に)

「オレンジバレーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになりましたか。

(○は1つ)



実数 (人)	該当数	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ポスターなどの掲示物	勉強会	医療者	知人	その他	無回答
総数	75	11	18	15	-	5	5	15	-	6	-

「オレンジバレーンプロジェクト」という活動があることを知っていると答えた者(75人)に、最初に何で知ったかをきいたところ、「インターネット」が14.7%、「新聞」が24.0%、「テレビ」が20.0%、「ポスターなどの掲示物」が6.7%、「勉強会(シンポジウム、セミナーなど)」が6.7%、「医療者(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)」が20.0%となっている。「ラジオ」、「知人」と答えた者はいなかった。

※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

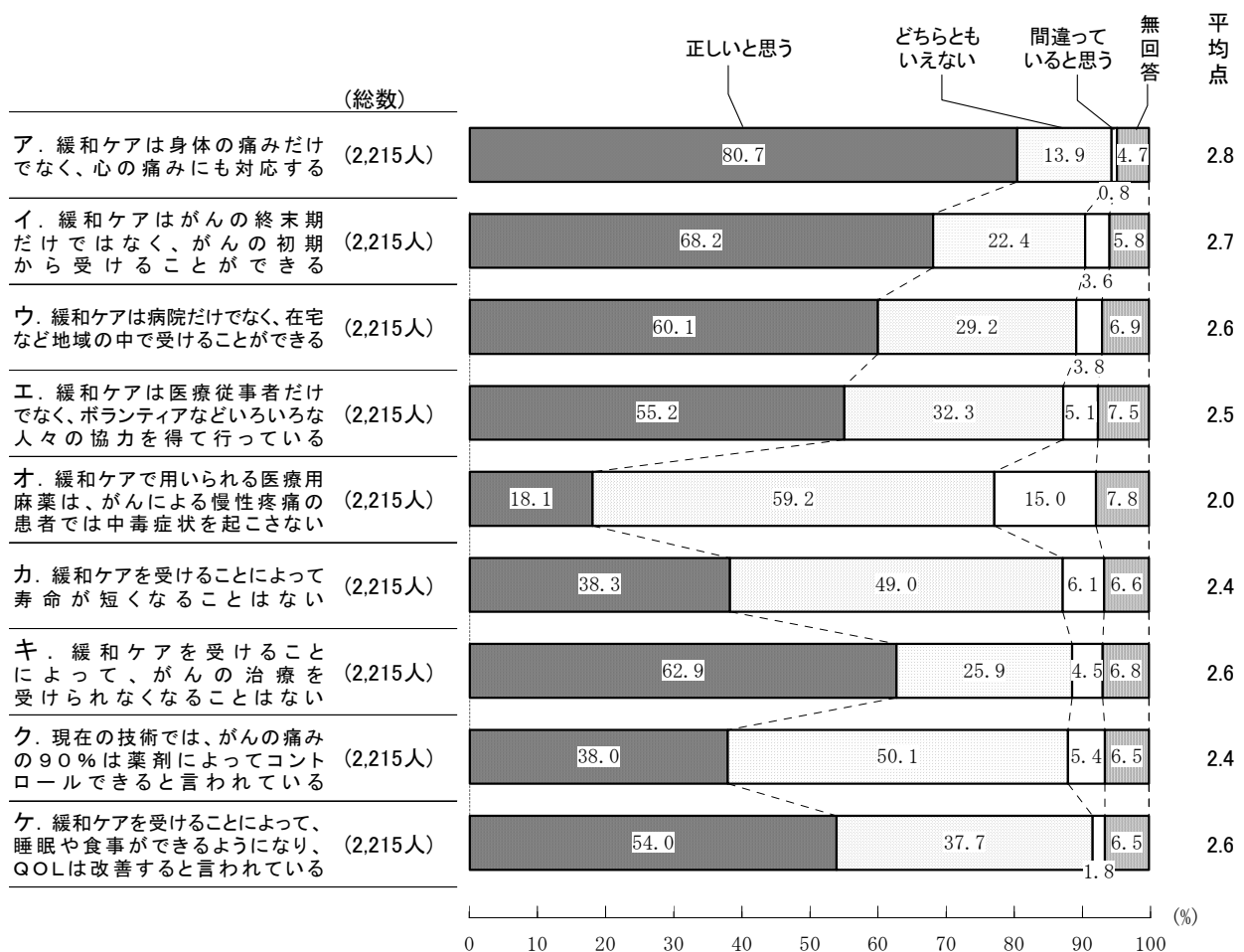


## 7 緩和ケアの考え方やイメージについて

問7 次の「緩和ケア」について書かれている（ア）～（ケ）の各文章を読んで、あなたのお考えに近いものに○をお付けください。（ア～ケまで、それぞれ○は1つずつ）

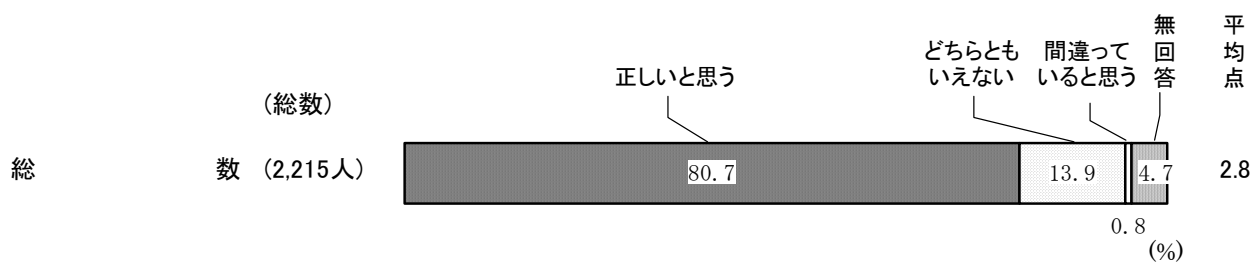
<グラフ右横の平均点について>

「正しい」＝3点、「どちらともいえない」＝2点、「間違っていると思う」＝1点として数値を積算し、その積算数値を無回答を除く回答者数で割ったもの（小数点1位で表示）。



（ア）～（ケ）の中で、最も「正しいと思う」の割合が高いものは（ア）（80.7%）で、以下、（イ）（68.2%）、（キ）（62.9%）の順となっている。一方、最も「正しいと思う」の割合が低いものは（オ）（18.1%）で、以下、（ク）（38.0%）、（カ）（38.3%）の順となっている。

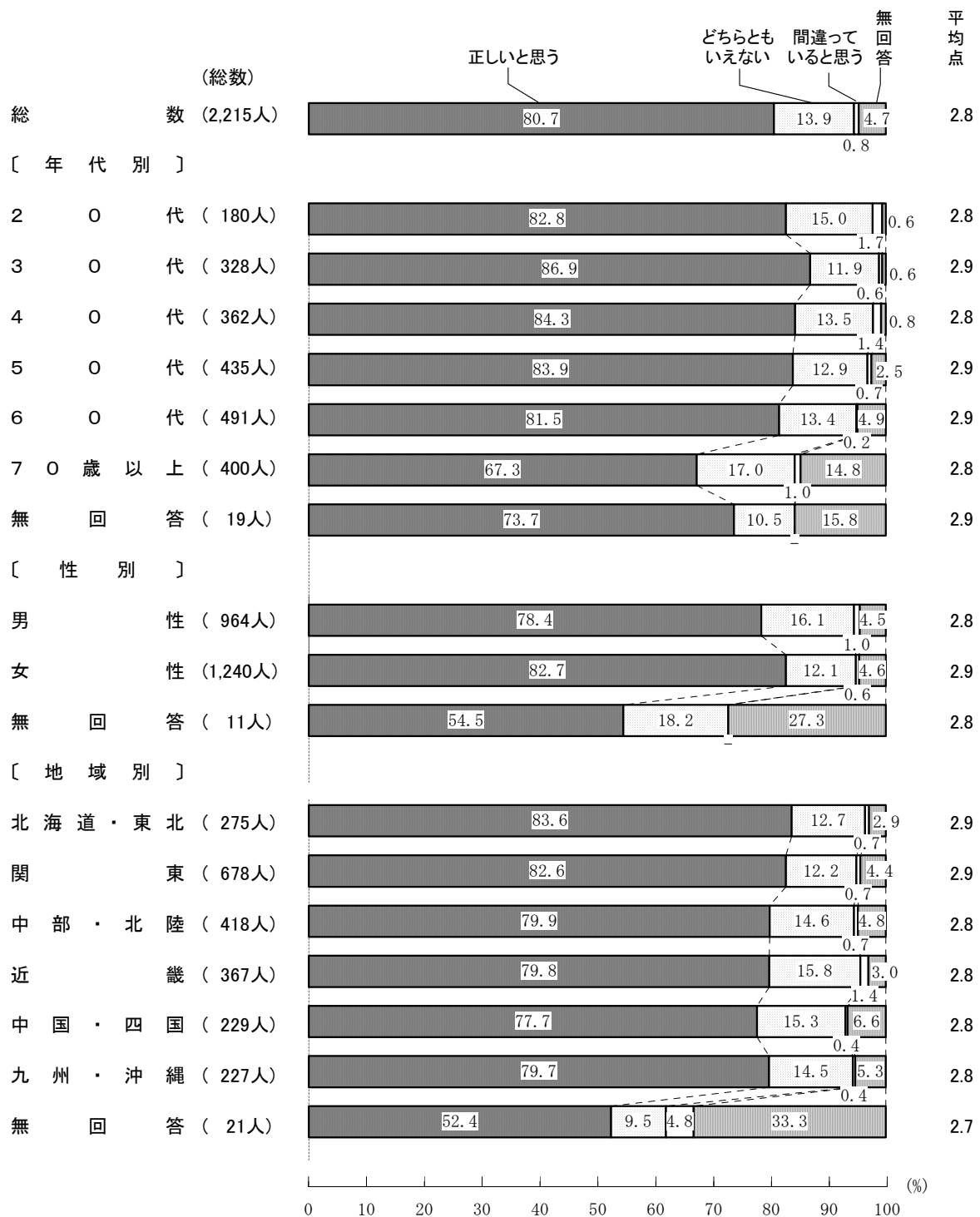
(1) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



上記(1)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が80.7%、「どちらともいえない」が13.9%、「間違っていると思う」が0.8%となっている。

<図7-1 (1)、図7-1 (2)>

図7-1 (1) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する

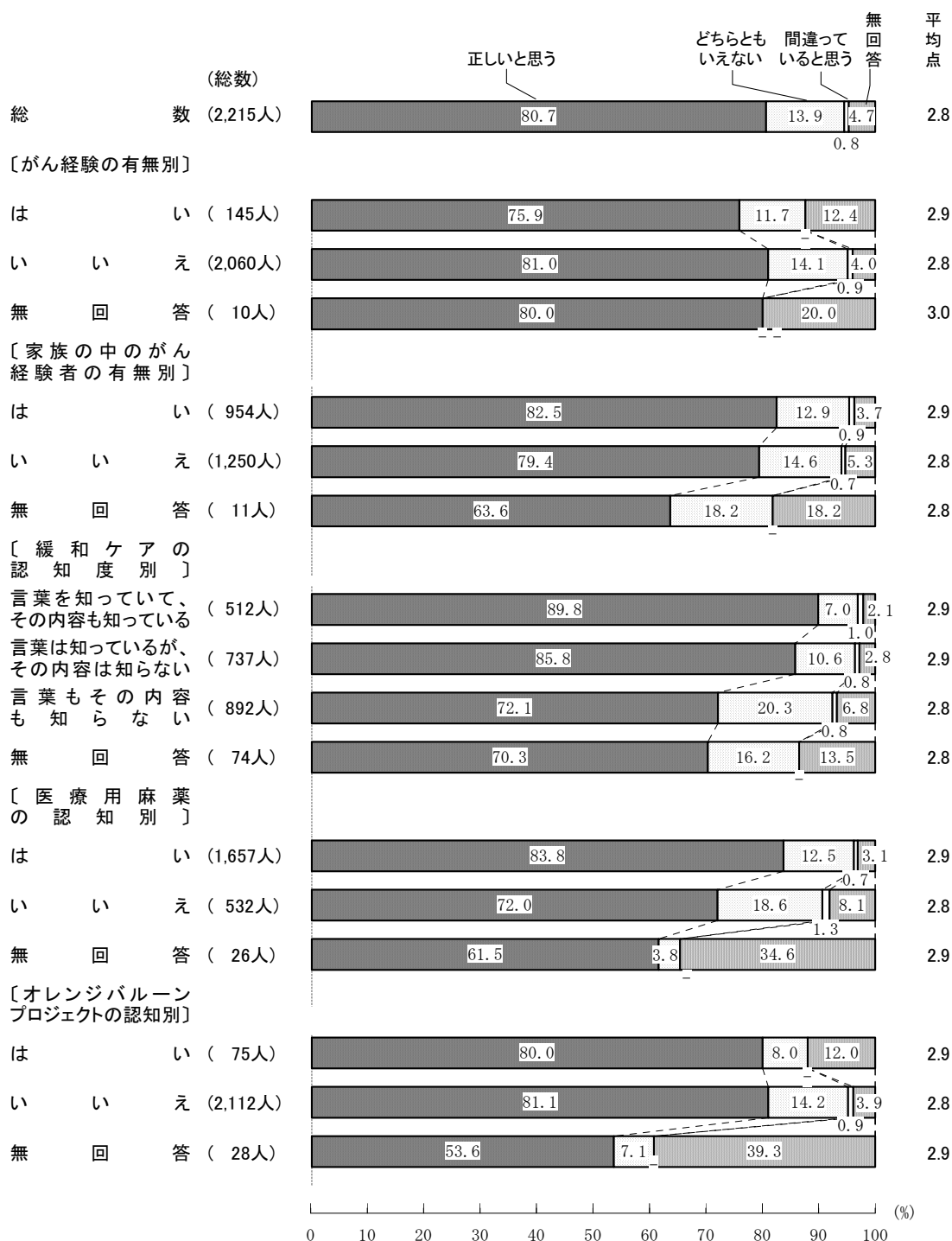


年代別にみると、「正しいと思う」が30代（86.9%）で最も高く、40代（84.3%）、50代（83.9%）、20代（82.8%）、60代（81.5%）と続いている。

性別にみると、「正しいと思う」は女性（82.7%）が男性（78.4%）を4.3ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

図7-1(2) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



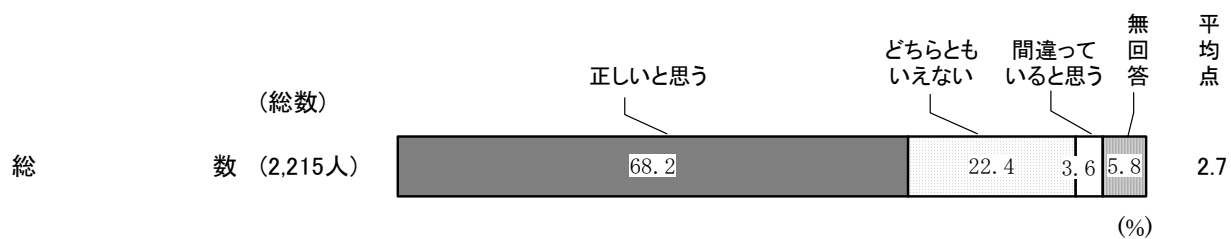
がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“その内容も知っている”で高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が83.8%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」の認知別では差はみられない。

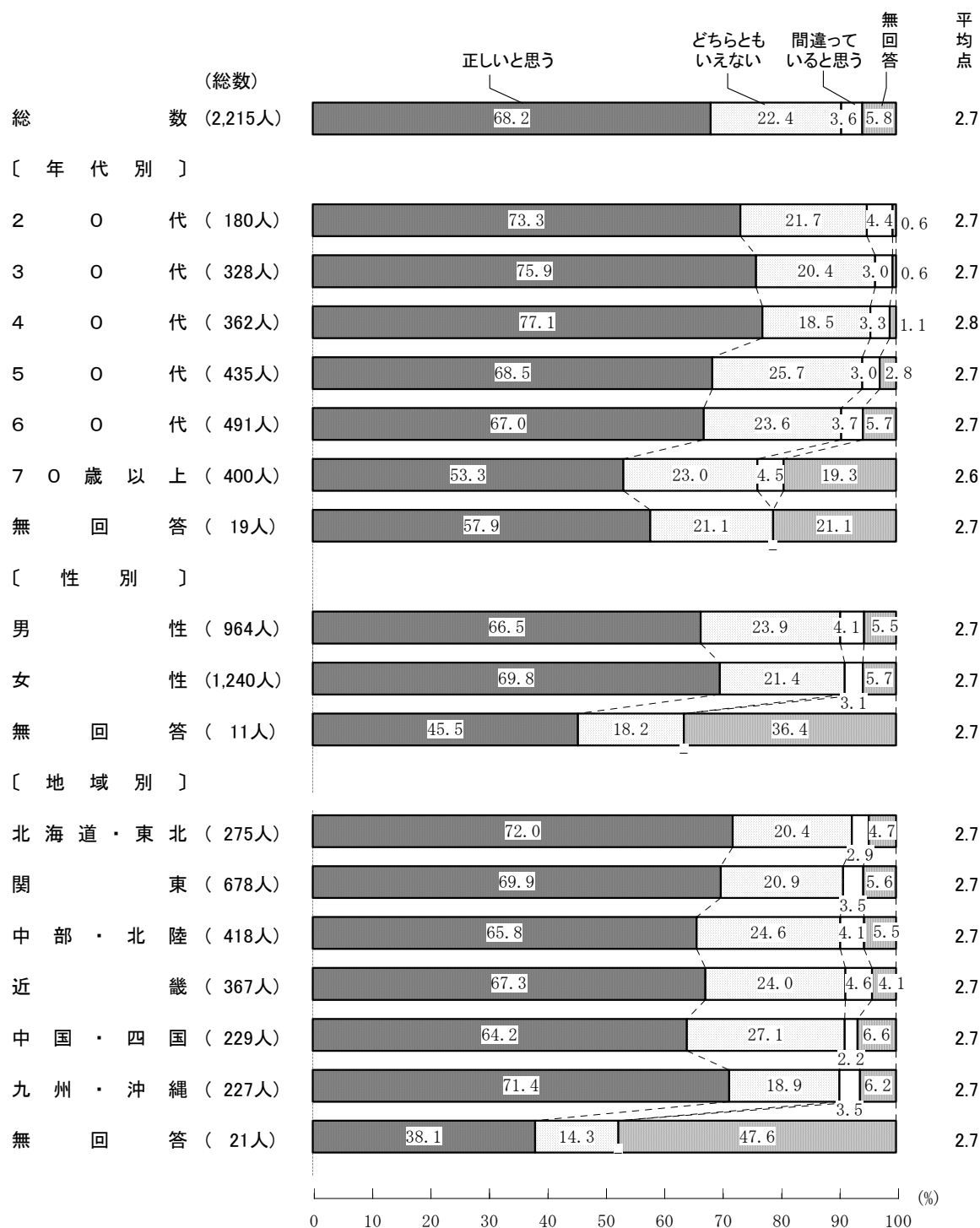
(2) イ 緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる



上記(2)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が68.2%、「どちらともいえない」が22.4%、「間違っていると思う」が3.6%となっている。

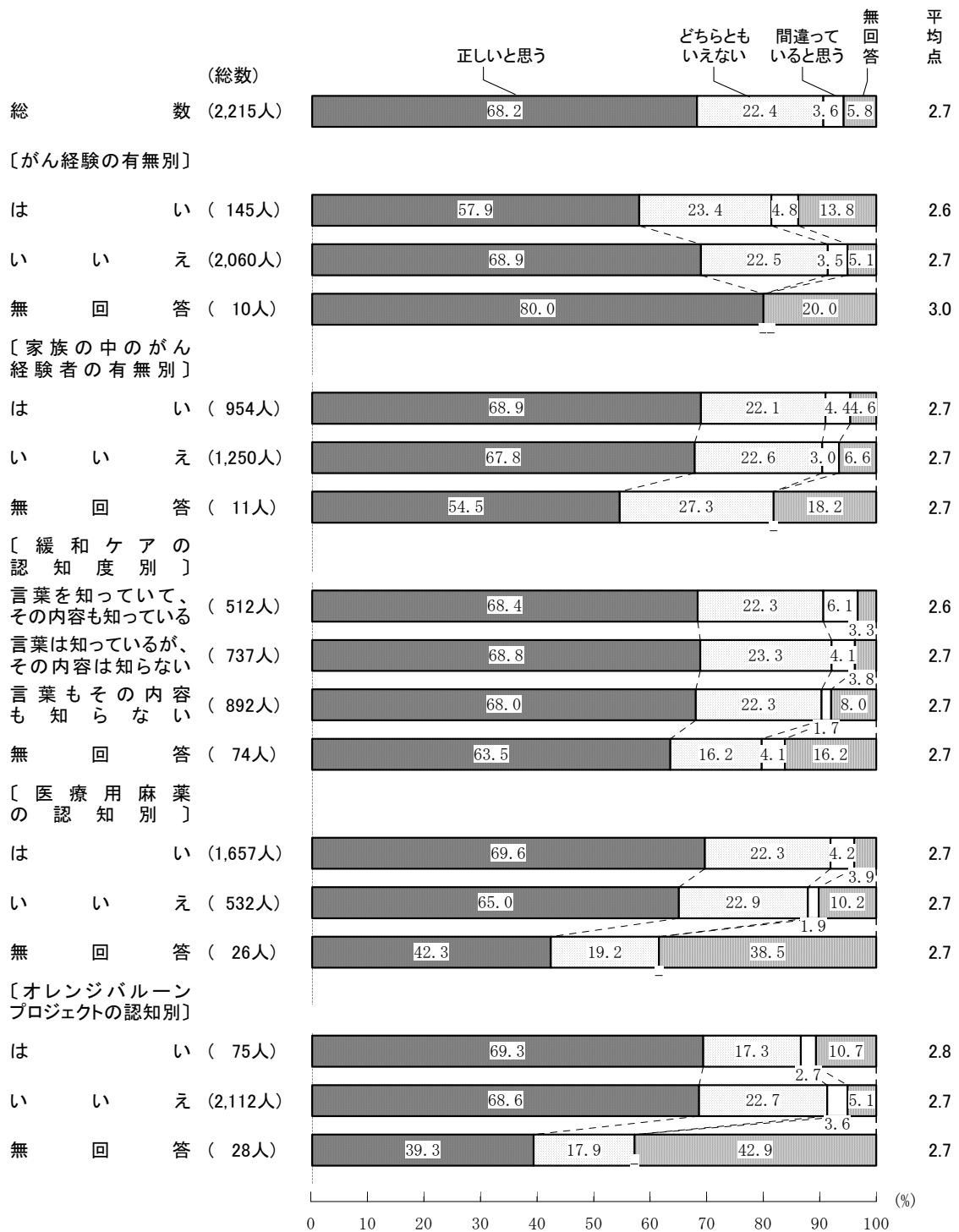
<図7-2 (1)、図7-2 (2) >

図7-2 (1) イ 緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる



年代別にみると、「正しいと思う」が30代（75.9%）と40代（77.1%）で高くなっている。性別、地域別ともに差はみられない。

図 7-2 (2) イ 緩和ケアはがんの終末期だけではなく、がんの初期から受けることができる



がん経験者に限定してみると、「正しいと思う」(57.9%)が、(がん経験の)ない人より11ポイント低くなっている。

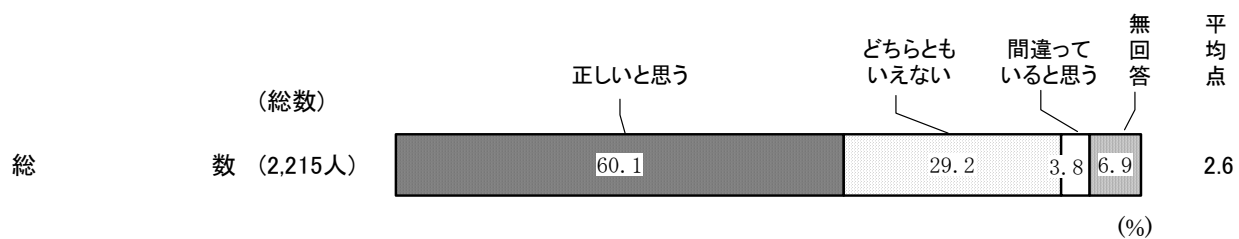
家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

緩和ケアの認知度別では差はみられない。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」(69.6%)が、知らない人より4.6ポイント高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」の認知別では差はみられない。

(3) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる

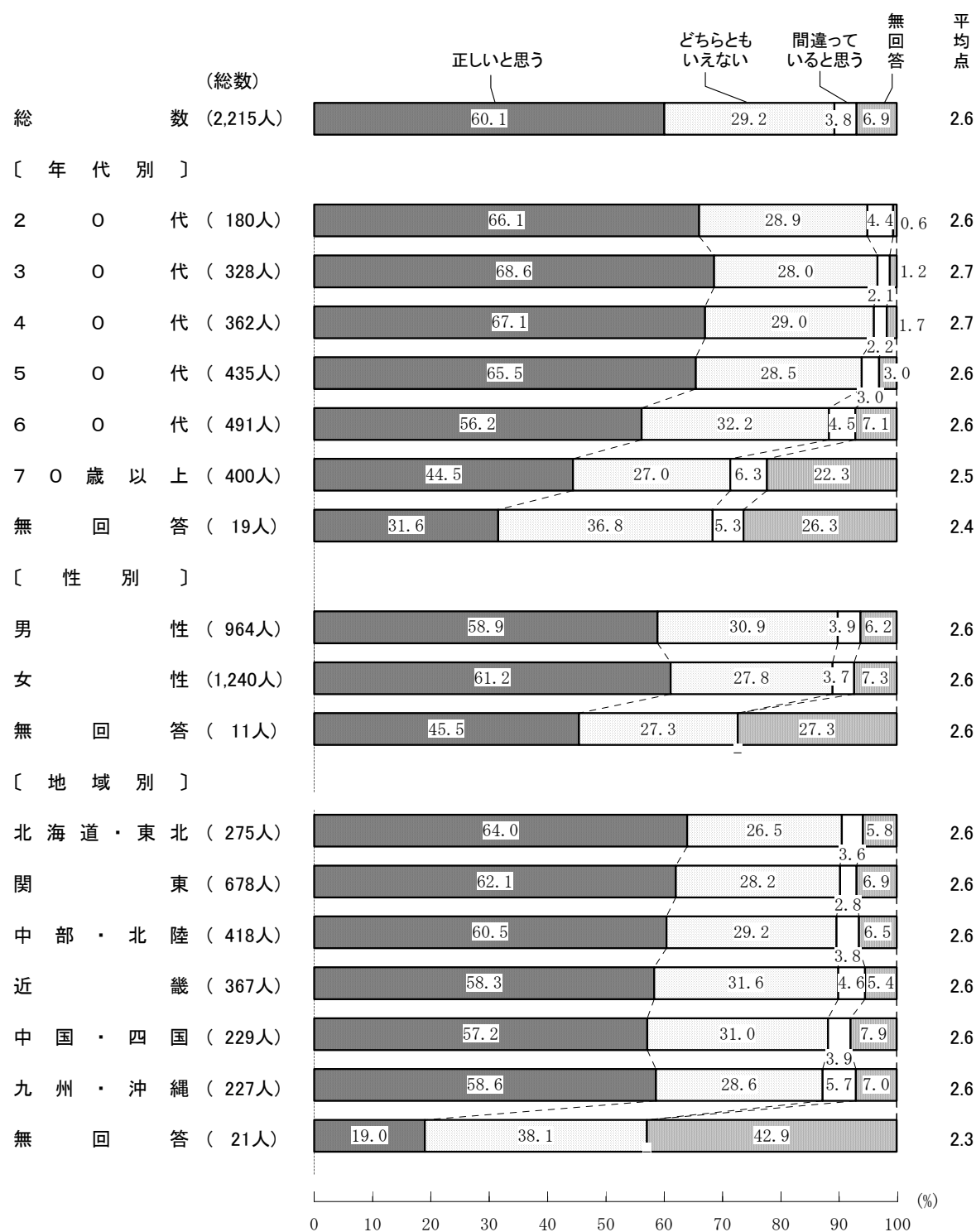


上記(3)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が60.1%、「どちらともいえない」が29.2%、「間違っていると思う」が3.8%となっている。

<図7-3(1)、図7-3(2)>



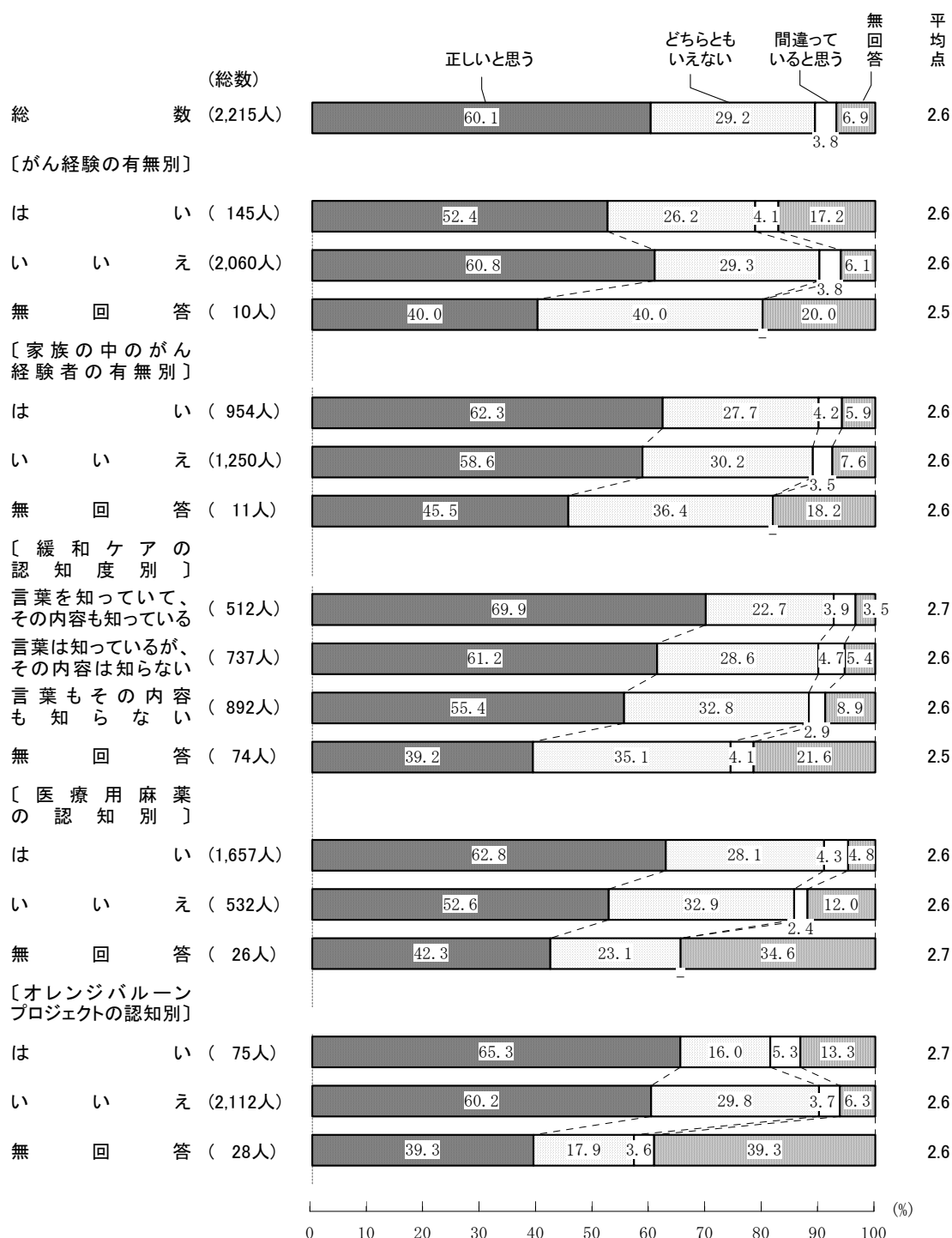
図 7-3 (1) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



年代別にみると、「正しいと思う」が20代(66.1%)、30代(68.6%)、40代(67.1%)、50代(65.5%)で高くなっている。

性別、地域別ともに差はみられない。

図7-3 (2) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



がん経験者に限定してみると、「正しいと思う」の割合が 52.4%で、全体平均より 7.7 ポイント低くなっている。

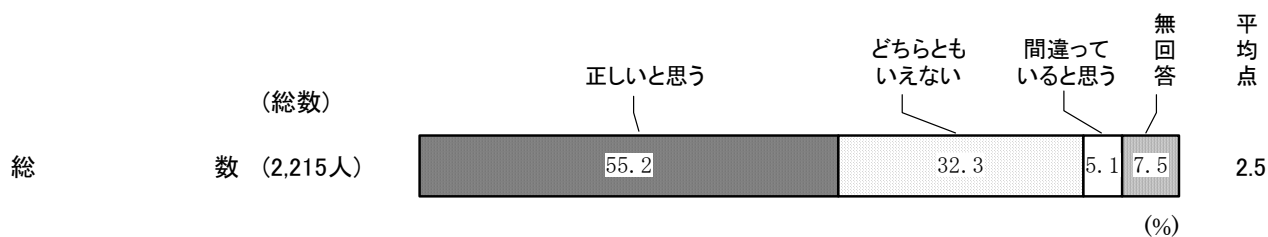
家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」の割合が“その内容も知っている”で 69.9%と全体平均より約 10 ポイント高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が 62.8%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」(65.3%)が、知らない人より 5.1 ポイント高くなっている。

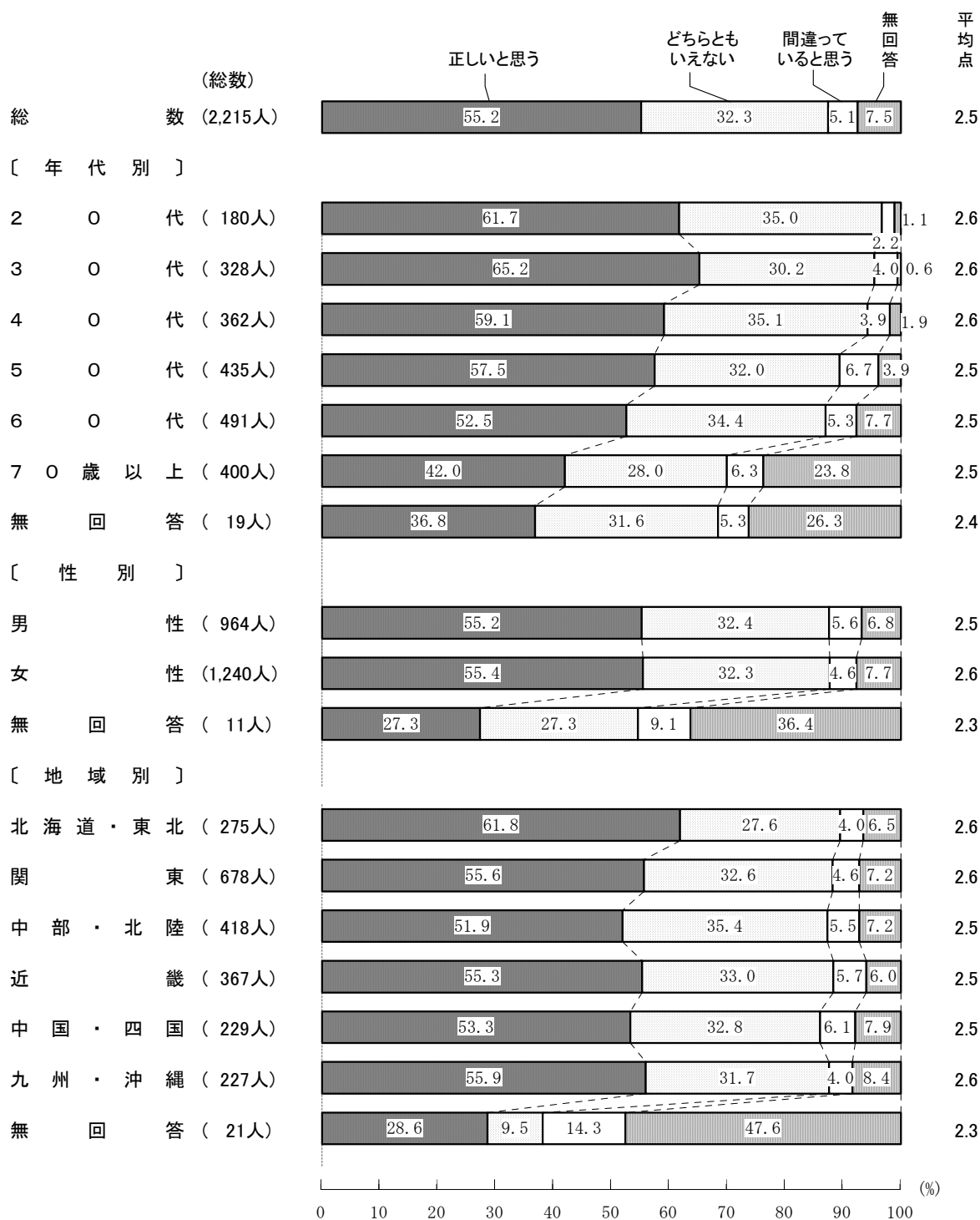
(4) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている



上記(4)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が55.2%、「どちらともいえない」が32.3%、「間違っていると思う」が5.1%となっている。

<図7-4(1)、図7-4(2)>

図7-4(1) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている

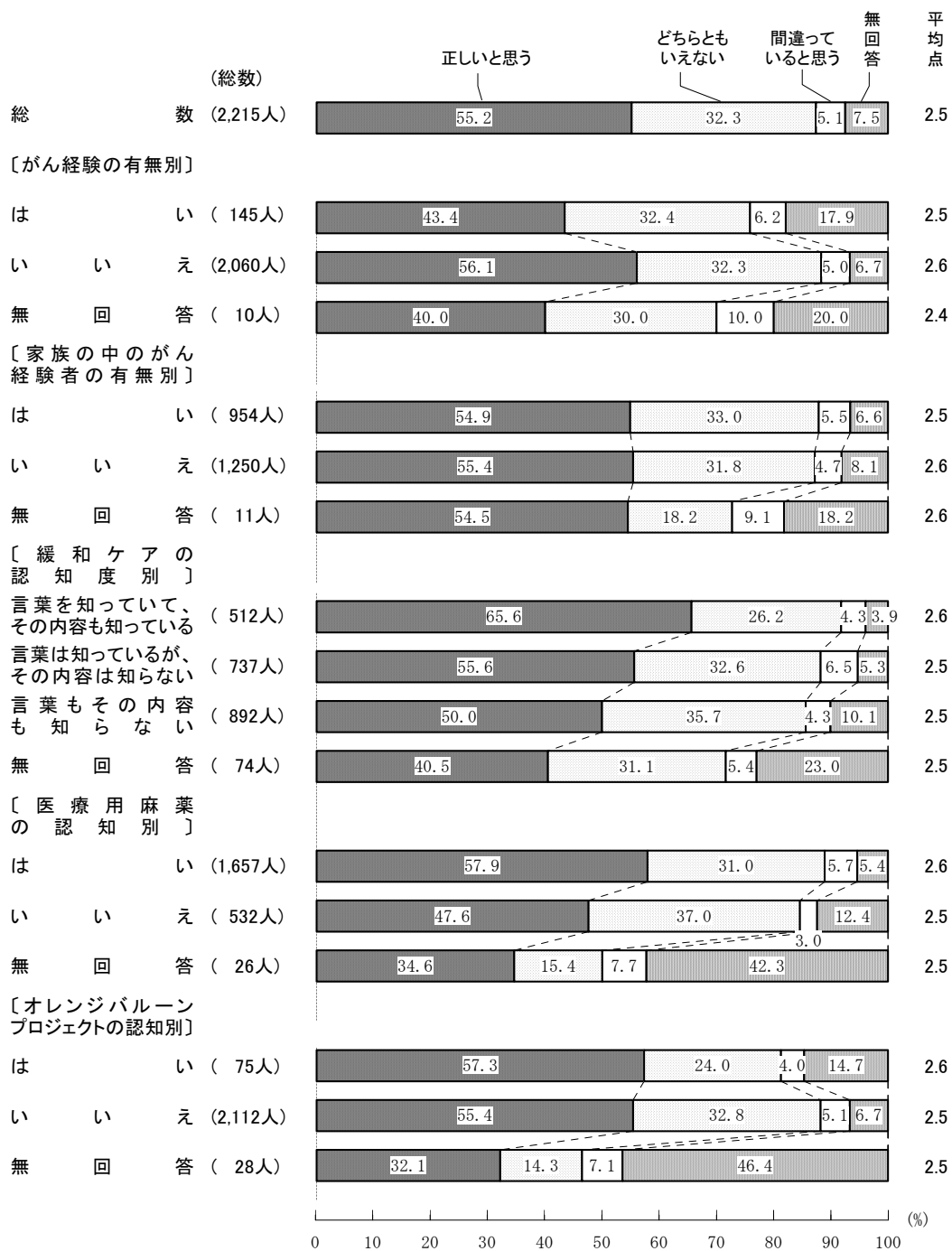


年代別にみると、「正しいと思う」が30代(65.2%)で高くなっており、20代(61.7%)、40代(59.1%)が続いている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「正しいと思う」が北海道・東北(61.8%)で高くなっており、全体平均を6.6ポイント上回っている。

図7-4 (2) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を  
得て行っている



がん経験者に限定してみると、「正しいと思う」(43.4%)が、(がん経験の)ない人より12.7ポイント低くなっている。

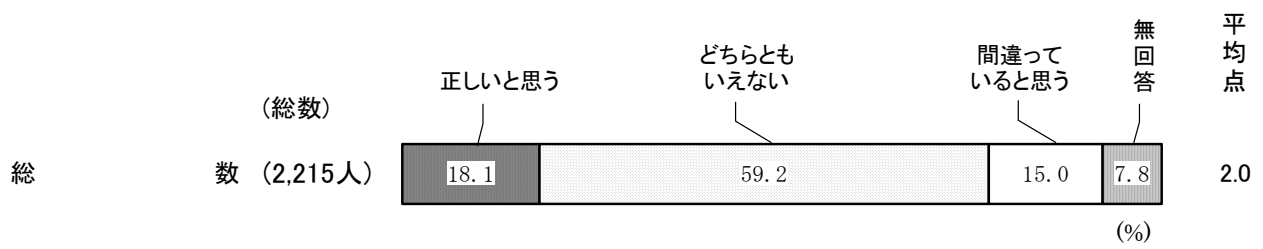
家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」の割合が“その内容も知っている”で65.6%と高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が57.9%と知らない人より約10ポイント高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」(57.3%)が、知らない人より約2ポイント高くなっている。

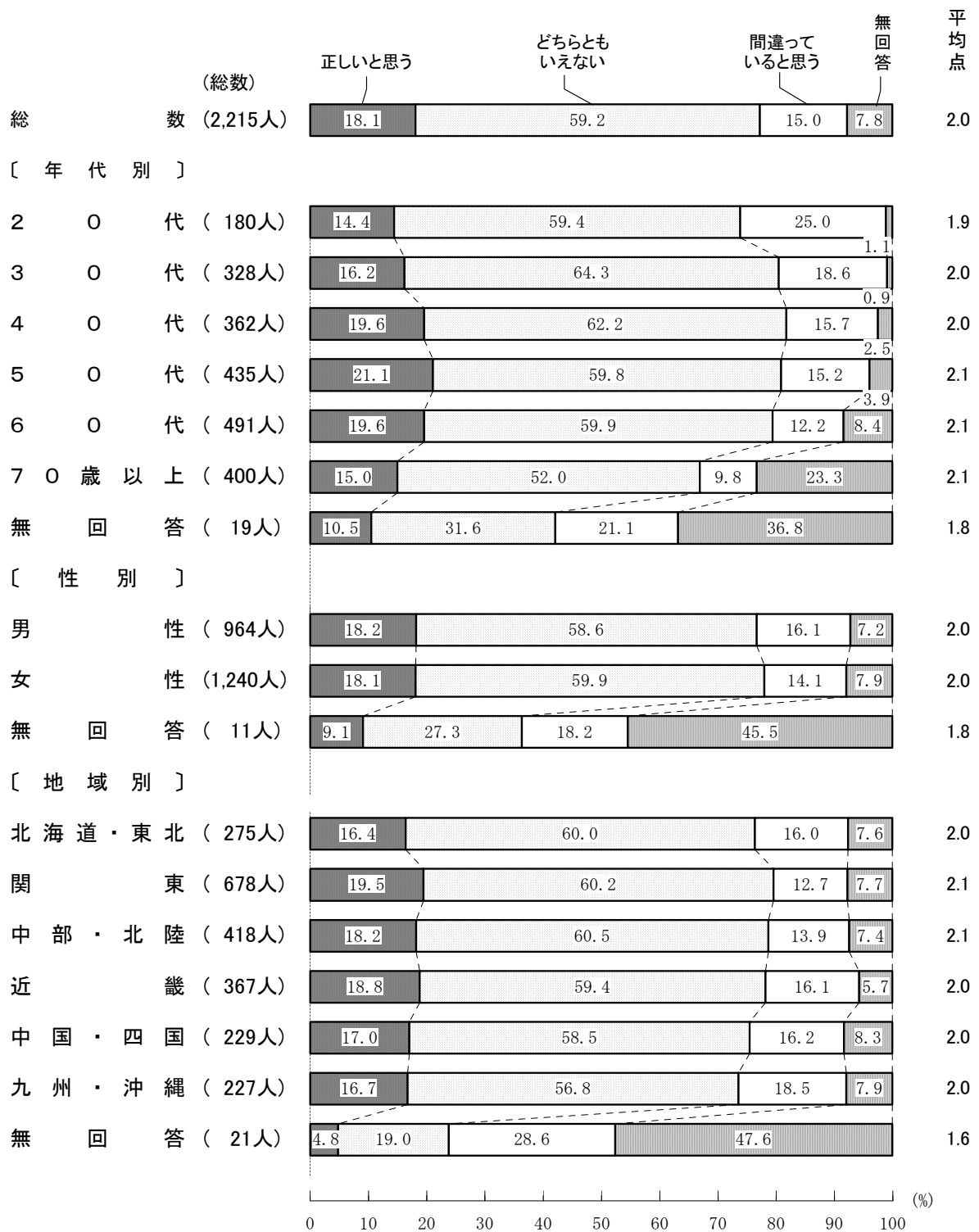
(5) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こさない



上記(5)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が18.1%、「どちらともいえない」が59.2%、「間違っていると思う」が15.0%となっている。

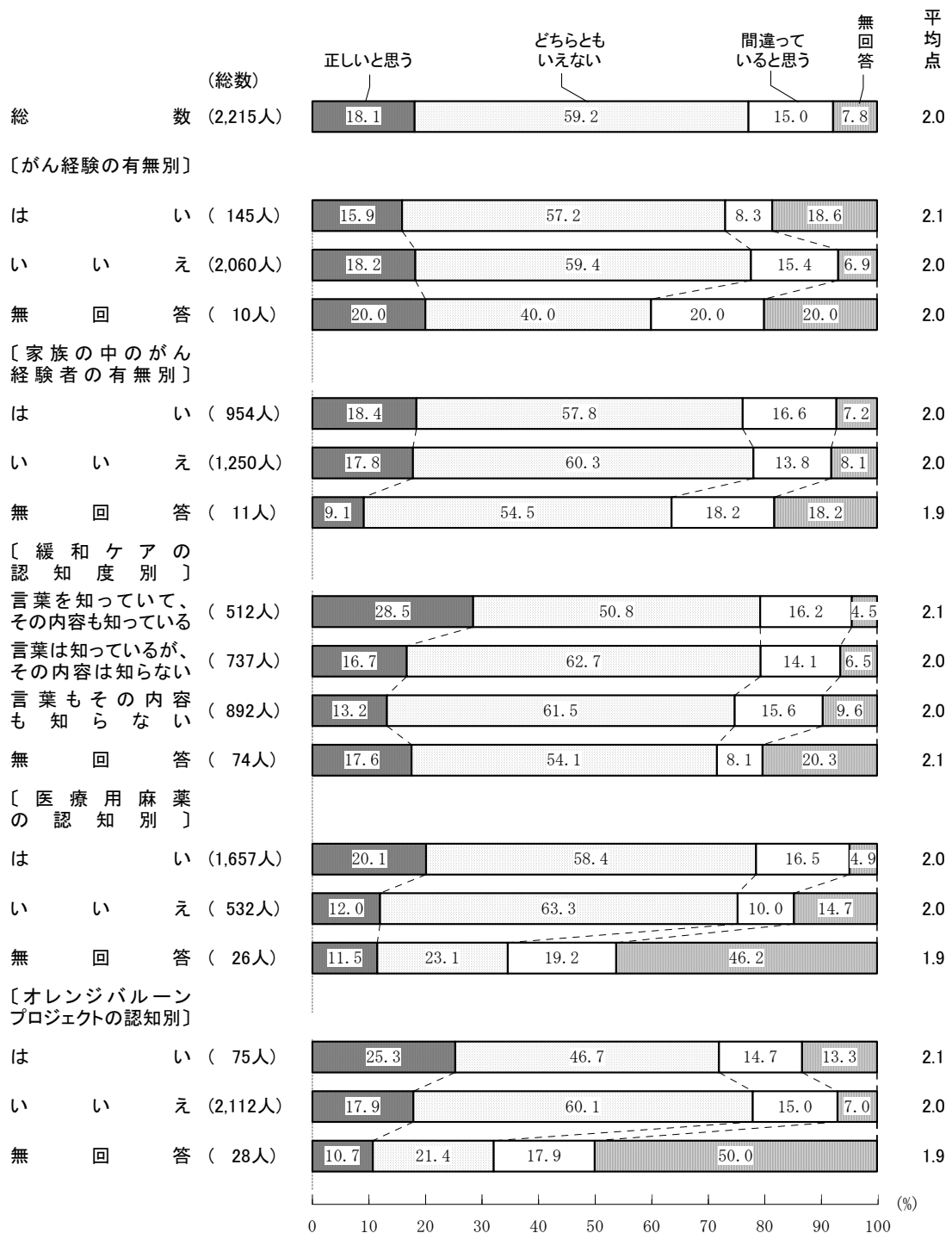
<図7-5 (1)、図7-5 (2) >

図7-5 (1) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こさない



年代別にみると、「間違っていると思う」が20代 (25.0%)、30代 (18.6%) で高くなっている。性別、地域別ともに差はみられない。

図7-5 (2) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こさない



がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

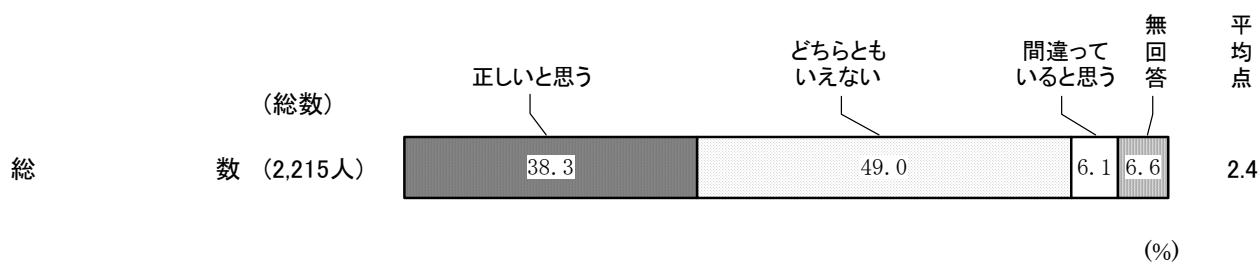
緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が「内容も知っている」(28.5%)で高くなっており、全体平均を10.4ポイント上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」(20.1%)、「間違っていると思う」(16.5%)が、ともに高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」(25.3%)が、知らない人より7.4ポイント高くなっている。



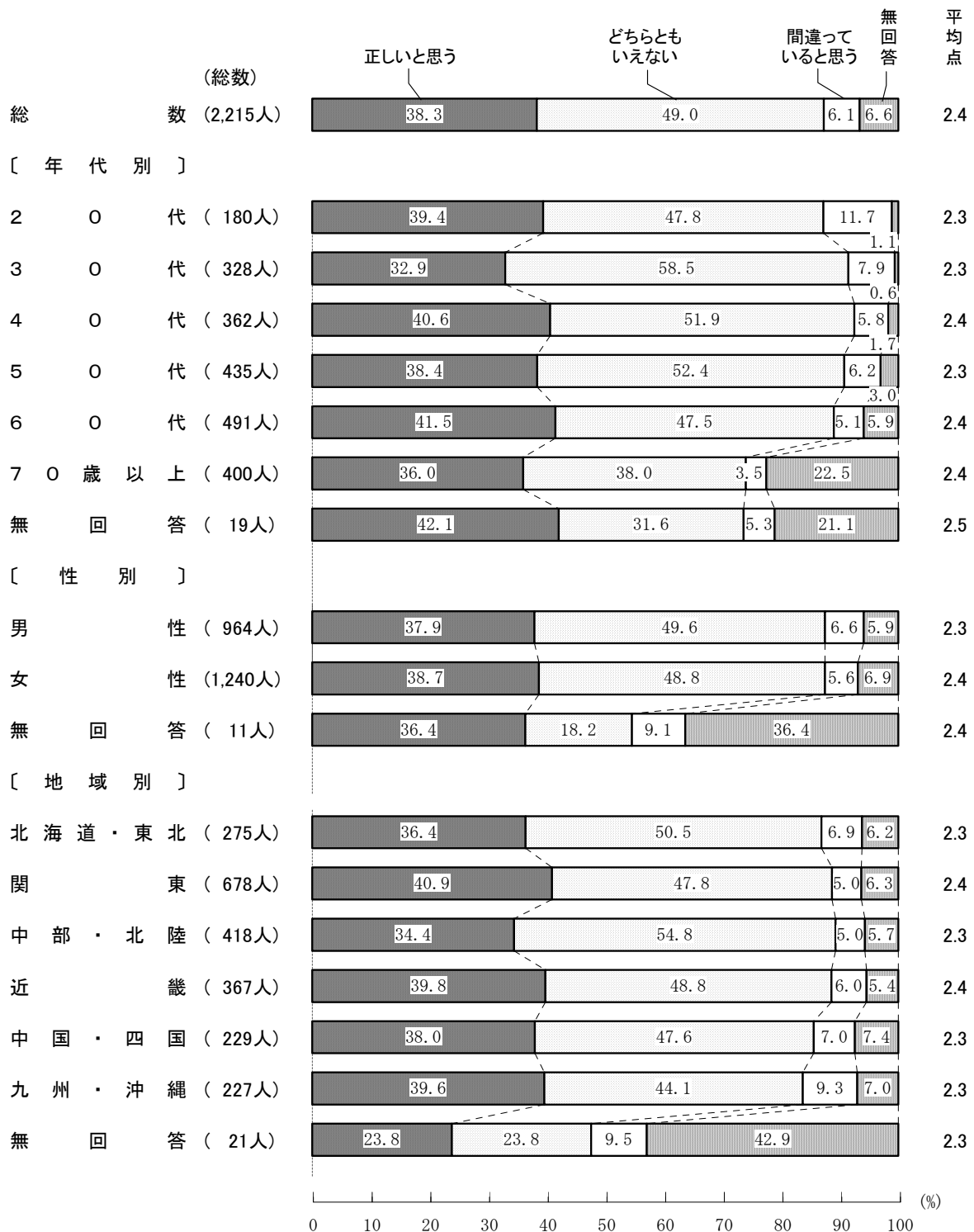
(6) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



上記(6)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が38.3%、「どちらともいえない」が49.0%、「間違っていると思う」が6.1%となっている。

<図7-6(1)、図7-6(2)>

図7-6 (1) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない

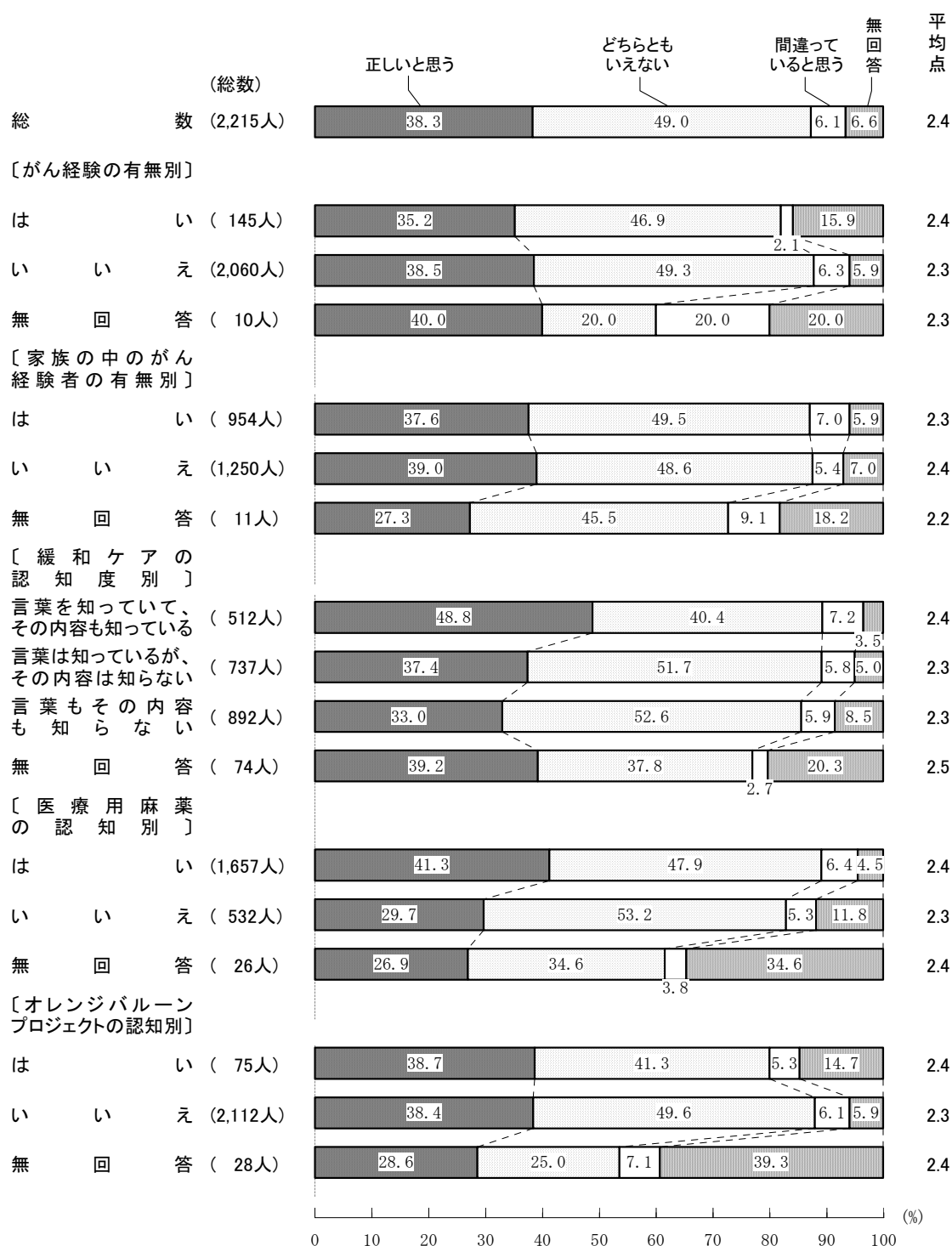


年代別にみると、「正しいと思う」が30代（32.9%）で低くなっている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「正しいと思う」が中部・北陸（34.4%）で低くなっている。

図7-6 (2) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



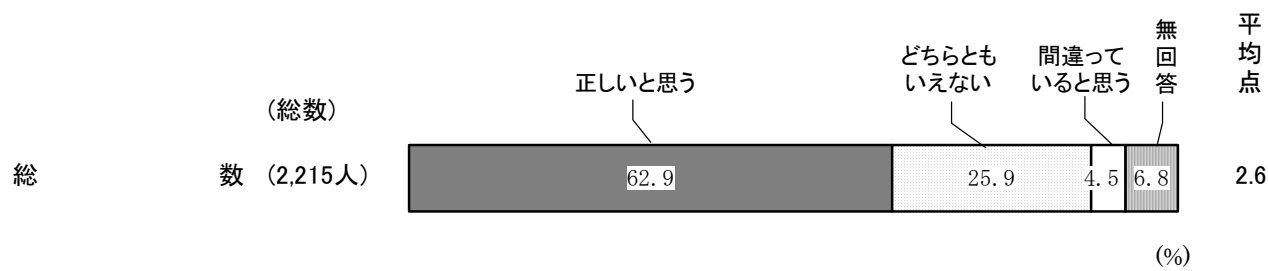
がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“その内容も知っている”（48.8%）で全体平均を10.5ポイント上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が41.3%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」の認知別では差はみられない。

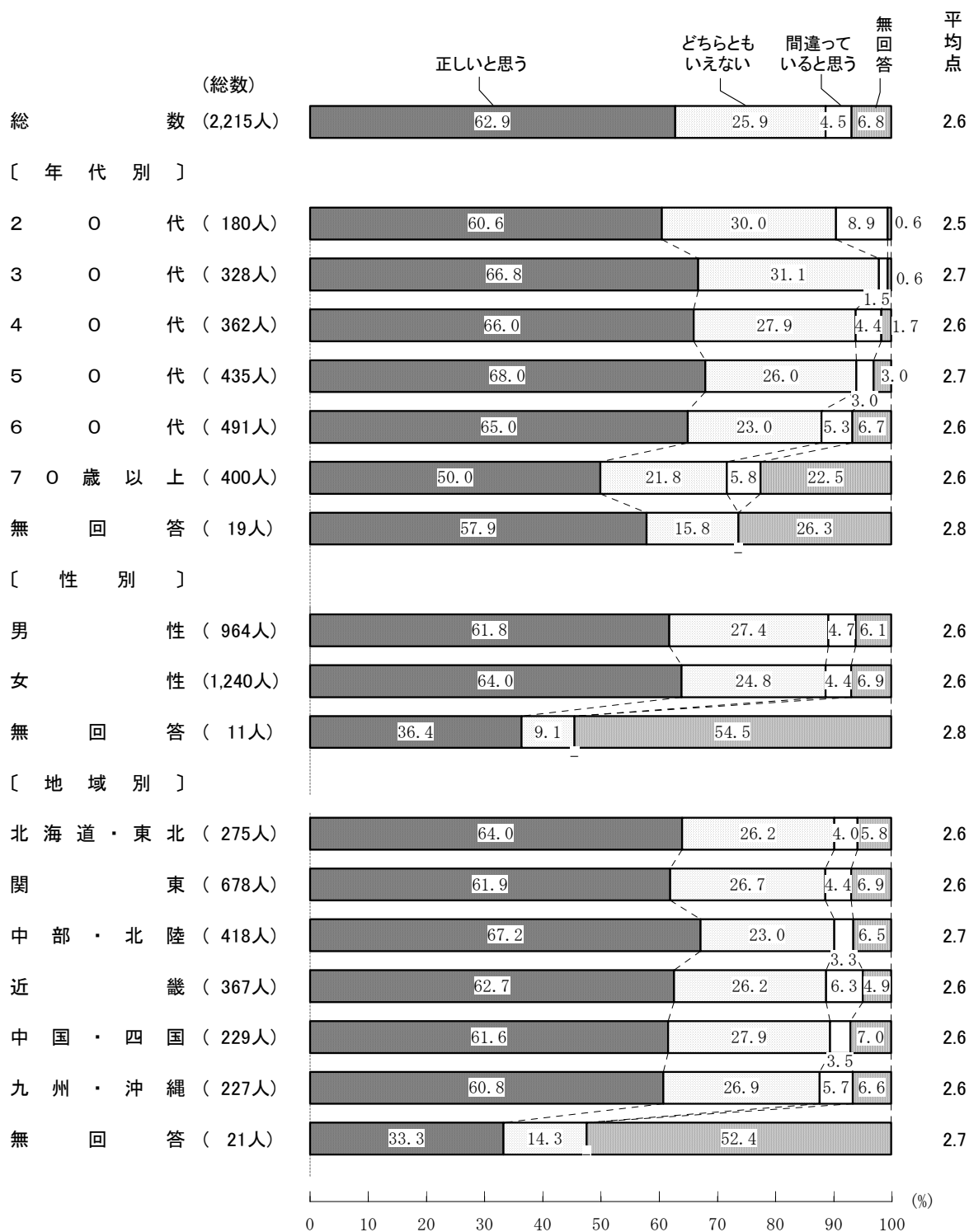
(7) キ 緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない



上記(7)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が62.9%、「どちらともいえない」が25.9%、「間違っていると思う」が4.5%となっている。

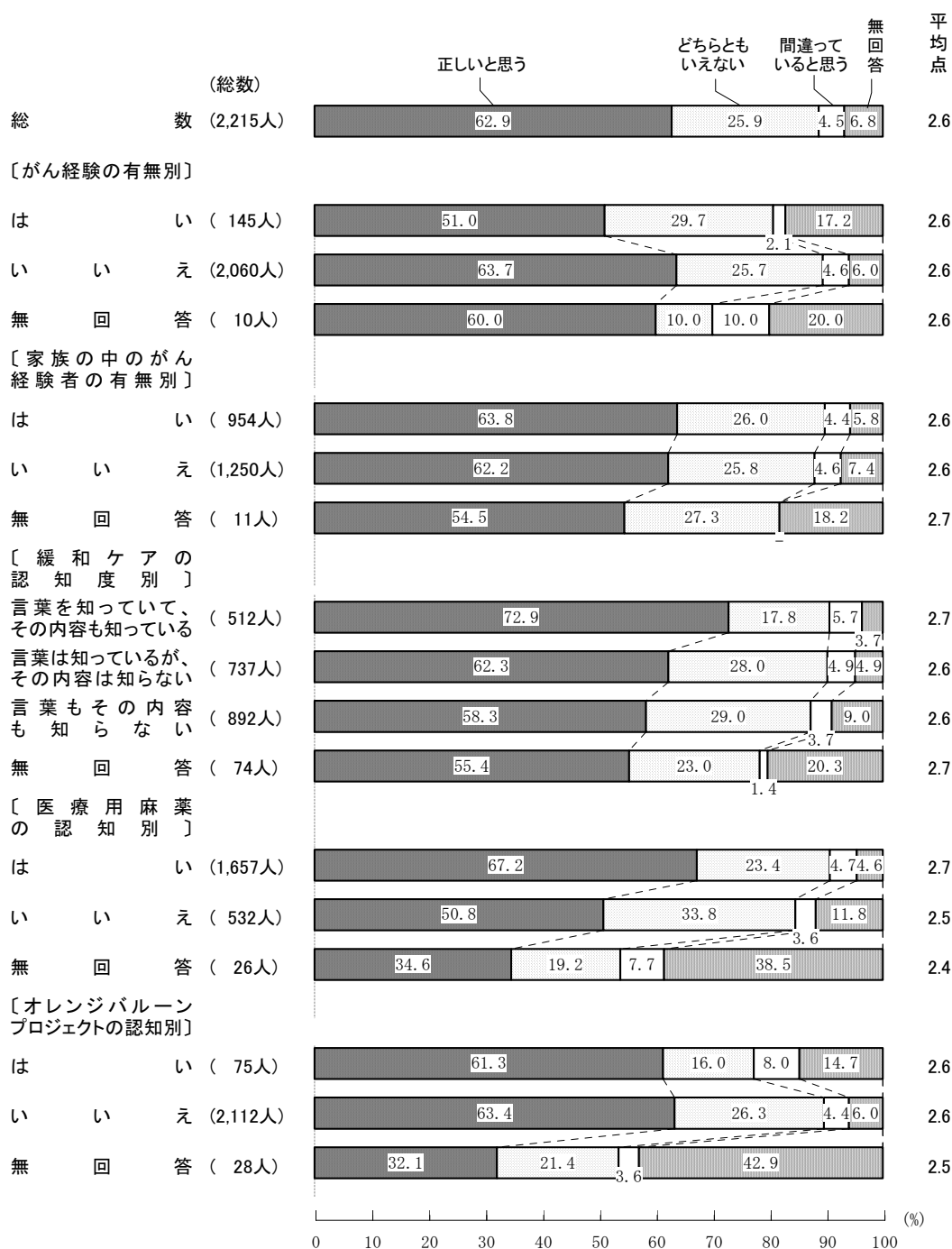
<図7-7(1)、図7-7(2)>

図7-7 (1) キ 緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない



年代別にみると、「正しいと思う」が50代（68.0%）でやや高くなっている。  
 性別では差はみられない。  
 地域別にみると、「正しいと思う」が中部・北陸（67.2%）で高くなっている。

図7-7 (2) キ 緩和ケアを受けることによって、がんの治療を受けられなくなることはない



がん経験者に限定してみると、「正しいと思う」(51.0%)が、(がん経験の)ない人より12.7ポイント低くなっている。

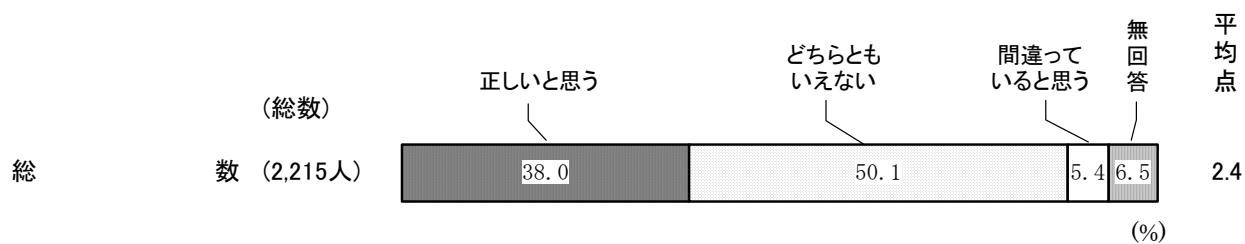
家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“内容も知っている”(72.9%)で高くなっており、全体平均を10ポイント上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が67.2%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」(61.3%)が、知らない人より2.1ポイント低くなっている。

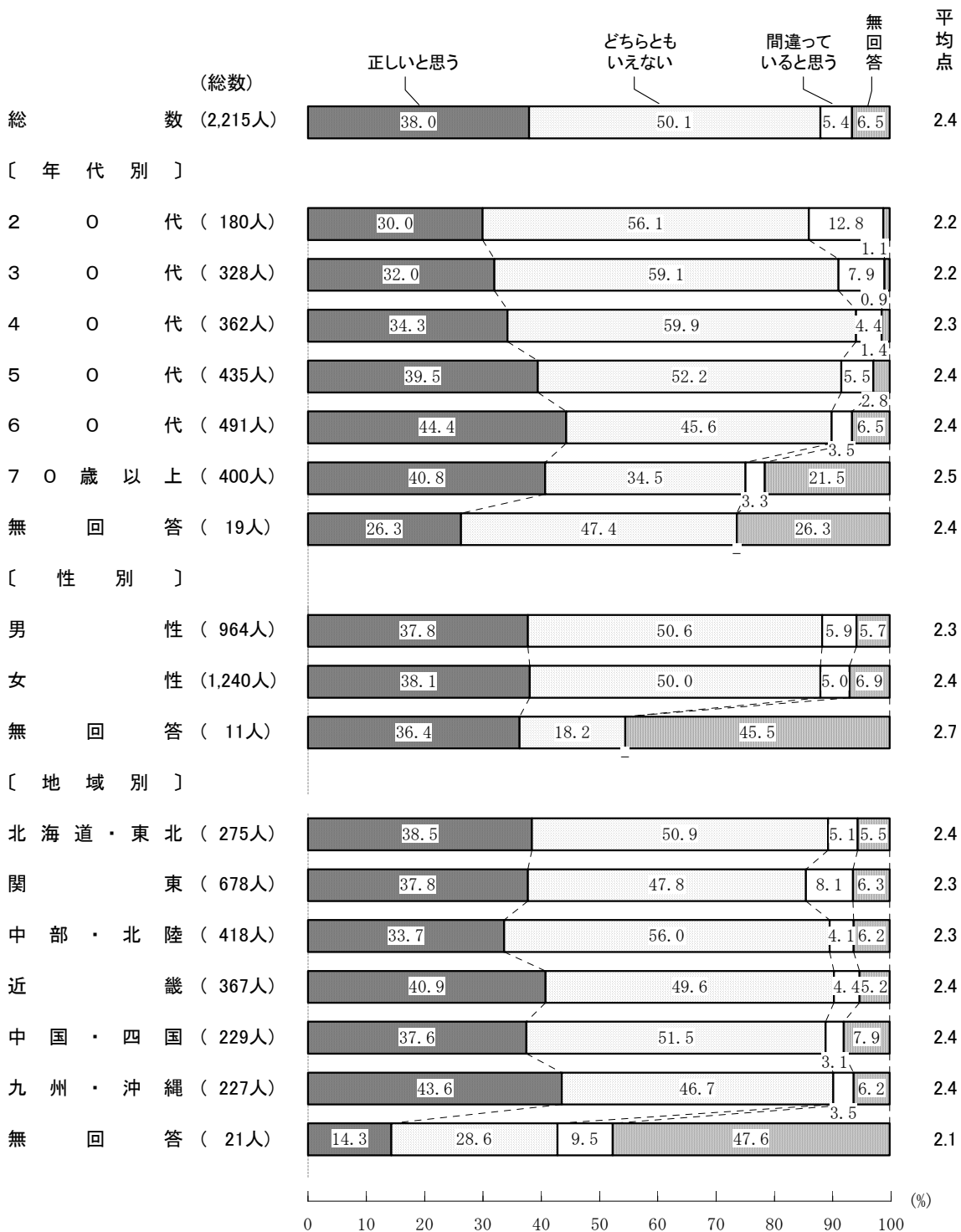
(8) ク 現在の技術では、がんの痛みの90%は薬剤によってコントロールできている



上記(8)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が38.0%、「どちらともいえない」が50.1%、「間違っていると思う」が5.4%となっている。

<図7-8 (1)、図7-8 (2) >

図7-8 (1) ク 現在の技術では、がんの痛みの90%は薬剤によってコントロールできると言われている



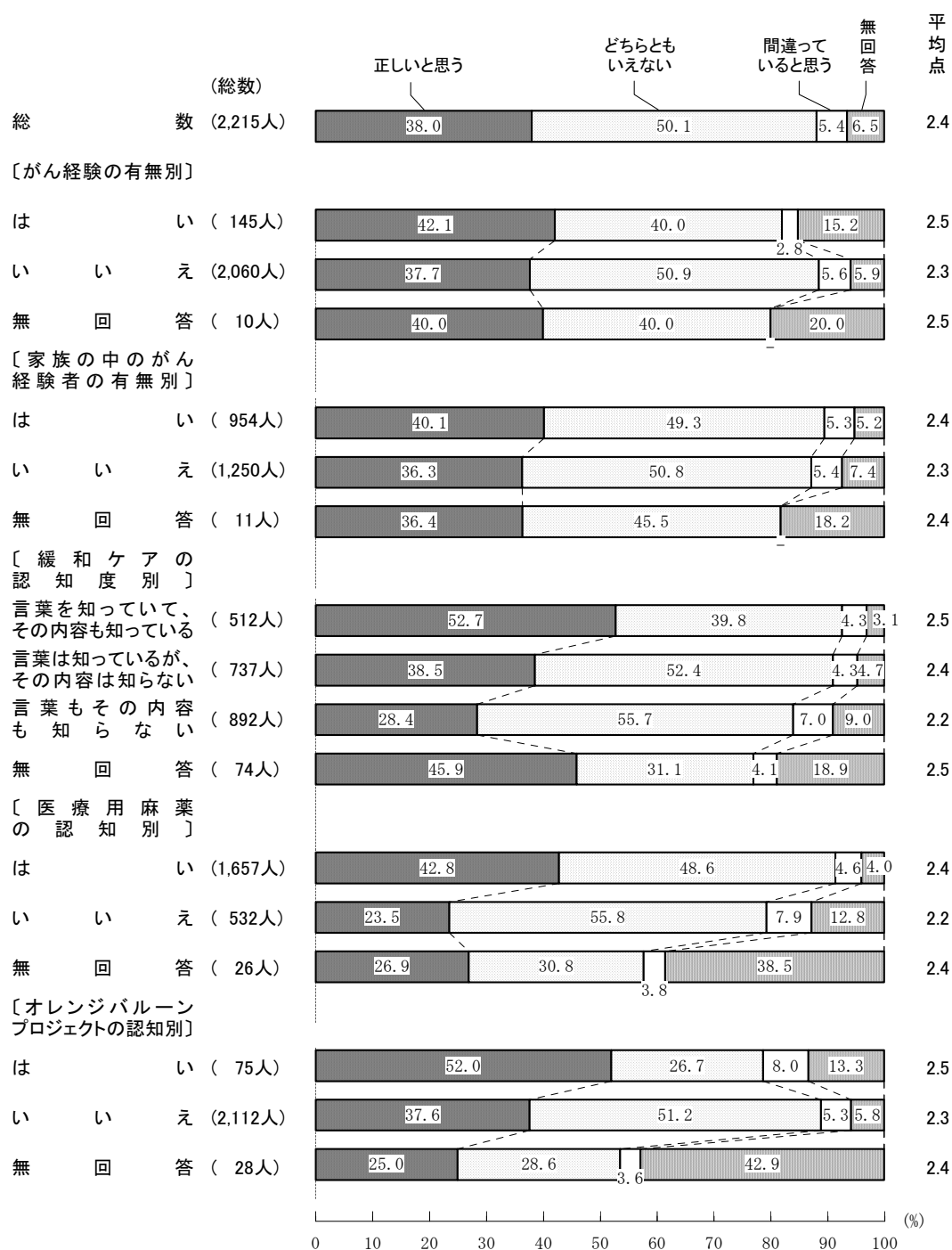
年代別にみると、年代が高くなるほど「正しいと思う」の割合が高くなっており、60代（44.4%）で高くなっている。

性別では差はみられない。

地域別にみると、「正しいと思う」が中部・北陸（33.7%）で低くなっている。



図7-8 (2) ク 現在の技術では、がんの痛みの90%は薬剤によってコントロールできると言われている



がん経験者の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

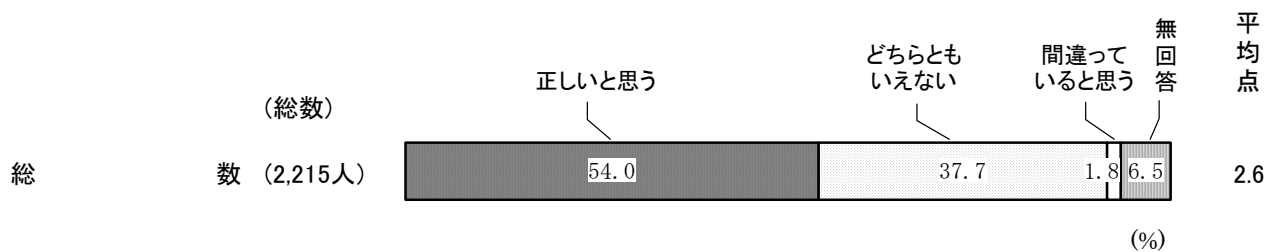
緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が「内容を知っている」で52.7%と全体平均より14.7ポイント高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が42.8%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が52.0%と高くなっている。

(9) ケ 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOL(※)は改善する  
とされている

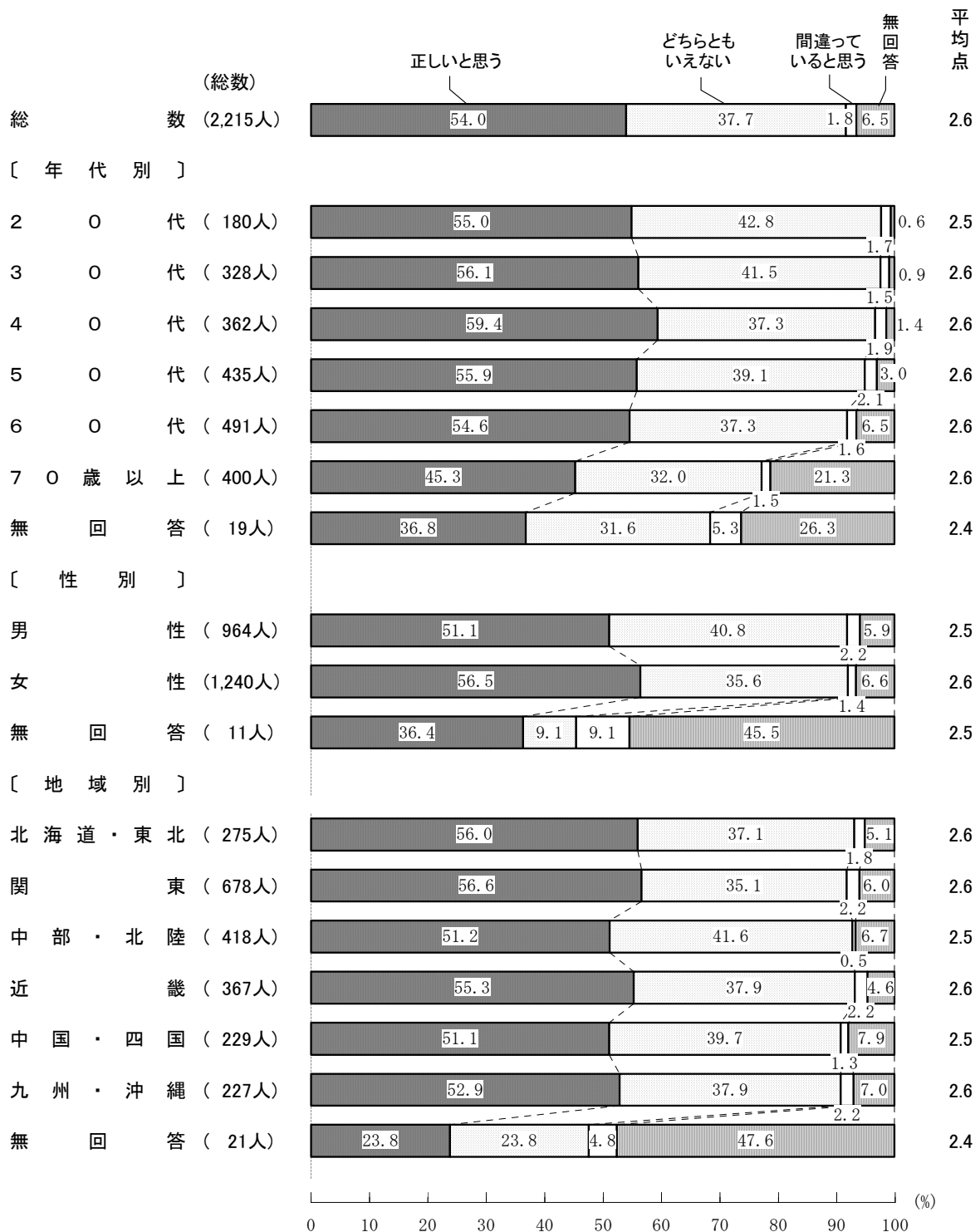
※ QOL ⇒ Quality of Life (クオリティ・オブ・ライフ) の略。生命、人生、生活の質を指す。  
いかに充実した生活を送れているかを示すもの。



上記(9)についてどう思うかきいたところ、「正しいと思う」が54.0%、「どちらともいえない」が37.7%、「間違っていると思う」が1.8%となっている。

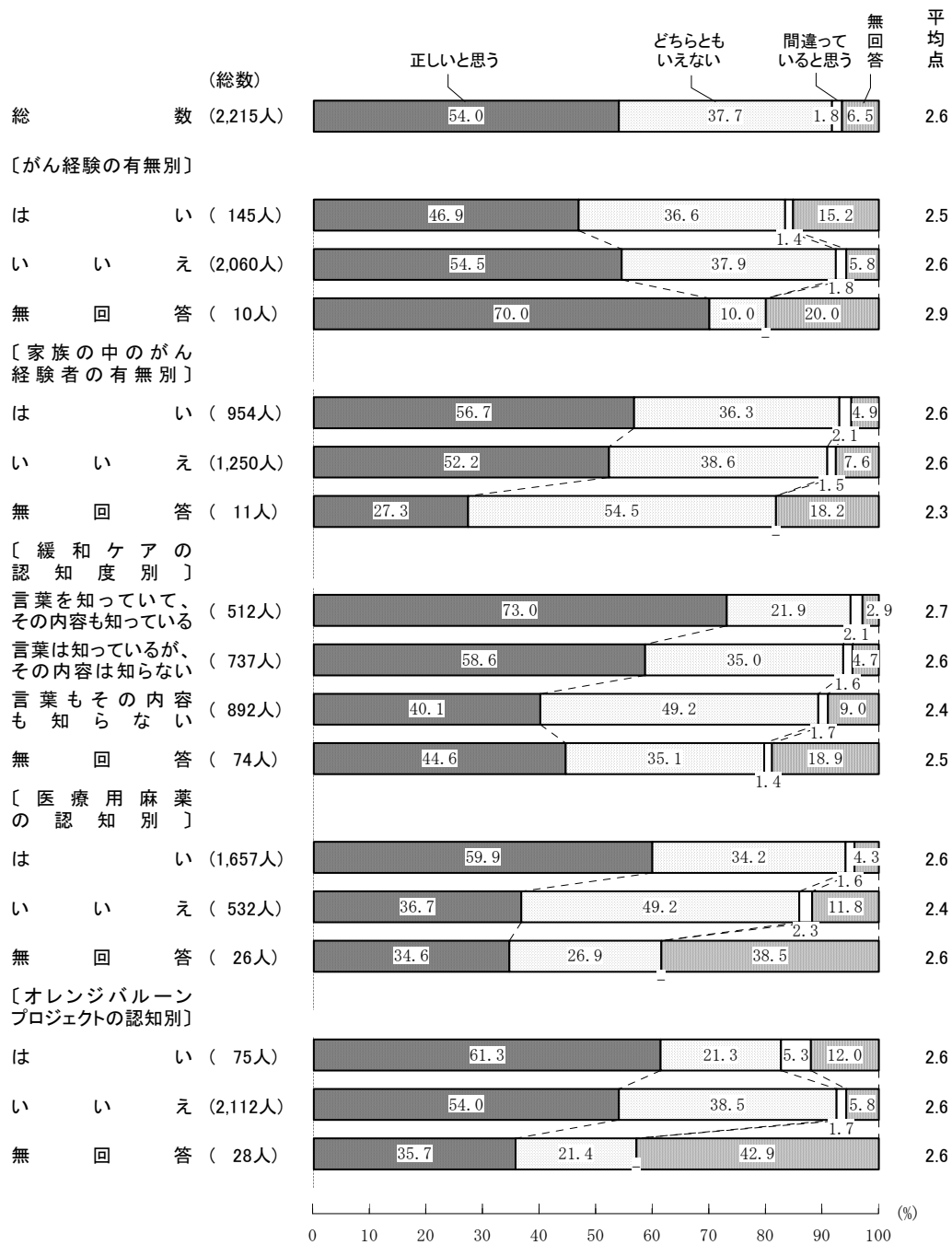
<図7-9(1)、図7-9(2)>

図7-9 (1) ケ 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善されると言われている



年代別にみると、「正しいと思う」が40代（59.4%）で高くなっている。  
性別にみると、「正しいと思う」が女性（56.5%）で高くなっている。  
地域別では差はみられない。

図7-9 (2) ケ 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善されると言われている



がん経験者に限定してみると、「はい」が46.9%で、全体平均より7.1ポイント低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「正しいと思う」が56.7%と高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「正しいと思う」が“内容も知っている”(73.0%)で高くなっており、全体平均を19ポイント上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が59.9%と高くなっている。

「オレンジバールンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「正しいと思う」が61.3%と知らない人より7.3ポイント高くなっている。

## 8 「オレンジバレーンプロジェクト」に期待すること

問8 緩和ケアを普及するための事業「オレンジバレーンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

### 問8(自由回答)の分類結果／郵送調査

回答有り 611人／集計数 2,215人中

複数回答

分類軸	内 容	回答数
OBP	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OBPのPR(周知)をもっとしてほしい！</li> <li>・OBPの周知を徹底してほしい(わかりやすく)！</li> <li>・OBPのことを知りたい。</li> <li>・OBPがあることを知る機会を作ってほしい！</li> </ul>	152
OBP	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OBPを地方(田舎)にも普及してほしい。</li> <li>・OBPを高齢者にも普及してほしい。</li> </ul>	9
OBP	<ul style="list-style-type: none"> <li>・OBPは初めて聞いた(聞いたことがなかった)。</li> <li>・OBPを知らなかった。</li> </ul>	59
OBP	よくわからない(OBPについて)。	11
OBP	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばってください。</li> <li>・期待しています。事業の発展を期待している。</li> <li>・よい活動だ。</li> <li>・活動を進めてほしい。</li> <li>・ご苦労様(お疲れ様)です。</li> </ul>	49
OBP	テレビ(CMなど)で放送してほしい。	21
OBP	OBPの名前についての注文(長い、なぜ英語か、変な名前だ等)。	4
OBP	がん告知=死 というイメージを変えるプロジェクトであってほしい。	5
OBP	公的施設、病院、職場、学校などで話を聞く(学習する)機会がほしい。	5
OBP	(その他) OBP への要望、提案、質問	26
OBP	(その他) OBP への批判、苦情、文句	3
OBP	(その他) OBP その他	3

## つづき

分類軸	内 容	回答数
緩和ケア	・緩和ケアの正しい知識の普及を(偏見がある人がいる)！ ・緩和ケアの周知、広報を！	100
緩和ケア	・緩和ケアについて知りたい。 ・緩和ケアについての情報を知りたい。 ・「緩和ケア」に関する情報をキャッチしたい。	25
緩和ケア	・緩和ケアは初めて知った。 ・緩和ケアを(よく)知らなかった。関心がなかった。	30
緩和ケア	・「緩和ケア」を受けたい(現在、もしくはがんになったら)。 ・もっと身近に「緩和ケア」を。 ・誰もが「緩和ケア」を受けられるとよい。	23
緩和ケア	・「緩和」という言葉がわかりにくい。 ・緩和ケアの名前がよくない。	5
緩和ケア	テレビ(CMなど)で放送してほしい。	13
緩和ケア	緩和ケアについて、(自治体、学校、職場などで)学習する機会がほしい。	5
緩和ケア	・医師(医療関係者)は患者に「緩和ケア」の説明をしてほしい。 ・医療用語を使わないで、「緩和ケア」というものを伝えてほしい。 ・医者の説明だけでは不安。	7
緩和ケア	・がんの痛み(苦しみ)を解消するために尽力を！ ・痛みを軽くすることが一番。 ・がん＝痛みというイメージを無くして！	33
緩和ケア	・心の緩和ケアが大切である。 ・心の痛みや不安をケアする普及をしてほしい。	32
緩和ケア	・患者の家族に対するケアやサポートが大切。 ・大切な人をがんで亡くした人へのケアを。	17
緩和ケア	・がん告知時(後)の心のケアを。 ・がんを申告されると、本人も家族も不安…。	9
緩和ケア	・患者の(緩和)ケアは家族でしたい。家族にしてほしい。 ・患者の(緩和)ケアは家でしたい。家でされたい。	4
緩和ケア	・地域差などの格差に関係なく(平等に)受けられるようにしてほしい。 ・緩和ケアの医療設備を充実してほしい、増やしてほしい。 ・近くに「緩和ケア」が受けられる施設があればよい。 ・どの医療機関でも緩和ケアが行えるようにしてほしい。	56
緩和ケア	・QOL(生活の質)の考え方は大切。 ・QOL(生活の質)の向上を！普及を！ ・終末期には安らかに過ごせるようにしてほしい。 ・がん(痛み)で苦しんでいる患者が少しでも充実した日々を過ごすことができるような配慮を望む。 ・生活レベルでできることできないことを教えてほしい。	41
緩和ケア	・(家計の)経済的負担の軽減を。 ・健康保険が使えるようにしてほしい。 ・財政的な援助を。援助が足りていない。	13
緩和ケア	(その他) 緩和ケア(に関すること) への要望、提案、質問	25
緩和ケア	(その他) 緩和ケア(に関すること) への批判、苦情、文句	4
緩和ケア	(その他) 緩和ケア(に関すること) その他	3

## つづき

分類軸	内 容	回答数
がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこに行けば(聞けば)よいのかという情報がほしい。</li> <li>・癌の専門医(病院)の情報がほしい。</li> <li>・薬や治療の情報がほしい。</li> <li>・がんについて知りたい、勉強したい。</li> </ul>	12
がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんにならないための情報を!</li> <li>・がんを未然に防いでほしい!</li> <li>・がんになる前の検診をしてほしい!</li> <li>・早期発見をしてほしい!</li> </ul>	11
がん	医療用麻薬についての要望や質問 (正しく使用できる医師を養成してほしい等)	11
がん	(医療用麻薬以外の)薬についての要望	5
がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんは告知すべき(されるべき)。</li> <li>・がんの告知について。</li> </ul>	4
がん	(自身の)がんの経験談、(自身の)がんによる辛さ	8
がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(家族の)がんの経験談、(家族の)がんによる辛さ</li> <li>・(友人の)がんの経験談、(友人の)がんによる辛さ</li> </ul>	49
がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんは怖い。</li> <li>・がん=死 のイメージがある。</li> </ul>	5
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)に関する要望、提案、質問	10
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)に関する批判、苦情、文句	2
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策) その他	3
医療全般	安楽死について(安楽死を認めてほしい 等)	3
医療全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療者の教育をしてほしい。</li> <li>・医療者が正しく理解すべき。</li> <li>・医師は勉強をしてほしい。</li> </ul>	11
医療全般	(その他)医療全般 に関する要望、提案、質問	5
医療全般	(その他)医療全般 に関する批判、苦情、文句	4
医療全般	(その他)医療全般 その他	1

つづき

分類軸	内 容	回答数
調 査 (アンケート)	アンケートの中身が難しい(緩和ケアがよくわからない)。	11
調 査 (アンケート)	アンケートは意味がない。	2
調 査 (アンケート)	・アンケートの質問についてのコメント(疑問) ・アンケートの記入についてのコメント	8
調 査 (アンケート)	・「緩和ケア調査」は役に立つ。 ・このアンケートが役に立つことを希望。	3
調 査 (アンケート)	・何で私が選ばれたのか。 ・まともなアンケートなのか(不安である)。	2
調 査 (アンケート)	返送(提出)が遅くなった。	5
調 査 (アンケート)	(その他) 調査・アンケート	3
その他	その他	2

総 計 972